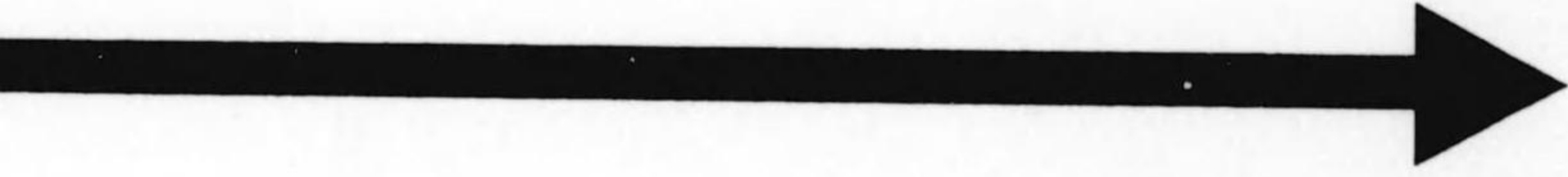


始

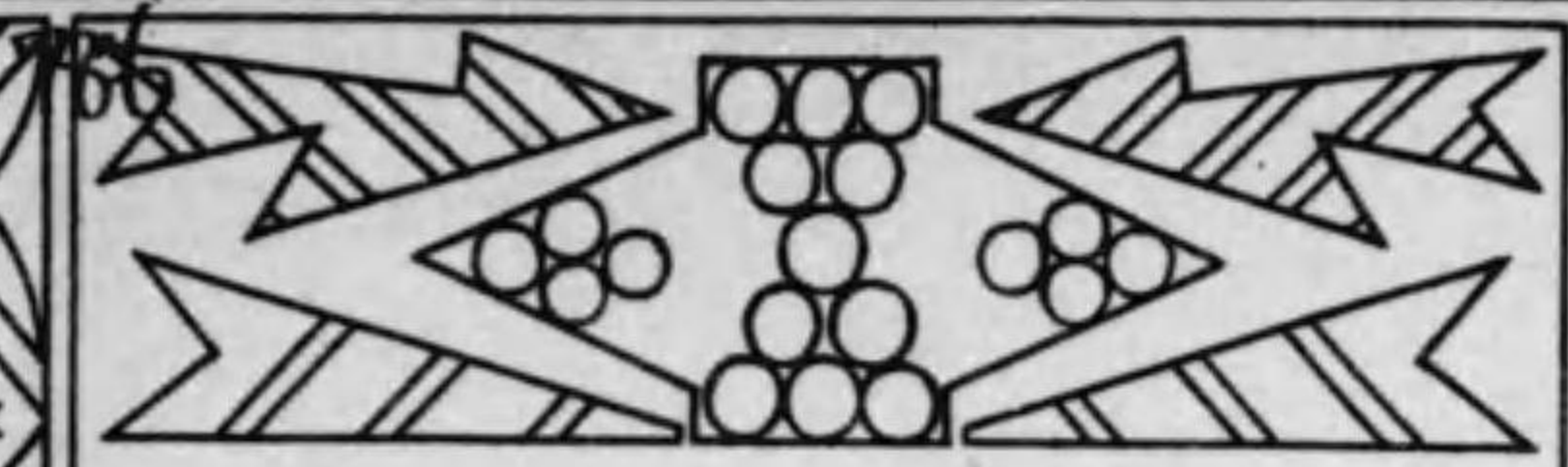


分わかりえ易いくく 英文法の研究

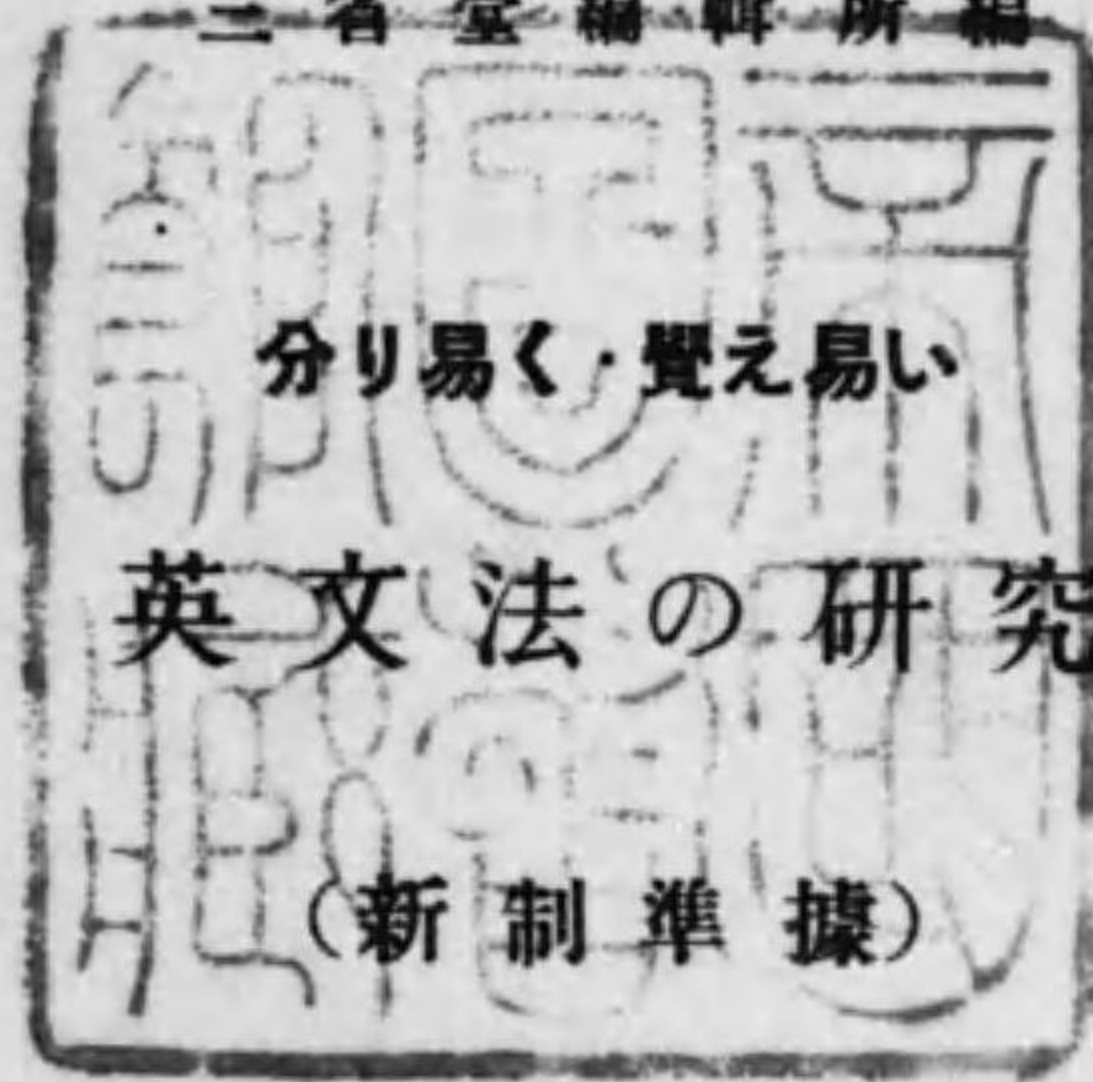


新制準據

特227



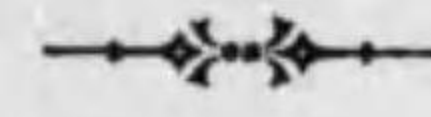
三省堂編輯所編



分り易く・覚え易い

英文法の研究

(新制準據)



は し が き

英文法は英語の一科目として、文法作文と並び稱せられるのが常であるけれども、英文法は單に英作文の助けをすることが唯一の目的ではない。英文を読む上に於ても、文法を無視しては、決してその正確なる意義を把握することは出来ない。元來英文法は、長い年月を経る間に自然に生れ出た言葉から歸納して出來た法則であるから、文法上から見れば破格と思はれるやうな英文も存在するのである。英文法の規則には殆んど例外なしに所謂「例外」なるものがあつて、極言すれば「例外」のないものは規則ではないと言つてもよい位である。この「例外」は即ち文法上破格のものを指していつたのである。しかし「例外」は「例外」として、大多數の場合に通用する規則は、矢張文法の規則として十分之を理解し、讀書の上にも作文の上にも、之を指針としなければならない。

英文法は文法上の術語を知るのが能ではない。要は文法の核心に觸れるにある。術語の如きは抑も末である。術語だけ覚えてゐてその内容を毫も解しない學生が往々ある。これは本末を轉倒してゐるのである。本書に於ては出来るだけ術語を避け、徹頭徹尾日本語を以て説明した。その説明も成るだけ管々しい長談義を

止め、分り易く覚え易いやうに、簡明にして要を得るやうに努めた。本書は『中等學生の英文法』として、學生が常に座右に備へて、讀書に作文に、その好伴侶となるやうにとの念願を以て、華を去り實を取り、新奇を尙はず寧ろ地味な行き方で、中等學生として知つてゐなければならぬ文法上の知識だけは十分に會得出来るやうにした。

英語は今や國際語として世界の各國によつて認められ、商業上の取引は勿論、外交上の折衝にも、英語は重要な役割を演ずるやうになつて來た。この時に當つて世界の檜舞臺に立つて活躍し、我が大日本帝國の國威を中外に宣揚するには、何を措いても英語を自由に驅使することが第一の必要條件である。何物にも優れる平和の武器は英語である。將來國家の中堅たるべき學生諸君の奮起を望む次第である。

編 者 し る す

目 次

	節	頁
第一章 品 詞	1—2	1
第二章 文	3—15	3
第三章 名 詞	(16—48)	
I 名詞の種類	16—23	10
II 名詞の數	24—30	14
III 名詞の人稱と性	31—39	17
IV 名詞の格	40—48	21
第四章 冠 詞	49—57	27
第五章 代名詞	(58—108)	
I 代名詞の種類	58	34
II 人稱代名詞	59—72	35
III 指示代名詞	73—75	41
IV 疑問代名詞	76—83	42
V 關係代名詞	84—98	45
VI 不定代名詞	99—108	53
第六章 形容詞	(109—144)	
I 形容詞の種類	109	61
II 代名形容詞	110	62
III 數量形容詞	111—123	62
IV 性狀形容詞	124—136	68
V 比 較	137—144	75
第七章 動 詞	(145—262)	
I 動詞の種類	145—152	80
II 動詞の活用	153—157	84
III 時形の作り方	158—166	90
IV 時形の用法	167—175	94
V 進 行 形	176—185	101
VI 態	186—196	105
VII 助 動 詞	197—209	111

	節	頁
VIII 法の種類210	121
IX 假定法211—220	121
X 命令法221—227	126
XI 變體動詞228—230	130
XII 不定詞231—237	131
XIII 分詞238—239	137
XIV 體用詞240—246	143
XV 時形の照應247—250	146
XVI 敘法251—262	149
第八章 副詞(263—281)	
I 副詞の種類263	153
II 單純副詞264—274	154
III 疑問副詞275	163
IV 關係副詞276—281	164
第九章 前置詞282—287	166
第十章 接續詞288—292	183
第十一章 間投詞293	191
第十二章 呼應法294—296	192
第十三章 語の配列297—303	195
第十四章 省略法304	201
第十五章 文の構造305—306	204
第十六章 文の要素307—312	206

分り易く 英文法の研究 覚え易い

第一章

品 詞

1. 語 (Word) は意味の最小單位で、その役目によつて八種に分れる。之を**八品詞** (Eight Parts of Speech) といふ。

(1) **名詞** (Noun)——人又は物を指す語。

[例] Fred, Mary, Japan, London, pen, dog, boy, star, water, gold, class, time.

(2) **代名詞** (Pronoun)——名詞の代用となる語。

[例] I, you, he, she, my, your, his, it, they, this, that, who, what, yourself.

(3) **形容詞** (Adjective)——名詞を修飾し又は制限してその性質、状態等を表はす語。

[例] white, young, good, Japanese, wooden, rising, many, much, all, every, one, two, some, any, first, last, next.

“a,” “an,” “the” の三は形容詞の一種であつて、特に**冠詞** (Article) といふ。

(4) **動詞** (Verb)——人又は物の動作、状態等を述べる語。

[例] go, see, run, like, get, read, sleep, am, is, are, become, have.

動詞の前に置いて之を補助する語がある。之を**助動詞** (Auxiliary Verb) といふ。

[例] do, will, can, may, must, have, be.

助動詞のついてゐる時は、一方の動詞を之と區別して**本動詞** (Principal Verb) といふ。

(5) **副詞** (Adverb)——動詞、形容詞又は他の副詞を修飾して、時、所、理由、條件、状態、程度等を表はす語。

[例] fast, there, once, always, very, too, about, bravely, when, why, how.

- (6) **前置詞 (Preposition)**——名詞又は代名詞の前に置いて、他の語との関係を表はす語。
 [例] in, on, at, before, with, by, to, of, from, under, during.
- (7) **接續詞 (Conjunction)**——語、句、文を接續する語。
 [例] and, but, or, if, as, that, when, while, though, because.
- (8) **間投詞**又は**感動詞 (Interjection)**——物に感動した時、その感情を表はす聲を寫したる語。
 [例] oh! ah! lo! alas! bravo! hurrah!

八 品 詞			
名 詞	Washington	water	school
代 名 詞	he	those	which
形 容 詞	young	cold	big
動 詞	write	speak	shall
副 詞	well	here	early
前 置 詞	through	above	into
接 續 詞	because	till	but
間 投 詞	hallo	eh	bang

2. 品詞は決して固定的のものではなく、同一の語も場合によつて異なつた品詞に用ひられる。何れの品詞に屬するかは、文中に於ける意味又は役目によつて定まるのである。

- [例] Let us **walk** more slowly. [動 詞]
 (もつと緩つくり歩ませう。)
- I **take a walk** every morning. [名 詞]
 (私は毎朝散歩します。)
- The **early** bird catches the worm. [形容詞]
 (早起は三文の得。)
- I go to bed **early** and get up **early**. [副 詞]
 (私は早く寝て早く起きます。)

- He went **up** the hill. [前置詞]
 (彼は山を上つて行つた。)
- He went **up**. [副 詞]
 (彼は上の方へ行つた。)
- He took the **up** train. [形容詞]
 (彼は上り列車に乗つた。)
- I live **near** the station. [前置詞]
 (私は停車場の近くに住んである。)
- He is my **near** relative. [形容詞]
 (彼は私の近親である。)
- Do not stand **near** while I write this letter. [副 詞]
 (私がこの手紙を書く間近寄つてはいけない。)
- That** is my dictionary. [代名詞]
 (あれは私の辭書です。)
- That** dictionary is **mine**. [形容詞]
 (あの辭書は私のです。)
- We know **that** the earth moves. [接續詞]
 (吾々は地球の動くことを知つてゐる。)
- This is all **that** he knows. [關係代名詞]
 (彼の知つてゐるのはこれだけだ。)

第二章 文

3. 語 (Word) が集まつて一の纏つた思想を表はすものを**文 (Sentence)** といふ。時としては一語のみにて文を成すこともある。文には次の四種類ある。

(1) **平叙文 (Statement)**——單に事實を叙する文。肯定と否定との別がある。

- [例] I am a **Japanese**.
 (私は日本人である。)
- London is the capital of **England**.
 (ロンドン is イギリスの首府である。)
- No sports can be more pleasant than

swimming and boating.

(水泳と漕艇ほど愉快な運動はない。)

- (2) **命令文 (Command)**—命令、禁止、願望、讓歩等を表はす文をいふ。

[例] **Make hay while the sun shines.**

(好機を逸するな。)

Read the following sentences.

(次の文を読みなさい。)

Don't be idle.

(怠けてはいけない。)

- (3) **疑問文 (Question)**—疑問を表はす文。これにも肯定と否定とがある。時には反語になることもある。

[例] **Have you a radio set?**

(君はラヂオの受信機を持つてゐるか。)

Why cannot we fly?

(何故吾々は飛ぶことが出来ないか。)

Was it not fun to run along the beach gathering driftwood for the fire?

(焚物にする 流木を集めながら濱邊を走るのは面白いことではなかつたか。)

- (4) **感歎文 (Exclamation)**—感歎を表はす文。

[例] **How it thunders!**

(まあ雷の鳴ること。)

What a grand sight it is!

(何と壯観でせう。)

How busy the markets are!

(市場は何といふ賑はしきでせう。)

4. 文にはその主題となる部分と、主題について或る事柄を述べる部分とがある。前者を**主部 (Subject)**といひ、後者を**述部 (Predicate)**といふ。

主 部	述 部
Ducks	swim.
The sea	is calm.
He	is a hard worker.
She	sang like a bird.
Most learned men	are poor.

5. 主部の中心となる主要語を**主語 (Subject Word)**といふ。主語は文の主題となる人、事物、事柄等であるから、主語となるものは名詞、代名詞、又は名詞として扱はるべき語の集團 (Group of Words) に限る。述部の中心となる主要語は**述語 (Predicate Verb)** 又は**動詞 (Verb)** といふ。動詞のみにて述部を成すこともあり、他の語の加はつて述部を成すこともある。

主 部	述 部
The sun	rises in the east.
The first day of the week	is Sunday.
My uncle	gave me this book.
He	painted the door white.
A great battle	was fought one day.

6. 動詞の中にはその動作が主語にのみ止まり、他に及ばざるものがある。之を**自動詞 (Intransitive Verb)** といふ。

[例] **Flowers bloom.**

(花が咲く。)

I go to church every Sunday.

(私は日曜毎に教會へ行く。)

The stars twinkle at night.

(星は夜きらきら光る。)

7. 動詞の動作が他に移つて行くものは、之を**他動詞 (Transitive Verb)** といひ、その動作を受ける語を**目的語 (Object)** といふ。目的語は主語とは全く別の物で、常に名詞又は代名詞である。

[例] **I bought this book yesterday.**

(私は昨日この本を買つた。)

Columbus discovered America in 1492.

(コロンブスは1492年にアメリカを発見した。)

He teaches us English.

(彼は吾々に英語を教へる。)

8. 上の最後の例に見る如く、動詞によつては**二重目的語** (Double Object) を取るものがある。「誰々に」に当たる語を**間接目的語** (Indirect Object) といひ、「何々を」に相當する語を**直接目的語** (Direct Object) といふ。

[例] The sun gives us light.

(太陽は吾々に光を與へる。)

He told me an interesting story.

(彼は私に面白い話をして呉れた。)

I will show you a beautiful picture.

(僕は君に美しい繪を見せよう。)

9. 同一の動詞も用ひ方によつて自動詞になることもあれば、又他動詞になることもある。

自 動 詞	他 動 詞
A kite flies.	I fly a kite.
The dog cannot speak.	He can speak English.
He writes very well.	I wrote him a letter.

10. 動詞の動作を受けず、たゞ動詞の意の足らざる所を補ひ、主語又は目的語の説明となる語を**補語** (Complement) といふ。補語になるものは主として名詞又は形容詞である。

[例] Time is money.

(時は金なり。)

He became an engineer.

(彼は技師になった。)

I found this novel interesting.

(この小説は読んで見ると面白かつた。)

11. 數語集まつて一の品詞に相當する働をするが、その中に主語と述語を含んでゐないものを**句** (Phrase)

といふ。文中に於ける役目によつて名詞句、形容詞句、副詞句などがある。

[例] I don't know what to do. [名詞句]

(私は何うしてよいか分らない。)

I saw a girl with blue eyes. [形容詞句]

(私は青い眼をした少女を見た。)

Your umbrella is in the corner. [副詞句]

(君の洋傘は隅にある。)

12. 文の一部でありながら、その中に主語と述語を含んでゐるものを**節** (Clause) といふ。文によつては、その中にある節が互に對等の關係にあつて、各各獨立節をなすことがある。又一の節が他の節に從屬してゐることがある。かゝる從屬節はその役目によつて名詞節、形容詞節、副詞節等に分れる。

[例] The lightning flashed and the thunder roared. [獨立節]

(電光が閃めき雷鳴がした。)

I doubt if it is true. [名詞節]

(私はそれが眞實であるかどうかを疑ふ。)

A man who values his honour will not lie.

[形容詞節]

(名譽を重んずる人は嘘を吐かない。)

The train started when the bell rang.

[副詞節]

(ベルが鳴つた時汽車が発車した。)

13. 主語、動詞、目的語、補語の四は文の主成分 (Principal Element) であつて、この四要素の配合によつて五種の形式の文が出来る。この四要素に**修飾語** (Modifier) の伴ふことがある。修飾する (Modify) といふのは、ある意味を添加するをいふ。形容詞は名詞の修飾語、副詞は動詞或は形容詞の修飾語となる。

14. 次に文の五種形式を示す。これは英文の組立の

基本となるものである。

(第一形式)

主 語	動 詞
.....ハスル

Time flies.

Rain is falling.

The big round moon was shining brightly.

この形式に属する動詞は、その動作を他に及ぼさないから、自動詞であつて目的語を要しない。又その動詞だけで叙述が完全である。随つて補語の必要もない。この種の動詞を**完全自動詞** (Complete Intransitive Verb) といふ。

(第二形式)

主 語	動 詞	補 語
.....ハ	ア ルデ
.....ハ	ナ ルト

Hans is an honest boy.

I will not become a tailor.

The weather will grow cooler.

It is getting dark.

You look very pale.

この形式に属する動詞は、主語と主語についての説明語とを連結する働をするもので、“be”と“become”とはその代表語である。この説明語は名詞或は形容詞であつて、之なくしては叙述が不完全である。この主語の説明語となつてゐる名詞或は形容詞を補語といふ。補語はたとへ名詞であつても、動詞の動作を受ける譯ではないから目的語ではない。常に主語と同一物である。この種の動詞を**不完全自**

動詞 (Incomplete Intransitive Verb) といふ。

(第三形式)

主 語	動 詞	目的語
.....ハ	ス ルヲ

A clock has two hands.

Everybody likes to travel by train.

I believe that it is true.

この形式に属する動詞は、その動作を他に及ぼす。よつて其動作を受ける目的語を必ず伴ふ。目的語は名詞又は名詞の働をする語、句、節に限る。目的語は補語とは異なり、主語とは全く別物であるを常とする。この類の動詞には補語を要しない。補語を必要としない他動詞を**完全他動詞** (Complete Transitive Verb) といふ。

(第四形式)

主 語	動 詞	間接目的	直接目的
.....ハスルニヲ

Uncle John gave me this watch.

Mr. Smith teaches us English.

The north wind will bring us frost and snow.

I told them a story.

二重目的を取る動詞は以上の外 “allow,” “ask,” “grant,” “leave,” “lend,” “offer,” “owe,” “send,” “show,” “take,” “write” などがある。

(第五形式)

主 語	動 詞	目的語	補 語
.....ハスルヲト

We call them cannivals.
 This made Polly cross.
 I shall not keep you waiting long.

この形式に属する動詞は、他動詞であるから目的語を要するが、更にその上に目的語の説明となる補語がなければ文意を盡さない。前述の第二形式の文の補語が主語の説明をなせるを併せ考るとよい。この種の動詞を**不完全他動詞** (Incomplete Transitive V(r)) といふ。

{ He is honest.
 { We think him honest.
 { The book was interesting.
 { I found the book interesting.
 { He became the ruler of Rome.
 { He made himself the ruler of Rome.

15. Clause はその中に主語と述語を含んでゐることは、前に述べた通りであるから、Clause の形式も上に挙げた文の五種形式の何れかに属するのである。

第三章

名詞

I. 名詞の種類

16. 名詞はその性質によつて次の五種類に分たれる。

- (1) **普通名詞** (Common Noun) — 一つ二つと数へることが出来、同種類のものに共通したる名稱。
 [例] country, city, boy, tree, house, ship, river, poet, month, star.
- (2) **固有名詞** (Proper Noun) — 一人又は一物に特有の名稱。

[例] France, London, Washington, Alps, Amazon, Christmas, April, Orion.

固有名詞は常に大文字を以て書き始める。

(3) **物質名詞** (Material Noun) — 形體でなく物質につけた名稱。定まつた形のないことが多い。

[例] water, gas, blood, hydrogen, gold, wood, paper, glass, smoke, flour.

一例を挙げると“bottle”は形につけた名稱であるから、之を壊すと最早“bottle”とは言へない。併し“glass”はどんなに小さく砕いても、矢張“glass”である。これは物質につけた名稱であるからである。

物質名詞の數量を表はさうとするには、別に名詞を借りて来て、“a piece of paper,” “two sheets of paper,” “a cup of tea,” “three glasses of beer,” “a loaf of bread”などといふ。

(4) **集合名詞** (Collective Noun) — 人又は物の集合體の名稱。

[例] family, fleet, crew, people, audience, class, army, team.

集合名詞は普通名詞に比べると、集團と個體との相違があるだけで、集合體でさへあれば同種類の何れにも共通の名稱であること、普通名詞と異りはない。換言すれば集合名詞は一種の普通名詞である。

(5) **抽象名詞** (Abstract Noun) — 無形の性質、動作、状態、心性等を表はす名稱。

[例] kindness, health, peace, diligence, arrival, departure, stillness, height.

17. 固有名詞は次の場合には普通名詞として用ひられる。

(1) ……といふ人。

[例] He is a Mr. Brown.

(彼はブラウンさんといふ人です。)

I saw a Smith.

(私はスミスといふ人に會つた。)

(2) ……の如き人又は物。

[例] He is the Newton of the age.

(彼は現代のニュートンともいふべき大天文学者である。)

Japan is the England of the East.

(日本は東洋の英國である。)

I wish to become an Edison.

(私はエジソンの如き大發明家になりたい。)

Alps on Alps arose in his path.

(彼の行手には幾多の困難があつた。)

(3)家。又は.....家の人。

[例] The Gordons are an old family.

(ゴルドン家は古い家柄である。)

His wife is a Gordon.

(彼の妻はゴルドン家の出である。)

(4)の作品。

[例] Please lend me your Webster.

(君のウェブスター辞典を貸して下さい。)

18. 物質名詞が普通名詞になる場合。

(1) 種類。

[例] This is an excellent wine.

(これは優良葡萄酒である。)

They sell various tobaccos at that shop.

(あの店では色々の煙草を賣つてゐる。)

(2) 製品。

[例] There are five glasses on the tray.

(盆の上にコップが五つ載つてゐる。)

An iron was on the fire.

(火熨斗が火の上に載せてあつた。)

This bag is full of coppers.

(この袋には銅貨が一杯入つてゐる。)

19. 抽象名詞が普通名詞になる場合。

(1) 行爲の實例。

[例] He has done me many kindnesses.

(彼は私に色々親切を盡してくれた。)

He made an eloquent speech.

(彼は雄辯な演説をした。)

(2) 行爲の結果。

[例] His writings are full of humour.

(彼の文はユーモアに富んでゐる。)

He showed me a composition written by his brother.

(彼は兄の書いた作文を私に見せた。)

(3) 性質又は状態の所有者。

[例] She was a great beauty in her day.

(彼女は若い頃は非常な美人であつた。)

The Powers are consulting about the affair.

(列強はその件について協議してゐる。)

(4) 性質又は状態の種類又は實例。

[例] These are the seven wonders of the world.

(これ等は世界の七不思議である。)

Teaching is an art.

(教授は一の技術である。)

It is a thousand pities.

(遺憾千萬。)

20. Noun of Multitude. 集合名詞が集合體を指さないでその集合體を組成してゐる個體を指す時は之を衆多名詞といふ。

集合名詞は集合體を指すだけで、普通名詞と異なるどころなく、之に續く動詞も單數でよいのであるが、衆多名詞は形は單數の儘で複數として取扱ふ、随つて之に續く動詞は複數でなければならない。

[例] The jury consists of twelve persons. (集)

(陪審員は十二名より成つてゐる。)

The jury were divided in their opinions. (衆)

(陪審員は意見が分れた。)

The French are a polite people. (集)

(フランス人は禮儀正しい國民である。)

People say that he is rich. (衆)

(彼は金持だと世人が言つてゐる。)

My family is a large one. (集)

(私の家族は大家族である。)

My family are all well. (衆)

(私の家族は皆丈夫である。)

21. 普通名詞は抽象名詞となることがある。

[例] **The pen is mightier than the sword.**
 (筆は剣よりも強し——文の力と武の力との比較。)

22. 抽象名詞は固有名詞となることがある。之を擬人法 (Personification) といふ。この場合には固有名詞と同じく大文字で書き初める。

[例] **He is the favoured child of Fortune.**
 (彼は運命の寵兒である。)

23. 抽象名詞の特別用法。

- (1) **He is all kindness to me.**
 (=extremely kind.)
She was all life and gladness.
 (=extremely lively and glad.)
- (2) **He is avarice itself.**
 (=an incarnation of avarice.)

II. 名詞の數

24. 普通名詞、集合名詞は一つ二つと數へることが出来る。かやうな名詞は一箇を指すか、二箇以上を指すかによつてその形を異にしてゐる。この變化を數 (Number) といふ。一箇を指す形を單數 (Singular Number) といひ、二箇以上を指す形を複數 (Plural Number) といふ。

25. 複數の作り方。

- (1) 語尾に **s** をつける。
 [例] **book books tree trees**
dog dogs monkey monkeys
- (2) **s, sh, ch, x** で終る語には **es** をつける。
 [例] **glass glasses church churches**
dish dishes box boxes
- (3) **o** で終る語には **es** をつける。
 [例] **hero heroes negro negroes**
volcano volcanoes echo echoes

[例外]

piano pianos photo photos

(4) 子音+y にて終る語は y を i に變へて **es** をつける。

[例] **city cities army armies**
lady ladies lily lilies

[比較]

boy boys day days
key keys chimney chimneys

(5) **f, fe** で終る語は之を **ves** とする。

[例] **knife knives leaf leaves**
life lives wife wives

[例外]

roof roofs safe safes
handkerchief handkerchiefs

(6) 不規則なもの。

[例] **man men woman women**
tooth teeth foot feet
goose geese mouse mice
ox oxen child children

(7) 單複同形のもの。

[例] **deer, sheep, carp, salmon.**

(8) 複合名詞は主要語を複數にする。

[例] **looker-on lookers-on**
passer-by passers-by
brother-in-law brothers-in-law
man-of-war men-of-war
knight-errant knights-errant
maid-servant maid-servants

[例外]

man-servant men-servants
woman-servant women-servants

(9) 外來語の複數。

[例] **memorandum (覺書) memoranda**
medium (媒介) media
stratum (地層) strata
focus (焦點) foci
genius (鬼神) genii
terminus (終點) termini

radius	(半徑)	radii
formula	(公式)	formulae
basis	(基礎)	bases
oasis	(オアシス)	oases
phenomenon	(現象)	phenomena

26. 常に複数形を用ふるもの。

(1) 同一の二部分より成るもの。

[例] drawers (股引), tongs (火箸), scissors (鋏), spectacles (眼鏡).

これ等の名詞の数をあらはさうとする時には前に a pair of, two pair of をつける。

(2) 其の他。

[例] arms (武器), ashes (灰), riches (富), savings (貯金), thanks (感謝).

27. 複数形ではあるが単数として扱はれるもの。

(1) 學問の名。

[例] mathematics (數學), physics (物理學), ethics (倫理學).

(2) 其の他。

[例] This is a happy news.

(これは吉報だ。)

The United States of America has a large population.

(アメリカ合衆國は大なる人口を有してゐる。)

28. ある名詞は二種の複数形を有し、夫々意義を異にしてゐる。

[例]

brother	{ brothers	(兄弟)
	{ brethren	(同胞)
cloth	{ cloths	(反物)
	{ clothes	(着物)
genius	{ geniuses	(天才)
	{ genii	(鬼神、守護神)
staff	{ staves	(杖)
	{ staffs	(幕僚)

shot	{ shot	(散彈)
	{ shots	(射撃)

29. 複数になつて特別の意義を生ずるもの。

[例]

customs	{ 1. 習慣
	{ 2. 關稅

colours	{ 1. 色
	{ 2. 軍旗

letters	{ 1. 字母
	{ 2. 手紙
	{ 3. 文學

manners	{ 1. 方法
	{ 2. 作法

parts	{ 1. 部分
	{ 2. 才能

spectacles	{ 1. 光景
	{ 2. 眼鏡

30. 複合形容詞 (Compound Adjective) の中にある普通名詞は、元來複数となるべきものであつても複数にしないのが常である。

[例] This is an eight-day clock.

(これは八日巻の時計である。)

I have a three-foot measure.

(私は三尺ざしを持つてゐる。)

He gave me a ten-dollar note.

(彼は私に十弗の紙幣を呉れた。)

[比較]

It took me eight days to finish this.

(これを仕上げるのに八日かゝつた。)

This book-case is three feet wide.

(この本箱は幅が三尺ある。)

He gave me ten dollars.

(彼は私に十弗呉れた。)

III. 名詞の人稱と性

31. Person. 名詞が話す人自身を表はす時は之を

第一人稱 (First Person) といひ、話相手となる人を表はす時は之を**第二人稱** (Second Person) といひ、話題に上される人又は物を表はす時は之を**第三人稱** (Third Person) といふ。この區別を表はすことを**人稱** (Person) といふ。代名詞にはこの區別を明瞭に表はす特殊のものがあるが、名詞にあつてはこの區別を表はす形の上の差別はなく、唯だ意味上區別をするだけである。名詞は特別の場合の外は常に**第三人稱**である。

- [例] We Japanese are patriotic. [第一人稱]
 (吾々日本人は愛國心に富んでゐる。)
 You, Thomas, broke the window. [第二人稱]
 (トマスお前は窓を壊した。)
 Charles, come here. [第二人稱]
 (チャールズここへお出で。)
 The lion was saved. [第三人稱]
 (獅子は救はれた。)
 This novel sells well. [第三人稱]
 (この小説はよく賣れる。)

32. Gender. 性による區別を Gender といふ。男性を表はす名詞、女性を表はす名詞、無性を表はす名詞の區別があつて、この三者を夫々**男性** (Masculine Gender), **女性** (Feminine Gender), **中性** (Neuter Gender) といふ。尙ほ男女兩性に通じて用ひられる名詞がある、之を**通性** (Common Gender) といふ。

- [例] father, son, boy, ox. [男性]
 mother, daughter, girl, cow. [女性]
 tree, book, star, pen. [中性]
 parent, child, friend, cat. [通性]

33. 男性と女性の區別を表はす變化に三通りある。

- (1) 別の語を用ひて。

	(男性)	(女性)
[例]	boy	girl
	brother	sister
	bull (or ox)	cow
	cock	hen
	father	mother
	husband	wife
	uncle	aunt
	nephew	niece
	king	queen
	monk	nun
	lord	lady
	gentleman	lady
	sir	madam

(2) 語尾變化によりて。

	(男性)	(女性)
[例]	god	goddess
	heir	heiress
	baron	baroness
	viscount	viscountess
	count	countess
	marquis	marchioness
	prince	princess
	emperor	empress
	master	mistress
	hero	heroine
	doctor	doctress
	actor	actress
	waiter	waitress
	lion	lioness
	tiger	tigress
	bridegroom	bride
	widower	widow

(3) 性を示す語を添へて。

	(男性)	(女性)
[例]	man-servant	maid-servant
	salesman	saleswoman
	he-goat	she-goat

peacock	peahen
cock-sparrow	hen-sparrow
landlord	landlady
washerman	washerwoman
male-cousin	female-cousin
male animal	female animal
Mr. Smith	Mrs. Smith

34. 通性として用ひられる名詞の例を次に挙げる。

- [例] parent—father 又は mother.
 relation—親戚。
 friend, enemy—味方、敵。
 cousin—従兄弟姉妹。
 bird, fowl—cock 又は hen.
 child—boy 又は girl.
 deer—stag 又は hind.
 person—man 又は woman.
 sheep—ram 又は ewe.

35. 通性名詞のみあつて男女の性を區別する名詞の缺けたもの。前節に挙げた relation, friend, enemy, cousin の外、下の如きものがある。

- [例] reader traveller
 citizen nurse
 speaker visitor

36. 男女の性を區別する名詞がありながら、通性名詞の缺けてゐるものもある。

- [例] uncle, aunt. master, mistress.
 nephew, niece.

37. 男女性名詞はあるけれども性を區別する必要のない場合には、男性或は女性の名詞が通性の代用をする。

- [例] dog, duck, horse, goose, bee, colt, man.
 A *goose* is much bigger than a *duck*.
 (鶯鳥は家鴨よりずっと大きい。)

38. 擬人法に於ける性。

- (1) 男性として扱ふものは、強大なるもの、優越せるもの。

[例] Sun, War, Mountain, River, Wind, Ocean, Anger, Death, Summer, Winter.

- (2) 女性として扱ふものは、弱小なるもの、優美なるもの。

[例] Moon, Peace, Lake, Earth, Mercy, Hope, Truth, Fame, Spring, Modesty.

39. 性に關するその他の注意。

- (1) 國名はその國土を指し、地理上のことをいふ時には中性とし、國家又は國民として見る時は之を女性として扱ふ。

Switzerland is noted for its scenery.

(スキスはその景色で有名である。)

Japan took up arms against her enemy.

(日本はその敵に對して干戈を取つた。)

- (2) 船は女性として扱ふ。

The ship went down with all her crew on board.

(船は全乗組員諸共沈没した。)

- (3) **Child** と **baby** は代名詞に **it** を用ふ。

The baby has a toy in its hand.

(赤ん坊は手に玩具を持つてゐる。)

- (4) **Every one, some one** は特別の場合の外は男性とす。

Some one has left his stick.

(誰かステッキを置いていつた。)

Everyone has his own fault.

(誰でも缺點のない者はない。)

IV. 名 詞 の 格

40. 名詞が文の中の他の語に對する關係を格 (Case)

といふ。格に三種ある。

- (1) 主格 (Nominative Case)
 (2) 所有格 (Possessive Case)
 (3) 目的格 (Objective Case)

主格と目的格とは同形で特別に變化をしない、名詞

その儘でよい。特別の形を有するのは所有格だけである。

41. 主格となる場合。

(1) 文の主語としてその主題を示す時。

[例] **Boys are always wishing to be men.**

(少年は大人になりたいと常に望んでゐる。)

Time flies like an arrow.

(光陰は箭の如し。)

(2) 主格補語として主語の説明となる時。

[例] **This stone is a ruby.**

(この石は紅玉石である。)

He was elected president.

(彼は總裁に選舉された。)

(3) 呼びかけ (Vocative) の語となる時。

[例] **Gentlemen, I want to call your attention to this fact.**

(諸君、私はこの事實に諸君の注意を喚起したい。)

Come on, boys!

(さあ來た、皆の者。)

(4) 主格の名詞と同格の時。ある名詞を説明せんがために、之と同一人又は同一物を表はす他の名詞を添へることがある。この添加した名詞を**同格名詞**(Appositive Noun 又は Noun in Apposition) といふ。

[例] **Mr. Smith, the clergyman, was present.**

(牧師のスミス氏も出席した。)[主語と同格]

Mr. Hoover has become the president, the head of the administration of the United States. [主格補語と同格]

(フーヴァー氏は大統領即ち合衆國の行政長官となつた。)

42. 目的格となる場合。

(1) 動詞の目的となる時。

[例] **I saw the dog swim.**

(私はその犬の泳ぐのを見た。)

He gave my brother this picture.

(彼は私の弟にこの繪を呉れた。)

(2) 前置詞の目的となる時。

[例] **He is respected by the students.**

(彼は學生に尊敬せられる。)

I swim in the sea.

(私は海で泳ぐ。)

(3) 目的補語となる時。

[例] **They elected him an M. P.**

(彼等は彼を代議士に選舉した。)

People thought the man a coward.

(世人は彼を卑怯者と思つた。)

(4) 同族目的となる時。自動詞は時として之と同義又は同様の名詞を目的に持つことがある。之を**同族目的**(Cognate Object) といふ。

[例] **They ran a race.**

(彼等は競走をした。)

They laughed a hearty laugh.

(彼等は心から笑つた。)

He lived a happy life.

(彼は幸福な一生を送つた。)

(5) 同格名詞の時。

[例] **I saw John the miller.**

(私は粉屋のジョンに會つた。)

He lives with Edward the blacksmith.

(彼は鍛冶屋のエドワードの家にある。)

(6) 副詞相當名詞の時。名詞或は修飾語のある名詞が前置詞を伴はずして、それだけで副詞の役をする時、之を**副詞相當名詞**(Adverbial Objective) といふ。これは時間、距離、手段、方法、模様、數量、度合等を示す時に限るのである。

[例] **We have waited years for this reform.**

(吾々は年來この改革を待つてゐた。)

He walked three miles.

(彼は三哩歩いた。)

This is an inch too long.

(これは半インチ長過ぎる。)

I will stay a short time.

(私は暫時足を留めよう。)

Turn your eyes **this way**.
 (こちらに眼を向けなさい。)
 This is a **great deal bigger**.
 (この方はずっと大きい。)

43. 所有格の時に限り名詞の語尾に“'s” (Apostrophe s) をつける。所有格は通例所有者を表はすから名づけられるのである。

[例] **Robert's hat.** (ロバートの帽子)
Ned's father. (ネッドの父)
father's watch. (父の時計)
a dog's tail. (犬の尾)
a child's apron. } (小児のエプロン)
children's aprons. }

但し s で終る複数名詞には (') のみをつける。

[例] **a girls' school.** (女学校)
boys' caps. (男児の帽子)
ladies' parasols. (婦人の日傘)
girls' toys. (女兒の玩具)
horses' tails. (馬の尾)

44. 複合名詞又は語の集團の所有格及び二人以上の共有を示すには、最後の語に 's を付ける。

[例] **Queen Elizabeth's reign.**
 (エリザベス女王の治世)
my brother-in-law's house. (義兄の家)
the King of England's castle. (英王の居城)
 This is **Tom and Henry's ball.** [共同所有]
 (これはトムとヘンリー共有のボールです。)
Both Tom's and Henry's balls are new.
 [個別所有]
 (トムのボールもヘンリーのボールもどちらも新しい。)

45. 所有格の意味。

- (1) 所有者。
John's book. (ジョンの本)
Henry's knife. (ヘンリーの小刀)
- (2) 著者。

Tennyson's poems. (テニソンの詩)
Stevenson's novels. (スティーヴンソンの小説)

- (3) 発明者。
Edison's phonograph. (エジソンの蓄音機)
Marconi's wireless telegraphy.
 (マルコニーの無線電信)

- (4) 使用の目的。
a girls' high school. (高等女学校)

- (5) 主格関係。
father's speech. (父の演説)
Caesar's death. (シーザーの死)

- (6) 目的関係。
He came to my mother's rescue.
 (彼は私の母の救助に来てくれた。)
The boy's murderer was arrested at once.
 (少年殺しは直ちに捕った。)

46. 所有格の用法。

所有格は人と動物にのみ用ふるのは普通であつて、無生物には之を用ひない。無生物には前置詞“of”を用ひて此の関係を表はす。人と動物の場合にはこの“of”を用ひることも出来る。

[例] **a man's face=the face of a man.** (人の顔)
a cat's tail=the tail of a cat. (猫の尾)
the cover of a book. (本の表紙)
the legs of a table. (卓子の脚)

人及び動物以外の名詞を所有格になし得る場合は次の通り。

- (1) 擬人された物。
Fortune's favourite. (運命の寵兒)
Sorrow's tears. (悲哀の涙)
Japan's ambition. (日本の野心)
the world's history. (世界の歴史)
- (2) 時日、價格、距離、重量。
to-day's newspaper. (今日の新聞)
yesterday's examination. (昨日の試験)
three weeks' leave. (三週間の賜暇)

- a day's journey. (一日の旅行)
 ten cents' worth of bread. (十仙だけのパン)
 a hundred yards' distance. (百ヤードの距離)
 a boat's length. (一艇身の長さ)
 a stone's throw. (石を投げると届く位の距離)
 a hair's breadth. (間一髪)
 two pounds' weight. (二ポンドの重さ)
 a ton's weight. (一噸の重さ)
- (3) 威厳ある天然物。
 the sun's rays. (太陽の光線)
 the ocean's roar. (大洋の怒號)
 nature's works. (自然の作用)
 heaven's will. (天の意志)
 the mind's eye. (心の眼)
 truth's triumph. (真理の勝利)
- (4) 慣用句。
 out of harm's way. (危きに近よらない)
 at his wit's end. (途方に暮れて)
 for mercy's sake. (後生だから)
 to his heart's content. (思ふ存分)
 at his fingers' ends. (精通して)
 his journey's end. (目的地)

47. 所有格の後に名詞の省略。

- (1) 名詞の反復を避けるため。
 This umbrella is my brother's.
 (この傘は僕の弟のだ。)
 Charles's was a noble nature.
 (チャールズの氣立は高潔だ。)
- (2) 建築物の省略。
 St. James's (Palace). (聖ゼームズの宮殿)
 St. Paul's (Cathedral). (セント、ポール寺院)
 St. Luke's (Hospital). (聖路加病院)
 my uncle's (house). (伯父の家)
 the barber's (shop). (床屋の店)
 the bookseller's (store). (本屋の店)

48. "A," "an," "this," "that," 等と共に所有格を用ひる場合。

- a friend of my sister's (姉の一友)
 this hat of my father's. (父のこの帽子)
 that coat of my brother's. (兄のあの上衣)

英語では this motor-car と my uncle's motor-car との二文を一つに纏めて this my uncle's motor-car 又は my uncle's this motor-car といふことが出来ない。この二文を一つに續けていふ時は是非とも上の例に見る如く this motor-car of my uncle's といはなければならぬ。

第四章

冠詞

49. 冠詞 (Article) の中 "a," "an" の二は共に形容詞 one の轉訛したもので不定冠詞 (Indefinite Article) といふ。a は子音で始まる語の前に附し、an は母音で始まる語に冠する。

- [例] a student, a house, a big dog.
 an apple, an eagle, an old man.

上の區別は眼に映じた文字によるのではなく、耳に響く音によるのである。従つて母音字であつても發音上子音が初にある時は a を冠し、子音字であつてもそれが響かなかつたり、又は母音に始まる音に發音する時は an を冠する。

- [例] a university, a one-eyed hero, a useful animal.
 an hour, an honest boy, an M. P.

50. 不定冠詞は單數の普通名詞と集合名詞に冠するのが原則で、日本語では必ずしも「一つの」といふ意味を表はさない時でも之を冠せねばならない。従つて日本語に譯さないのが普通である。

- [例] A cow is a useful animal.
 (牛は有用なる動物である。)

Japan has a large standing army.
(日本は大きい常備軍を有してゐる。)

51. 不定冠詞の用法。

- (1) “any” (どれでも)。
A dog is a faithful animal.
(犬は忠實な動物である。)
A lion is the king of beasts.
(獅子は百獣の王である。)
- (2) “one” (一つの)。
A stitch in time saves nine.
(時を得た一針は後の九針の手間を省く。)
[一寸の綻も打捨て、置けばすぐ一尺になる。]
He will come home in a day or two.
(彼は一兩日すれば帰宅するだらう。)
- (3) “per” (……につき)。
The postman calls twice a day.
(郵便配達は一日に二度来る。)
You shall be paid twenty shillings a week.
(君には一週に二十志の給料を拂はふ。)
- (4) “the same” (同じ)。
Birds of a feather flock together.
(類を以て集まる。)
They are of an age.
(彼等は同年輩である。)
- (5) “a certain” (ある、……といふ方)。
Once upon a time there lived an old man.
(昔むかしお爺さんがあつたとさ。)
A Mr. Jones called on you during your absence.
(ジョーンズさんといふ方が御留守中に参りました。)

52. 不定冠詞の位置は名詞に修飾語ある時はその前にあるのが常であるけれども、然らざる場合もあつて注意しなければならない。

John is a boy.
John is an honest boy.
John is a very honest boy.

What an honest boy he is!
How honest a boy he is!
I never saw such an honest boy.
I never saw so honest a boy.
Have you seen as honest a boy as he is?
He is too honest a boy to tell a lie.
There is many an honest boy in our school.

53. 冠詞 “the” は形容詞 that から轉訛したもので定冠詞 (Definite Article) といふ。單數複數何れの名詞の前にも附し、指示の意味が強い。子音の前では [ðə]、母音の前では [ði] と發音する。

[例] the dog(s), the house(s), the university(-ies),
the orange(s), the honour(s), the old man(men).

54. 定冠詞の用法。

- (1) 既出名詞の前。
There is a boat. The boat has no sail. It is a rowing-boat. (小舟が一艘ある。その小舟には帆がない。それは櫓漕小舟である。)
- (2) 既定名詞の前。
Some one is at the door.
(誰かお人だ。)
The doctor must be sent for.
(醫者を迎へなければならぬ。)
Mt. Fuji is the highest mountain in Japan.
(富士山は日本第一の高山である。)
This is the knife I bought yesterday.
(これは昨日買ったナイフである。)
- (3) 唯一無二と考へらるゝ自然物。
the sun; the moon; the earth; the sky;
the sea; the universe (宇宙).
- (4) 同種の代表。
The owl can see even in the dark.
(梟は闇黒の中でも見える。)
The tiger is a fierce animal.
(虎は獰猛な動物である。)
- (5) 形容詞を伴ふ固有名詞の前。
the ambitious Caesar.

(野心家のシーザー。)

the famous Napoleon.

(有名なナポレオン。)

但し日常使ひ慣れた形容詞の前には定冠詞を省く。

[例] **old John; poor George; little Jack.**

- (6) 評量の単位を表はす名詞の前。

This cloth is sold by the yard.

(この布は一ヤード幾らで賣る。)

I hired this boat by the hour.

(私はこのボートを時間ぎめで借りた。)

These handkerchiefs are sold by the dozen.

(この手巾はダース賣です。)

They may be counted by the thousand.

(彼等は千を以て數へられる — 何千といふ數である。)

- (7) 次の如き成句に。

in the morning; in the afternoon; in the evening; in the daytime; in the right; in the wrong; in the light; in the dark.

Strange to say, the owl cannot see so well in the light as in the dark.

(妙な話だが、梟は明るい所では闇い所ほどには、よくは見えない。)

You are in the wrong.

(君の方が無理だ。)

55. 名詞を伴はない形容詞に定冠詞をつけると次の意味を表はす。

- (1) 人を表はす複数名詞に同じ。

The rich should help the poor.

(富者は貧者を助けるべきである。)

The learned are apt to despise the ignorant.

(學問ある者は無智の者を侮り勝ちである。)

[例外] **the accused** (被告), **the deceased** (故人) は單數。

- (2) 抽象名詞に同じ。

He had an intense love for the beautiful and the sublime. (彼は美と崇高に對し強い愛の念を抱いてゐた。)

His idea always points to the true and the natural. (彼の思想は常に眞理と自然を指してゐる。)

56. 固有名詞の中には常に定冠詞をつけるものがある。

- (1) 河の名。
the Thames; the Sumida; the River Sumida; the Nile; the Danube.
- (2) 海、大洋、海峡の名。
the Japan Sea; the Pacific; the Gulf of Mexico; the Strait of Gibraltar.
- (3) 艦船の名。
the Nagato; the Victory; the training squadron (練習艦隊).
- (4) 公共の建物の名。
the Imperial University; the Home Office; the Yasukuni Shrine; the British Museum.
- (5) 新聞、雜誌、書籍の名。
the Japan Advertiser; the Nation; the Outlook; the Sketch Book.
- (6) 複數固有名詞。
 - a. 山脈。
the Alps; the Himalayas.
 - b. 群島。
the Philippines; the West India Islands.
 - c. 國。
the United States of America.
 - d. 家族。
the Rothschilds; the Tokugawas.
 - e. 國民。
the Japanese; the English; the Germans.
 - f. 教徒。
the Buddhists; the Christians.

57. 冠詞は次の場合に省略せられる。

- (1) 呼掛の名詞の前。
Boys, be ambitious.
(少年達、大望を懷け。)

Be quiet, boy.

(坊や、静にきなさい。)

Come, fellows. Let us play foot-ball.

(さあ諸君、フットボールをやろう。)

- (2) 家族の一員を指す時。

Mother is sick in bed, and father is far away.

(母は病床にあつて父は遠方に行つてゐる。)

Nurse has gone home.

(乳母は里へ歸つてゐる。)

- (3) 官職、身分、資格、血族を表はす名詞を補語又は同格名詞として用ひた場合。

They elected Washington president.

(彼等はワシントンの大統領に選舉した。)

General Araki has been appointed War Minister.

(荒木大將は陸軍大臣に任命された。)

Mr. Nagata, Mayor of Tokyo, has resigned his post.

(東京市長永田氏は辭職した。)

Masatsura, son of Masashige, fell at Shijonawate.

(正成の子正行は四條畷で歿した。)

- (4) 身分、官職を表はす語が人名の前に来る時。

King George; Queen Victoria.

Admiral Togo; General Nogi.

Prince Ito; Marquis Okuma.

- (5) “As” を用ひた譲歩句の初めに名詞を置く時。

Hero as he was, a tremor passed through him.

(彼は英雄であつたが全身を震はした。)

Scholar as he is, he is superstitious.

(彼は學者ではあるが迷信家だ。)

- (6) “Man,” “woman” が代表的意味に用ひられた時。

Man is lord of the creation.

(人は萬物の靈長である。)

Man must protect woman.

(男は女を保護しなければならぬ。)

- (7) 名詞が物を指さず、單に名稱たるに止まる時。

“Take” is the Japanese for “bamboo.”

(竹は bamboo の日本語である。)

What is the English for the Japanese “take”?

(日本語の竹は英語で何といふか。)

- (8) 相對的關係を持つ名詞を結合する時。

brother and sister.

husband and wife; man and wife.

rider and horse.

- (9) 現在を標準にして “last,” “next” を用ひる時。

I shall go abroad next year.

(僕は來年洋行する。)

He came here last week.

(彼は先週こゝへ來た。)

- (10) “A kind of” の次に來る名詞の前。

The whale is a kind of animal.

(鯨は一種の動物である。)

He is quite a different sort of man.

(彼は丸でちがった種類の人である。)

- (11) 病名、學科名、運動名。

rheumatism (ロイマチス), cholera (コレラ),

typhoid fever (腸チブス), pneumonia (肺炎),

chemistry (化學), botany (植物學), zoology (動物學),

geology (地質學), base-ball (野球), lawn-

tennis (庭球), foot-ball (蹴球), hockey (ホ,

ケー), golf (ゴルフ)。

- (12) 慣用句。

a. 前+名+前+名。

from morning till night.

from head to foot.

from door to door.

from flower to flower.

b. 名+前+名。

face to face.

side by side.

hand in hand.

day after day.

c. 前+名。

on foot; on horseback.

by land ; by sea ; by rail.
 at noon ; at dawn ; at daybreak.
 (to go) to school ; to church ; to market.
 at table ; at breakfast.
 by letter ; by parcel post ; by telephone.

- d. 動+名+(前).
 take care of.
 cast anchor.
 take root.
 keep house.
- e. 前+名+前。
 by means of.
 in spite of. by dint of.
 by way of. in place of.

第五章

代名詞

I. 代名詞の種類

58. 代名詞 (Pronoun) には次の五種類ある。

- (1) 人稱代名詞 (Personal Pronoun)
 話者自身、相手及び話題に上る第三者を區別する文法上の人稱 (Person) を明示するもの。
 [例] I, my, me ; you, your ; he, his, him ; myself, yourself, itself.
- (2) 指示代名詞 (Demonstrative Pronoun)
 人又は事物を指示し形容詞の性質を有するもの。
 [例] this, these ; that, those.
- (3) 疑問代名詞 (Interrogative Pronoun)
 疑問を表はすもの。
 [例] who, what, which.
- (4) 關係代名詞 (Relative Pronoun)
 接續詞の働を兼ねるもの。
 [例] which, who, whose, that, what.
- (5) 不定代名詞 (Indefinite Pronoun)

不定に人又は事物を指示し形容詞の性質を有するもの。

[例] one, each, some, any, another, either.

II. 人稱代名詞

59. 人稱代名詞の人稱、數、性及び格を表にすると次のようになる。

		主格	所有格	目的格
單	第一人稱	I	my (mine)	me
	第二人稱	you	your (yours)	you
	數 第三人稱	男性	he	his (his)
女性		she	her (hers)	her
中性		it	its (—)	it
複	第一人稱	we	our (ours)	us
	第二人稱	you	your (yours)	you
	第三人稱	they	their (theirs)	them

60. 主格は (1) 文の主語 (2) 主格補語となり、所有格は (1) 所有者 (2) 著者 (3) 發明者を示し、目的格は動詞又は前置詞の目的語となること、名詞の場合に準じて知られる。

61. 所有格は必ず名詞の前に置かれる。この場合には冠詞をつけてはならない。

This is my house. (これは私の家です。)

Our school stands on a hill.

(私共の學校は丘の上にあります。)

62. 人稱代名詞の所有格には二種ある。

my	—	mine	your	—	yours
his	—	his	her	—	hers
its	—	×	our	—	ours
their	—	theirs			

この第二種の所有格は**所有者 + 所有物**に相当し、従つて後に名詞を置くことが出来ない。この第二種の所有格を**所有代名詞** (Possessive Pronoun) と稱することがある。第一種の形容詞に相当するのに対して、第二種は名詞に相当する。主語、目的語、補語として用ひられる。この儘の形で単数複数のいづれにも用ひられる。前後の関係によつて判断するの外はない。人稱はすべて第三人稱である。

This book is mine.

(この本は私のです。)

These books are mine.

(これらの本は私のです。)

Your hat is new, but mine is old.

(君の帽子は新しいが、僕のは古い。)

That parasol is hers.

(あの日傘は彼女のです。)

63. “A,” “an,” “this,” “that” 等と共に所有格を用ひる場合、次の形に注意を要する。(448 参照)

He is a friend of mine.

(彼は僕の友人の一人だ。)

This book of yours is very interesting.

(この君の本は實に面白い。)

These children of hers are naughty.

(この彼女の子供等はいたづら者だ。)

64. 所有格を強めるために “own” を添へることがある。

[例] **my own house.** (私自身の家)
their own garden. (彼等自身の庭)

The moon has no light of its own.

(月はそれ自身の光を持つてゐない。)

He has a house of his own.

(彼は自分の家を持つてゐる。)

65. “It” の特別用法。

(1) 時間。

It is ten years since I left home.

(私は郷里を出てから十年になる。)

It is still early.

(まだ早い。)

How long will it be before he recovers?

(どの位経つたら彼は全快するだらうか。)

(2) 天候。

It rains much in July.

(六月は雨が多い。)

It is cloudy today.

(今日は曇つてゐる。)

It is getting colder.

(陽氣は段々寒くなつて来る。)

(3) 距離。

It is very far from here.

(こゝから大變遠い。)

It is five minutes' walk.

(徒歩で五分の所です。)

It is just two hours' ride.

(汽車で丁度二時間の所です。)

(4) 明暗。

It is light there.

(そこは明るい。)

It was quite dark when he started.

(彼の出掛けた時は眞暗だつた。)

(5) 假の主語又は目的語。

It is wrong to steal.

(盗をすることはよろしくない。)

It is very good of you to come to see me.

(お出で下さつて御親切さま。)

It is not certain whether he will succeed.

(彼は成功するや否や確かでない。)

He did not find it hard to arrest the criminal.

(彼は罪人を逮捕することを困難と思はなかつた。)

I think it natural that he does not agree to do it.

(私は彼がそれをするに同意しないのを自然だと思ふ。)

(6) 強勢。(It is—that.....)

It is fever that makes your back ache.

(君が脊中の痛いのは熱のためだ。)

It was not medicine but healthful exercise that he needed.

(彼に必要なのは薬でなく健全な運動であつた。)

It is not the cleverest boy of a class who is at the top; it is generally the one who has the strongest character.

(首席にあるのは級の中で一番利巧な者ではなく、通例最も強い意志を有する人である。)

It is because I am so happy that I sing.

(私の歌ふのは愉快であるからだ。)

(7) それと指すものなき場合。

How is it with your father?

(お父さんは如何ですか。)

We had a very good time of it.

(吾々は實に面白かつた。)

We must fight it out.

(吾々は最後まで戦はなければならない。)

66. “We”, “you”, “they” は廣く一般の人々を指すことがある。

We should be honest.

(人は正直にすべきである。)

You should obey your parents.

(人は自分の両親に従ふべきである。)

They speak English in America.

(アメリカでは英語を話す。)

67. 第二人称の代名詞 you は単數、複數の兩方に

用ひられるのが常であるが、聖書 (Bible) その他古文體には第二人称の單數に別の形を用ふ。現代に於ては主として詩文に用ひられる。

主 語	所 有 格	目 的 格
thou	thy (thine)	thee

What thou art we know not.

(汝は何であるか吾々は知らない。)

To seek thee did I often rove.

(汝を求めるために吾は屢、さまよふた。)

That is a fit home for thee.

(それは汝にふさはしい家である。)

All the earth and air

With thy voice is loud.

(天も地も汝の聲で鳴り渡つてゐる。)

68. 無生物又は抽象名詞でさへ、之を人格化して生物であるが如くに扱ひ、男性又は女性と見做すことがある。之を擬人法 (Personification) といふ。(438 参照)

69. 複合人称代名詞 (Compound Personal Pronoun) は人称代名詞の或形に -self のついたものをいふ。従つて Self-Pronoun とも稱せられる。

人 稱	單 數	複 數
1	myself	ourselves
2	yourself (thysself)	yourselves
3	himself herself itself	themselves

70. 複合人稱代名詞の用法。

- (1) 強意用法 (Emphatic Use)。主語又は目的語に添へて之を強めるために用ふ。常に主語又は目的語となれる名詞又は代名詞と同格である。

[例] **I myself** have done it.
(僕自身でそれをした。)
They did the work themselves.
(彼等はその仕事を自身でした。)
I spoke to the President himself.
(私は大統領にじかに話した。)
It was our principal himself.
(それは吾等の校長その人であつた。)

- (2) 再歸用法 (Reflexive Use)。他動詞の表はす動作が、行爲者自身に向けられる時には、この複合人稱代名詞を動詞の目的語とする。之を再歸用法といふ。

[例] **He killed himself.**
(彼は自殺した。)
They concealed themselves in the woods.
(彼等は森の中に身を隠した。)
Take care of yourself.
(御體を大切にささい。)
He said to himself.
(彼は獨語した。)
He gave himself a holiday.
(彼は一日休んだ。)

71. 複合人稱代名詞には所有格を缺いてゐるが、人稱代名詞の所有格に **own** を添へて、意味を強めるために用ふることは既に述べた通りである。(464 参照)

72. 複合人稱代名詞の慣用句。

- (1) 動詞に伴ふもの。
I enjoyed myself yesterday.
(昨日は面白くありました。)
Please help yourself to this cake.
(どうか此の菓子を召上つて下さい。)
Make yourself at home.
(お寛ぎ下さい。)

Don't overeat yourselves.

(食べ過ぎをするな。)

He absented himself from school.

(彼は學校を休んだ。)

You must avail yourself of this opportunity.

(君はこの機會を利用しなければならない。)

- (2) 前置詞に伴ふもの。

He was beside himself with joy.

(彼は狂喜した。)

I went there by myself.

(僕は獨りでそこへ行つた。)

You must do it for yourself.

(君は獨力でそれをしてしなければならない。)

War is not a good thing in itself.

(戰爭は本來良いものではない。)

He woke up of himself.

(彼はひとりでに目がさめた。)

III. 指示代名詞

73. 指示代名詞 (Demonstrative Pronoun) に屬するものは次の二語である。

(單數)	(複數)
this	these
that	those

This is my bookcase, and that is yours.

(これは僕の本箱で、あれは君のだ。)

These are mine, but those are yours.

(これ等は僕のだが、あれ等は君のだ。)

This is what I mean.

(僕の言ふのはこれだ。)

74. 指示代名詞は名詞を伴ふ時は指示形容詞 (Demonstrative Adjective) となる。

This bookcase is mine.

(この本箱は僕のだ。)

Those boys are very naughty.

(あの子供等は實にいたづら者だ。)

75. 指示代名詞の特別用法。

I like the dog better than the cat; **this** (=the latter) is not so faithful as **that** (=the former).

(私は猫より犬の方が好きだ、猫は犬ほど忠實でないから。)

His voice resembles **that** (=the voice) of a foreigner.

(彼の聲は外人の聲に似てゐる。)

His writings are more interesting than **those** (=the writings) of his father.

(彼の著作物は父のそれよりも興味がある。)

He has studied English, and **that** in England.

(彼は英語を學んだ、しかも英國で。)

The child is always breaking **this thing or that** (=something or other).

(子供は始終何かしら壊してゐる。)

Those who were present were satisfied with the explanation.

(そこにゐた人々はその釋明に満足した。)

Fold it like **this**.

(それをこんなに畳みなさい。)

How have you been hurt like **that**?

(君はどうしてそんなに怪我をしたのか。)

I shall come again **this day week**.

(來週の今日又來ませう。)

You have studied English **these three years** (=for the last three years).

(君等はこの三年間英語を研究して來た。)

Let us meet again **one of these days** (=shortly).

(近日又會はう。)

IV. 疑問代名詞

76. 疑問代名詞 (Interrogative Pronoun) を表に示すと次の通り。

	主格	所有格	目的格
單 複 同 形	who?	whose?	whom?
	what?	—	what?
	which?	—	which?

77. **Who** は人に用ひる。疑問代名詞で格 (case) の變化あるのはこの **who** だけである。

Who is that gentleman?

(あの紳士はどなたですか。)

Whose is this umbrella?

(この傘は誰のですか。)

Whom shall I take there?

(誰をそこへ連れて行かうか。)

78. **What** は人以外の物に用ひる。

What has happened?

(何事が起つたか。)

What did you tell him?

(君は何を彼に話したか。)

What is wine made from?

(葡萄酒は何で作られるか。)

What を人に用ふる時はその人の職業を問ふのである。**Who** は氏名を問ふ時に用ふ。

[比較]

Who is he?—He is Tom Brown.

What is he?—He is a banker.

79. **Which** は人にも物にも用ひ、選擇の意を表はす。

Which is the nearest way?

(どれが一番近道ですか。)

Which do you like better, spring or autumn?

(春と秋とではどちらが好きですか。)

Which of the boys has broken the window?

(どの子供が窓を壊したのですか。)

80. What と which は名詞を伴ふ時は **疑問形容詞** (Interrogative Adjective) となる。

What paper do you take in?
(君は何新聞を取つてゐますか。)
Which book shall I give you?
(どつちの本を君にあげようか。)

81. 疑問形容詞 what は又感歎文を作る時にも用ひられる。

What a fine sight it is!
(何とよい景色でせう。)
What beautiful flowers they are!
(何と美しい花でせう。)

82. 疑問代名詞は文の冒頭に置かれるのが普通であるが、その文が名詞節となつて動詞の目的語となる時は、必ずしも文頭に置かれぬ。これは疑問形容詞、疑問副詞にも適用せられる。なほ此の場合名詞節の中の語の配列は **主語+動詞**の順序となることに注意すべきである。

Do you wonder who lights the lamp?
(一體誰がランプに点火すると思ひますか。)
Tell me whose house it is.
(それは誰の家であるか言つて御覽。)
I know what he is but not who he is.
(私は彼の商賣を知つてゐるが、名を知らない。)
Tell me what an airship is like.
(飛行船は何に似てゐるか言つて御覽。)
Can you tell which is the right bank of the river and which is the left?
(どつちが河の右岸で、どつちが左岸であるか、君はわかりますか。)

但し次の場合は疑問代名詞は文頭に置かれる。

Who do you think is ill?
(誰が病氣だと思ひますか。)
What did you say you wanted?
(君は何がほしいと言ひましたか。)

83. 疑問代名詞は infinitive (to+動詞) と結びついて名詞句となることが屢ある。

I don't know whom to ask.
(私は誰に尋ねてよいかわからない。)
He hesitated which to buy.
(彼はどつちを買はうかと躊躇した。)
I was puzzled whose house to visit first.
(私は誰の家を先に訪ねようかと惑つた。)

V. 関係代名詞

84. 関係代名詞 (Relative Pronoun) は節 (Clause) を結び付ける所謂 **連結語** (Connective) の一で、代名詞と接續詞の働を兼ねてゐる。関係代名詞の代表する語をその **先行詞** (Antecedent) といふ。

This is the sailor who saved my life.
(これは私の生命を救つてくれた水夫である。)

上の文は

{ **This is the sailor.**
 He saved my life.

の二文を結び付けたもので、who は sailor を代表すると共に文を連結してゐる。この sailor は関係代名詞 who の先行詞である。

This is the desk which I bought yesterday.
(これは昨日私の買った机だ。)
{ **I bought a desk yesterday.**
 This is the desk.

Boys that are idle at school will never succeed.
(学校で怠けてゐる少年は決して成功出来ない。)
{ **Boys are idle at school.**
 They will never succeed.

85. 関係代名詞の主なるものを次に表に示す。

主格	所有格	目的格
who	whose	whom
which	whose (of which)	which
that	—	that
what	—	what

Who は人に用ひ、**which** は人以外の物に用ひ、**that** は人にも物にも用ひる。

There are two boys **who** go to the same school and are in the same class.

(同じ学校に通ひ、同じ組にある二人の少年がある。)

This is the orphan **whose** father worked in the same factory as my father.

(これはその父が私の父と同じ工場で働いてゐた孤兒である。)

He is an actor **whom** all people praise.

(彼はすべての人々が賞讃する俳優です。)

A small black spot, **which** the children had failed to notice at first, grew into clouds till the sky was dark all over.

(子供等が最初気がつかなくなかつた小さな黒い點が、大きくなつて雲となり、遂に空が全體暗くなつた。)

He is the owner of the white house **whose** roof (=the roof of which) is covered with blue slate.

(彼はその屋根が青い瓦で葺いてある白い家の持主です。)

At night he slept in a tiny attic room, from **whose** windows he could see only the house walls and chimneys.

(夜になると彼はその窓からは家の壁と煙突しか見えない小さな屋根裏の部屋で眠つた。)

It was the first steam engine **that** could go faster than the horse.

(それは馬より速く進むことの出来る最初の蒸氣機關車であつた。)

You are the laziest fellow **that** I have ever met with.

(お前はおれが今まで出會した中で一番のらくら者だ。)

86. That は特に限定の意味の強い場合、先行詞に最上級の形容詞又は only, first, all, any, no 等の形容詞を含む場合、先行詞が疑問詞の who の場合、又は先行詞に人と人以外のものを含む場合に用ひる。

Shakespeare is the greatest poet **that** England, and perhaps the world, ever saw.

(シェークスピアはイギリスが、否恐らく世界が、今までに見た最大の詩人である。)

This is the only mistake **that** he has ever made.

(彼が今までに間違ひをしたのはこれだけだ。)

This is all **that** I know.

(僕の知つてゐるのはこれだけだ。)

He seems to have studied and mastered everything **that** man can know.

(彼は人の知り得る如何なるものをも研究し且つ會得したやうである。)

Any man **that** knows English will be employed.

(誰でも英語を知つてゐる人が雇はれませう。)

Who **that** is honest can do so?

(正直な人で誰がそんな事が出来るものか。)

The people and beasts **that** were in the house were all burnt to death.

(家の中にゐた人も獣も皆焼け死んだ。)

87. 強勢のために “It is—**that**……” の形式を用ひることあるのは既に述べた(¶65の6参照)が、この **that** が關係代名詞の時はその先行詞は初の it である。但しこの **that** が主格となつてゐる時、之

に續く動詞は *it is* の補語となつてゐる直前の名詞と人稱並びに數を一致させなければならない。

It is a nightingale that is singing over there.

(向ふに歌つてゐるのは夜啼鶯である。)

It is I that am to blame.

(私こそ咎めらるべきだ。)

It was they that were sent to prison.

(監獄へ入れられたのは彼等である。)

Who is it that is walking at the head of the procession?

(行列の先頭に歩いてゐるのは誰ですか。)

88. *What* は先行詞+關係代名詞で *that* *which* 又は *all that* の意になる。*What* にて始まる文節は常に名詞節である。

You must all bear in mind what I am going to say.

(君等は私の今から言はうとすることを心に留めて置かなければならない。)

You should try to do what you can to make each other happy.

(君等はお互を幸福にするために出来る限りのことをするやうに努めなければならない。)

He has made me what I am.

(彼は私をして今日あらしめた。)

Columbus sailed into what was then an unknown sea.

(コロンブスはその當時未知の海であつた所へ船を進めた。)

89. 關係代名詞 *what* 及び *which* はその後名詞を伴ひ、形容詞になることがある。この時は之を關係形容詞 (Relative Adjective) と稱する。

I gave him what little money I had.

(私は彼に無け無しの金を與へた。)

Lend me what money you can.

(君の都合出来るだけの金を貸して下さい。)

She has lived as nurse with an English family, which fact accounts for her knowledge of English.

(彼女は乳母として英人の家庭にゐたことがある、此の事實によつて彼女の英語を知つてゐる譯がわかる。)

A smile and a sixpence, which equipment is within most people's reach, will suffice.

(ほんの微笑と六片一つ、これ位の用意は大抵の人に出来るが、それで事は足りようて。)

90. 關係代名詞が目的格の時は往々省略せられる。

He is a man (whom) we can trust.

(彼は吾々の信用出来る人である。)

With the little money (which) I had laid by, I at once left America.

(僅少なながら貯へてゐただけの金を持つて私は直ちにアメリカを後にした。)

He is the only son (that) they have.

(彼はあの人達の一粒種だ。)

This is the man (whom) I was talking about.

(これは私の噂してゐた人です。)

91. 關係代名詞は目的格でなくとも省略されることがある。

He has always been the kind father (that) he is at present.

(彼はいつも現在のやうな親切なお父さんであつた。)

There is some one at the door (who) wants to see you.

(あなたにお目にかゝりたいと言ふ人が戸口に來てゐる。)

He is one of the best men (that) there are in the world.

(彼は世にある最良の人物の一人である。)

92. 關係代名詞の前に前置詞ある時は特に注意を要する。

I have seen one of those fogs **for which** London is so famous.

(私はかのロンドン名物の霧を見たことがある。)

It is very pleasant and convenient to be able to speak the language of the people **among whom** you are living.

(君達の中に混つて住んであるその國民の使ふ國語を話すことが出来るのは非常に愉快であり且つ便利である。)

The places **from which** iron and coal are dug are called mines.

(鐵や石炭の掘り出される所は鑛山と稱せられる。)

93. 關係代名詞が前置詞の目的語である時は、その前置詞の位置に注意しなければならない。

This is the house { **in which** we live.
 that we live in.
 we live in.

(これは私どもの住んである家です。)

I know the man { **of whom** you spoke.
 that you spoke of.
 you spoke of.

(私は君のお話の人を知つてゐる。)

This is the picture { **about which** I told you
 that I told you about
 I told you about

the other day.

(これは先日御話申上げた繪です。)

94. 關係代名詞 “who”, “which” には、これまで述べて來たやうに關係代名詞以下の形容詞句が先行詞の意味を限定する所謂**制限的用法** (Restrictive Use) とは異なり、たゞ追説的に或る事柄を言ひ添へるに過ぎない所の他の用法がある。之を**連續的用法** (Continuative Use) といひ、この場合にはその關係代名詞を接續詞と代名詞に書きかへる事も出来る。

この用法では關係代名詞の前に必ず Comma を付ける。

I met Mr. Jones, **who** (=and he) told me an interesting story.

(私はジョーンズさんに會ひました、氏は私に興味ある話をしてくれました。)

He studied French, **which** (=and it) was of great use afterwards.

(彼はフランス語を勉強したが、それは後に至つて非常に役立つた。)

This answer delighted the Duke, **who** (=for he) loved moral courage above all things.

(この返答は公爵を喜ばした、と言ふのは彼は道德的の勇氣を何よりも好んでゐたからである。)

The man, **who** (=though he) was very poor, never complained of his lot.

(その人は、大さう貧しかつたとは言へ、決して自分の境遇に不平を言はなかつた。)

I saw a boy leave his play to mend a small boy's toy, **which** (=and this kind act) chased away the tears, and brought smiles of joy.

(私は一人の少年が自分の遊びを止めて小さい子供の玩具を直してやるのを見た、その行が涙を追ひ拂つて喜びの微笑を齎した。)

95. 特殊の關係代名詞。

(1) **But=that.....not.** 前に必ず否定詞か疑問詞がある。

There is no child **but** knows him.

(彼を知らない子供は一人もない。)

There is no one **but** has some ambition.

(何等か野心を持たない者はない。)

Who is there **but** commits errors?

(世の中に間違を仕出來さない者はない。)

(2) **As=who, which, that.** 常に as, such 又は the same に伴ふ。

I will tell you such a story **as** is both instructive and amusing.

(私は面白くて爲になるやうなお話をしませう。)

As many beggars as came were given some alms.

(来ただけの乞食は何か施物をもらった。)

Such as (=those who) are rich will not want for friends.

(金のある人は友達に不自由はない。)

This is the same dictionary as I have.

(これは私の持つてゐるのと同じ辞書です。)

[比較]

This is the same book that I lost.

(これは私の失くしたその本です。)

96. 複合関係代名詞 (Compound Relative Pronoun)

は疑問代名詞+ever の形を取る。之に二種の用法がある。

- (1) 先行詞+関係代名詞の意となり、不定に人又は物を表はす。名詞節を導く。

He says whatever (=anything that) comes into his mind.

(彼は何でも心に浮んで来ることを言ふ。)

You may have whichever (=either or any that) you choose.

(どちらでも好きな方を取りなさい。)

Whoever (=any one who) came was received.

(誰でも来た人は歓迎された。)

I will reward whoever (=anyone who) can answer.

(私は誰でも答の出来る人に賞を與へよう。)

Please invite whomever (=anyone whom) you know.

(御存知の方をどなたでも御招待して下さい。)

- (2) No matter+疑問代名詞の意となり、譲歩の意を表はす。副詞節を導く。

Whatever (=no matter what) you may say, I can't forgive you.

(君は何と言つても僕は許さない。)

Whichever (=no matter which) you may take, I will not object to it.

(どつちを君が取つても僕には異存はない。)

Whoever (=no matter who) he may be, I will not admit him.

(彼が誰であつても私は承知しない。)

I will buy the house, whosever (=no matter whose) it may be.

(誰の家であつても私はその家を買はう。)

Whomever (=no matter whom) he met, he saluted him with a smile.

(誰に會つても彼は微笑して會釋した。)

97. “Whichever,” “whatever” に名詞を伴ふ時は複合関係形容詞 (Compound Relative Adjective) となる。

You may read whatever book (=any book that) you like.

(何でも好きな本を読みなさい。)

Whatever result may follow, one should always tell the truth.

(どんな結果が伴つても、人は常に眞實を語るべきである。)

Whichever (=no matter which) way you may take, you will come to the same destination.

(どちらの道を取つても、同一の目的地に達する。)

98. “Whatever” は否定に添へて打消の意味を強めることがある。

There is no doubt whatever (=at all).

(毫も疑はない。)

I gained nothing whatever (=at all).

(何一つ得る所はなかつた。)

VI. 不定代名詞

99. 不定代名詞 (Indefinite Pronoun) は漠然と概括的に事物を指示する一種の指示代名詞である。不定

代名詞は後に名詞を伴ふ時は直ちに**不定形容詞** (Indefinite Adjective) となる。両者は品詞は異なつてゐるけれどもその意義用法に於ては何の相違もなく、品詞の區別をする必要は少しもないから、便宜上兩者を合して論ずることとする。

100. One.

- (1) 一般に人を表はす。この時は格の變化がある。主格 *one*, 所有格 *one's*, 目的格 *one*, 再歸形 *oneself*.

One should respect one's superiors.

(人は長上を尊敬しなければならない。)

One is apt to think oneself faultless.

(人は動もすれば自分を缺點のないものとする。)

One who (=he who) is just, does not fear.

(正義の人は物に怖ぢない。)

最後の例 *one who* 又は *he who* の複数は *those who* である。

Those who are contented with their lots are always happy.

(境遇に満足してゐる者は常に幸福である。)

- (2) 名詞の反復を避けるために用ひる。

My hat is a new one.

(僕の帽子は新しい帽子です。)

The three angles of a triangle are equal to two right ones.

(三角形の三つの角の和は二直角である。)

- (3) *A certain* の意味に用ひる。

One night (=on a certain night) we took a stroll there.

(或夜私共はそこへ散歩をしました。)

One Mr. Brown (=a certain Mr. Brown) is reported to have committed suicide yesterday.

(ブラウンさんといふ人が昨日自殺したとの噂です。)

- (4) 不定の名詞を指すに用ひる。

Have you a knife? Yes, I have one (=a knife).

Have you the knife? Yes, I have it (=the knife).

I want a trunk, but I have no money to buy one (=a trunk).

(トランクは欲しいが買ふ金はない。)

I bought a trunk, and gave it (=the trunk) to my brother.

(僕はトランクを買つてそれを弟に與へた。)

101. Any, some.

- (1) *Some* は肯定に、*any* は疑問、否定及び *if* の後。

Do you know any of them? I am sure you know some.

(君は彼等を幾人か知つてゐますか。確かに幾人かは知つてゐるでせう。)

No, I do not know any of them.

(いや、一人も知らない。)

If he has any books, he will lend you some.

(若し彼が本を幾冊か持つてゐるなら、君にいくらか貸してくれるでせう。)

He asked me if I knew any of them.

(彼は僕に彼等を幾人か知つてゐるか尋ねた。)

- (2) 物質名詞と共に。「どれだけか」の意。

Is there any wine left?

Yes, there is some left.

*No, there is {not any left.
no wine left.*

- (3) 人に物を薦める時は疑問文にも *some* を用ふ。

Will you have some tea?

(お茶を召し上りませんか。)

May I give you some more?

(もう少し差し上げませうか。)

- (4) 肯定文に *any* を用ひる時は「どれでも」の意。

some は「どれか」の意。

You must come some day.

(君はいつか來なければならない。)

You may come at **any time**.

(君はいつでも来てよろしい。)

Any one will do.

(誰でもよろしい。)

Any educated persons can read English.

(教育ある士は誰でも英語を読み得る。)

There is **some one** at the door.

(誰か戸口に來てゐる。)

- (5) 「或る部分」を抜出していふに **some** を用ひる。

Some people believe in ghosts.

(人によつては幽霊を信ずる者もある。)

Some books ought to be read over and over again.

(書物の中には何度も繰返し讀まなければならないものもある。)

- (6) **-body, -thing** と結合することがある。

You may take **anything** you like.

(どれでも好きなものを取りなさい。)

There is **something** refined about him.

(彼にはどこか上品なところがある。)

Anybody can do it.

(誰でもそれは出来る。)

Somebody must have come.

(誰か來たにちがひない。)

102. No, none.

- (1) **None** は單獨に用ひる。これは “no one” の約であるけれども、現在は多く複數として取扱はれる。

No は常に形容詞で必ず名詞を伴ふ。

No one was there.

(誰もそこにはなかつた。)

None of them were present.

(彼等は一人も出席しなかつた。)

There's **no place** like home.

(我が家に勝る所はない。)

- (2) **No=not any**.

There are **no** English novels.

(英語の小説は一つもない。)

I have **no** money.

(金は一文も持たない。)

比較 { **He is not a scholar.**
(彼は學者ではない。)
He is no scholar.
(彼は學者とは言へない。)

- (3) **No** は **-body, -thing** と結合す。

Nobody can tell what it is.

(それは何であるか誰にも分らない。)

I have **nothing** to eat.

(私は食べる物は何も持つてゐない。)

- (4) **None** には次のやうな用法もある。

He is **none** of my friends.

(彼は僕の友人でも何でもない。)

That is **none** of your business.

(それは君の關係したことではない。)

103. Other, another.

- (1) 「他の一つ」を漠然と不定に指す時は **another** を用ひ、定まれるものを指す時は **the other** を用ひる。蓋し **another** は *an+other* であるからである。兩方とも形容詞にも用ひられる。**another** は常に單數であつて、その複數は **others** である。

One of them was a merchant; **the other** a student.

(一人は商人で、今一人は學生であつた。)

The three brothers started on a different courses of life; **one of them** became a sailor, **another** a soldier, and **the other** a merchant.

(三人の兄弟は別々の方面に向つた、一人は船乗となり、一人は軍人となり、今一人は商人となつた。)

One of my brothers lives in Tokyo, **the others** (=the rest) are all in the native place.

(私の兄弟の内一人は東京に居り、残りは皆郷里にゐる。)

- (2) 三つ以上の場合に **one, another, a third, a fourth.....** といふことがある。何れも **another** と同義である。

Sometimes a clock has a **third** hand which points to the second.

(時には時計に秒を示す別の針がついてゐる。)

- (3) **Another** は又次のやうな意味に用ひられる。
Show me those of **another** make (=a *different* make).

(別の作りのを見せて下さい。)

Give me **another** glass (=one more glass) of water.

(水をもう一杯下さい。)

He is a fool and his wife is **another** (=also one).

(彼は馬鹿だが彼の妻も同じくだ。)

- (4) **The one.....the other** は *the former.....the latter* の意に用ひられることがある。

I have a brother and a sister; **the one** is abroad and **the other** in Tokyo.

(私は兄と妹がある、前者は洋行中で後者は東京にゐる。)

- (5) **Others** は *other people* の意に用ひられる。
Be kind to **others**.

(他人に親切にせよ。)

104. Each, every.

- (1) **Each** は「各々」「夫々」の意。個別的である。

Each	}	} has his own desk.
		one	
		boy	
		(one) of them of the boys	

(生徒はそれぞれ自分の机がある。)

- (2) **Every** は「どれもこれも」「例外なしに悉く」又は「毎に」の意。但し個々の物を通して全體を總括する。

Every child loves its parents.

(どの子供も自分の親を愛する。——親を愛さない子供も一人もない。)

He goes to church **every** Sunday.

(彼は日曜毎に教會へ行く。)

He comes	}	every day. (日毎に、毎日。)
		every other day. (隔日に、一日置きに、二日目毎に。)
		every three days (=every <i>third</i> day). (三日目毎に、二日置きに)
		every few days. (二三日に一度、一二日置きに。)

You must write it in **every other** line.

(君はそれを一行置きに書かなければならない。)

- (3) **Every** は全體を總括するけれども通例單數の名詞の前に置く。常に形容詞であつて代名詞としては用ひない。

105. Each other, one another.

兩者とも「お互」の意を表はす。前者は二つのもの場合に用ひ、後者は三つ以上のもの間に用ひられるのが常である。けれども、實際に於てはさうでない場合も往々ある。

The two brothers loved **each other**.

(二人の兄弟は互に愛しあつた。)

They all helped **one another**.

(彼等は互に助け合つた。)

106. All, both.

- (1) **All** は「すべて」「皆」「全部」の意で全體を包括して指すのである。**Both** は「兩方とも」「二つとも」の意で二つの物についてのみ用ひられる。

All the boys are clever.=The boys are **all** clever.

(その子供等は皆伶俐だ。)

Both the brothers have passed the examination.=The brothers have passed the examination **both**.

(兄弟二人共試験に合格した。)

All	}	of them	} are hard workers.
		his brothers	
Both	}	the brothers	} are hard workers.
		the brothers	

(兄弟揃つて勉強家である。)

- (2) **All, both** は打消に伴ふ時は部分否定となる。
 I do not know all of them.
 =I know only some of them.
 I did not see both.
 =I saw one of them.
- (3) **All** は單數に扱ふこともある。
 All is lost.
 (萬事休す。)
 Is that all?
 (それだけですか。)
 All that glitters is not gold.
 (光る物必ずしも金ではない。)

107. Either, neither.

- (1) 前者は「二つの者の中どちらか一方」を指し、後者は「兩方ともなし」の意。雙方とも二物の場合に用ひられる。三つ以上の物について云ふ時は、*any* と *none* を用ひる。

Do you know **either** of them (two)?
 (君はそれをどつちか知つてゐますか。)
 I know **neither** of them (two).
 (僕はそれをどちらも知らない。)

[比較]

Do you know **any** of them (three)?
 I know **none** of them (three).

- (2) 「どちらでも」の意に用ひることもある。(二物の場合)

Either will do.
 (どちらでもよろしい。)
 You may take **either**.
 (君はどちらでも取りなさい。)

Neither will do.
 (どちらもいけない。)
 Cherry-trees are planted **on either side** (= *on both sides*) of the road.
 (櫻の木は道の兩側に植ゑてある。)

108. Such.

- (1) **Such** の後に用ひる關係代名詞は通例 **as** である。(995 参照)

No one can beat **such as** you.

(誰も君の如き人を負かすことが出来ない。)

You are welcome to **such books as** I have.

(私の持つてゐる本は御自由に御使ひ下さい。)

- (2) **As such.**

He was a learned man, and was greatly respected **as such** (= *as a learned man*).

(彼は學者であつた、而して學者として大に尊敬された。)

- (3) **Such and such.**

She will always tell you that she has been to see **such and such** a play at **such a** theatre.

(彼女はどこそこの劇場でこれこれの芝居を見て來たといつも話します。)

第六章

形容詞

I. 形容詞の種類

109. 形容詞 (Adjective) は名詞又は代名詞を修飾し、その意義を限定し、物の性質、形狀等を表はすものであるが、之を大別して次の三種とする。

- (1) 代名形容詞 (Pronominal Adjective)。

代名詞の性質を帯びた形容詞であつて、之が修飾せる名詞を除けば直ちに代名詞となるものである。人稱代名詞を除いた他の四種の代名詞は何れもこの種類に屬する。

- (2) 數量形容詞 (Quantitative Adjective)。

數又は量を表はす形容詞で、之に定、不定の區別がある。

- (3) 性狀形容詞 (Qualifying Adjective)。

性質又は狀態を表はすもので、形容詞の大部分は之に屬する。

形容詞			
代名形容詞	指示形容詞	this	that
	疑問形容詞	what?	which?
	関係形容詞	which	what
	不定形容詞	each	another
數量形容詞	定數量形容詞 (數詞)	one first twice	two second half
	不定數量形容詞	many much	few little some all
性狀形容詞	性狀形容詞	wise	noisy wide
	固有形容詞	Japanese	English
	物質形容詞	iron	silver
	動詞形容詞	rising	wounded

II. 代名形容詞

110. 代名形容詞 (Pronominal Adjective) は代名詞の性質を帯びてゐる形容詞であつて、單獨に用ふれば代名詞と變ずるものである。代名詞の中、人稱代名詞を除いた他の四種は何れもこの部類に屬することは既に述べた通りであるから、こゝには再説しない。

- (1) 指示形容詞。(¶74 参照)
- (2) 疑問形容詞。(¶80 参照)
- (3) 関係形容詞。(¶89, ¶97 参照)
- (4) 不定形容詞。(¶99 参照)

III. 數量形容詞

111. 數量形容詞 (Quantitative Adjective) は名の示す通り數又は量を表はす形容詞で之を更に次の二

種に大別する。

- (1) 定數量形容詞 (Definite Quantitative Adjective)。
- (2) 不定數量形容詞 (Indefinite Quantitative Adjective)。

112. 數詞 (Numeral) は定數量形容詞の一名であつて定數を表はす形容詞の謂である。數詞に三種ある。

- (1) 基数 (Cardinal)。
- (2) 序數 (Ordinal)。
- (3) 倍數 (Multiplicative)。

113. 基数は數の基本となるのでその名がある譯である。

- 1—10. one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten.
 11—20. eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen, eighteen, nineteen, twenty.
 21, 22, etc. twenty-one, twenty-two, etc.
 30, 40,90. thirty, forty, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety.
 100, 101, 102. one hundred, one hundred and one, one hundred and two.
 200, 300, etc. two hundred, three hundred, etc.
 1,000. one thousand.
 1,001. one thousand and one.
 1,100, 1,200, etc. eleven hundred, twelve hundred.
 2,000, etc. two thousand, etc.
 10,000. ten thousand.
 100,000. one hundred thousand.
 1,000,000. one million.
 1,000,000,000. one billion.
 123,456,789. one hundred and twenty-three million, four hundred and fifty-six thousand, seven hundred and eighty-nine.

114. 序數は主として順序を表はすに用ひられる數

詞であるからこの名がある。序数の前には the を冠するを通例とする。

1st—10th. first, second, third, fourth, fifth, sixth, seventh, eighth, ninth, tenth.

11th, 12th, 13th, etc. eleventh, twelfth, thirteenth, etc.

20th. twentieth.

21st, 22nd, 23rd, 24th, etc. twenty-first, twenty-second, twenty-third, twenty-fourth, etc.

30th, 40th. thirtieth, fortieth.

100th, 101st. hundredth, hundred and first.

1,000th. thousandth.

1000,000th. millionth.

115. 数詞の読み方。

No. 1=number one.

Page 3=page three, the third page.

Lesson 5=lesson five, the fifth lesson.

July 4(th)= { July (the) fourth.
the fourth of July.

1908 (年號)=nineteen (hundred and) eight.

Yotsuya 2057 (電話番號)=Yotsuya two o[ou] five seven.

George V.=George the fifth.

37°C.=thirty-seven degrees centigrade.

90°F.=ninety degrees Fahrenheit.

9.30 (時間)=half past nine, nine thirty.

The 7.15 a. m. train=the seven fifteen a [ei] m [em] train.

$\frac{1}{2}$ =one-half.

$\frac{1}{3}$ =one-third. $\frac{2}{3}$ =two-thirds.

$\frac{1}{4}$ =one-fourth, a quarter.

$2\frac{3}{4}$ =two and three-fourths (or three quarters).

$\frac{273}{359}$ =two hundred and seventy-three over three

hundred and fifty-nine.

3.005=three point nought nought five.

829.3079̄ = eight hundred and twenty-nine point three nought seven nine, seven nine recurring.

2+3=5. { Two and three make five.
Two plus three equals five.

5-3=2. { Three from five leaves two.
Five minus three equals two.

3×5=15. { Three times five is fifteen.
Three multiplied by five is fifteen.

6÷3=2. { Three into six goes twice.
Six divided by three makes two.

12:3=4:1. Twelve is to three as four is to one.

116. 倍数。

This is twice as long as that.

(これはその二倍の長さがある。)

He has twice as many books as I.

(彼は私の二倍の本を持つてゐる。)

The earth is forty-nine times as large as the moon.

(地球は月の四十九倍の大きさがある。)

I am half as old as that old man.

(私はあの老人の半分の年齢である。)

This book is twice and a half as heavy as that book.

(この本はあの本の二倍半の重さがある。)

其他。

double the size. (二倍の大きさ)

a half-holiday. (半休日)

a half-crown. (半クラウンの貨幣)

half the sum. (半分の金高)

half a pound. (半ポンド)

two hours and a half. } (二時間半)

two and a half hours. }

117. 数詞は名詞に轉用せられることがある。

[例] hundreds of books. (幾百冊の本)

thousands of people. (幾千といふ人)

tens of thousands of people. (何萬といふ人)

dozens of eggs. (何十といふ卵)
 scores of people. (幾十人といふ人)
 He was a general in his twenties.
 (彼は二十代に大將となつた。)
 She married in her teens.
 (彼女は十代で結婚した。)
 They dispersed by twos and threes.
 (彼等は三々五々解散した。)

118. 複合形容詞の中の普通名詞は基数の後にあつても複数にはしない。(930 参照)

[例] a three-foot measure. (三尺さし)
 eight-hour labour. (八時間労働)
 a five-pound note. (五ポンド紙幣)
 a two-hundred-yard race. (二百ヤード競走)
 a three-year-old boy. (三歳の童子)

119. 不定數量形容詞の數を表はすものと量を表はすものとを下に表にて示す。

數	量
many apples	much sugar
few friends	little ink
a few friends	a little ink
some books	some money
any hats	any salt
no men	no money
enough eggs	enough wine
all boys	all the bread

120. 不定數量形容詞が物質名詞を修飾する時は量を表はし、抽象名詞を修飾する時は程度を表はし、複数名詞を修飾する時は數を表はす。

- (1) 量を表はすもの。
 There is yet **some** water left.
 (まだ少し水が残つてゐる。)
 He has not **any** money.
 (彼は金を少しも持つてゐない。)

I have drunk **all** the wine.
 (私はその葡萄酒を全部飲んでしまった。)
 There is **no** water.
 (少しも水がない。)

- (2) 程度を表はすもの。
 He has **some** patience, but not **any** courage.
 (彼は多少忍耐力はあるが、勇氣は少しもない。)
 He summoned forth **all** his courage.
 (彼はあるだけの勇氣を振り起した。)
 I have **no** knowledge of Latin.
 (私はラテン語の智識は少しもない。)

- (3) 數を表はすもの。
 Though there were **some** pretty pebbles on the shore, there were not to be found **any** shells, to the disappointment of **all** the children.
 (海岸には美しい小石はいくらかあつたけれども、貝殻は少しも見つからなかつたので、子供等は皆失望した。)

There are **no** trees there.
 (そこには少しも木がない。)
 I have **no** pencil.
 (私は鉛筆を一本も持つてゐない。)

121. Few, a few; little, a little.

Few と little は many と much の反對であつて、「多くない」「あまりない」「少ししかない」と「ない」方に重きを置き、a few と a little は none の反對で「ないではない」「少しはある」と「ある」方に重きを置いて言ふのである。Few と a few は數を表はし常に複数名詞に伴ひ、little と a little は量を表はし物質名詞に伴ふのである。

I made **few** mistakes.
 (僕はあまり間違ひをしなかつた。)
 He made **a few** mistakes.
 (彼は少しは間違ひをした。)

I have **little** money.

(僕は金をあまり持たない。)

I have **a little** money.

(僕は少しは金を持つてゐる。)

この區別は單に言ふ人の心持だけで、數量の多少にはよらない。

122. Not a few; not a little.

Not a few English boats have been sunk by German submarines.

(イギリスの船でドイツの潜水艦に沈められたのは夥しい數に上る。)

He has made **not a little** money on account of the war.

(彼は戦争で少なからず金を作つた。)

123. Many.

Many a sportsman died young.

(運動家で若死をした者は幾人も幾人もある。)

I bought ten stamps and **as many** postcards.

(私は切手十枚と端書をそれと同數即ち十枚買った。)

The fireflies looked like **so many** stars.

(螢は丁度それだけの星のやうに見えた。)

There are **a great many** books in the library.

(圖書館には非常に澤山の本がある。)

IV. 性狀形容詞

124. 性狀形容詞 (Qualifying Adjective) は物の性質又は形狀等を表はす形容詞であつて、形容詞の大部分は之に屬する。その用法に二種ある。

(1) **修飾用法 (Attributive Use)** とは形容詞を名詞の前に置いて直接之を修飾する用法である。

He is **a diligent** boy.

(彼は勤勉な少年である。)

I know **that old** man.

(私はあの老人を知つてゐる。)

(2) **敘述用法 (Predicative Use)** とは形容詞が動詞の補語となり間接に名詞を修飾する用法をいふ。

That boy is diligent.

(あの少年は勤勉である。)

He is old.

(彼は老人である。)

125. 大抵の形容詞は修飾的にも敘述的にも用ひられるが、中には一方にのみ用ひられるものがある。

(1) 修飾用法に限られた形容詞。

a wooden bridge. (木造の橋)

a mere child. (ほんの子供)

an elder brother. (兄)

a drunken man. (酔っぱらひ)

the very thing. (願つたり叶つたりの物)

(2) 敘述用法に限られた形容詞。

My family are all well.

(家族は皆丈夫です。)

They fell asleep.

(彼等は寝入つた。)

I am not afraid of the sea.

(私は海を恐れませんが。)

126. 形容詞の中には他の品詞より轉化したものがある。その中で固有名詞より轉化した形容詞を**固有形容詞 (Proper Adjective)** といふ。

(固有名詞)	(固有形容詞)
Japan (日本)	Japanese
China (支那)	Chinese
England (イギリス)	English
America (アメリカ)	American
France (フランス)	French
Germany (ドイツ)	German
Italy (イタリア)	Italian
Russia (ロシア)	Russian
Turkey (トルコ)	Turkish
India (インド)	Indian
Asia (アジア)	Asiatic

Europe (ヨーロッパ)	European
Siberia (シベリア)	Siberian
Persia (ペルシア)	Persian
Siam (シアム)	Siamese
Egypt (エジプト)	Egyptian
Greece (ギリシア)	Greek
Rome (ローマ)	Roman
Paris (パリ)	Parisian
Christ (キリスト)	Christian
Buddha (佛陀)	Buddhist

127. 固有形容詞の中、國名から作られたものは、その儘國語を表す。

I have studied both **English and French.**

(私は英語と佛語とを兩方研究した。)

He speaks **Russian** very well.

(彼は露語を話すのが大變うまい。)

128. 固有形容詞に the をつけて國民全體を表はすことがある。

The Japanese are a patriotic people.

(日本人は愛國心に富んだ國民である。)

The Germans are a hard-working people.

(ドイツ人は勤勉な國民である。)

129. 個人を指す場合には、單數ならば a 又は an を附し、複數ならばその變化を與へる。尤も中には複數になつても變化しないものもある。

(單數)	(複數)
a Japanese	Japanese
a Chinese	Chinese
an Englishman	Englishmen
an American	Americans
a Frenchman	Frenchmen
a German	Germans
an Italian	Italians
a Russian	Russians
a Turk	Turks

an Indian	Indians
an Egyptian	Egyptians
a Greek	Greeks
a Roman	Romans

130. 物質名詞より轉化せる形容詞を物質形容詞 (Material Adjective) といふ。

(1) 物質名詞と同形のもの。

a gold watch. (金時計)

an iron gate. (鐵の門)

a stone building. (石造の建物)

a steel pen. (鐵ペン)

a straw hat. (麥稈帽子)

(2) 語尾に -en をつけるもの。

a golden age. (黄金時代)

a wooden bridge. (木の橋)

woolen cloth. (毛織物)

131. 動詞から轉化せる形容詞を動詞形容詞 (Verbal Adjective) といふ。この種の形容詞は動詞の分詞 (Participle) から轉化するが故に之を分詞形容詞 (Participial Adjective) ともいふ。

(1) 現在分詞より來るもの。

an interesting story. (興味ある話)

a rising sun. (朝日)

the following example. (次の例)

a singing bird. (囀る鳥)

a sleeping lion. (眠れる獅子)

[比較]

{(a) a sleeping child. (眠れる子供)

{(b) a sleeping car. (寢臺車)

{(a) a walking dictionary. (生き字引)

{(b) a walking stick. (散歩用杖)

{(a) a smoking brand. (煙る燃えさし)

{(b) a smoking room. (喫煙室)

(a) は現在分詞から (b) は體用詞 (Gerund) から形容詞に轉化したものである。

(2) 過去分詞より來るもの。

a wounded soldier.	(負傷兵)
a printed paper.	(印刷した紙)
a well-known writer.	(有名な作家)
a lighted cigar.	(火のついた葉巻煙草)
a spoken language.	(口語)

上の例の如く多くは他動詞より来て受動の意味を持つものであるが、中には自動詞より来て能動の意味を持つものもある。

[例] a returned hero.	(凱旋した勇士)
a retired officer.	(退職した士官)
a fallen tree.	(倒れた木)
a faded flower.	(凋んだ花)
a well-behaved boy.	(行儀のよい少年)

132. 以上の外なほ他の品詞より轉化せる形容詞がある。

- (1) 普通名詞より。
- | | |
|-----------------------|---------|
| a school gate. | (校門) |
| a sea bird. | (海鳥) |
| a railway station. | (停車場) |
| a village blacksmith. | (村の鍛冶屋) |
| a summer vacation. | (夏期休暇) |
- (2) 固有名詞より。
- | | |
|-----------------------|-------------|
| the Japan Sea. | (日本海) |
| the Suez Canal. | (スエズ運河) |
| Victoria Station. | (ヴィクトリア停車場) |
| the Hakone Mountains. | (箱根連山) |
| Ueno Park. | (上野公園) |
- (3) 副詞より。
- | | |
|------------------------|------------|
| an up (or down) train. | (上り[下り]列車) |
| a through ticket. | (通し切符) |
| the then cabinet. | (時の内閣) |
| the above statement. | (上述) |
| the library there. | (そこの図書館) |

133. 複合形容詞 (Compound Adjective) とは異なる品詞が結び付いて一の形容詞となつたものをいふ。

a kind-hearted man.	(親切な人)
an ill-natured boy.	(意地の悪い少年)
a left-handed man.	(左利きの人)
grown-up people.	(大人)
a well-to-do merchant.	(裕福な商人)
a five-year-old boy.	(五才の子供)
a good-for-nothing youth.	(やくざな青年)
a hand-to-hand combat.	(白兵戦)
a hand-to-mouth life.	(其の日暮しの生活)

134. 形容詞が名詞として扱はれることがある。この場合多くは the を冠する。

(1) 複数名詞として。

The rich are not always happy.

(富者必ずしも幸福ではない。)

The strong should protect the weak.

(強者は弱者を保護しなければならぬ)

The killed and wounded lay on the field.

(死傷者は戦場に横はつてゐた。)

[例外]

The deceased (故人) 及び **the accused** (被告) は單數に扱はれる。

(2) 抽象名詞として。

The good is more important than the beautiful.

(善は美より大切である。)

(3) 物の部分を表はす。

the thick of the forest. (森の茂つた所)

the white of the egg. (卵の白身)

the dead of the night. (眞夜中)

注意: 一對をなし又は對照をなす場合には冠詞をつけない。

high and low, rich and poor. (貴賤貧富)

from bad to worse. (益, 悪い方へ)

135. 形容詞はその修飾する名詞の前に置くのが普通であるが、之には次の如き例外がある。

a consul general. (總領事)

things Chinese. (支那物)

from time **immemorial**. (太古より)
 something **strange**. (何か珍らしいもの)
 the **greatest difficulty imaginable**.
 ([これ以上は想像出来ぬ程の]最大困難)
 poet **laureate**. (桂冠詩人)
 a court **martial**. (軍法會議)
 Alfred the **Great**. (アルフレッド大王)
 George the **Fifth**. (ジョージ五世)

136. 形容詞は“be”と共に用ひて動詞又は助動詞の働をすることがある。この場合には多く前置詞を伴ふ。

- (1) 動詞の働をするもの。
 I am **fond of** music.
 (僕は音楽が好きだ。)
 He is **afraid of** the waves.
 (彼は波を恐れる。)
 They are **afraid to** disobey the laws.
 (彼等は[罰を]怖がつて法律に背かない。)
 She is **proud of** her son.
 (彼女は子息を自慢してゐる。)
 You need not be **ashamed of** your poverty.
 (君は貧困を恥づるに及ばない。)
 They must be **aware of** the fact.
 (彼等はその事實を知つてゐるに違ひない。)
 He is **ignorant of** it.
 (彼はその事を知らない。)
 I am **glad that** you have come.
 (君が来てくれて嬉しい。)
- (2) 助動詞の働をするもの。
 I am **able to** make a kite.
 (僕は紙鳶を作ることが出来る。)
 He is **sure to** come.
 (彼は来るに違ひない。)
 You are **free to** enter.
 (君は御自由に入つてよろしい。)
 He is **likely to** succeed.
 (彼は成功しさうだ。)

It is **impossible** that he has done so.
 (彼がさうした筈はない。)
 Is it **possible** that he is too busy to come?
 (彼は来られないほど忙しい筈があらうか。)

V. 比較

137. 事物を互に比較してその性質、状態、數量等の程度の相違を示すために、形容詞(副詞の中のある者をも含む)を變化する。この變化を**比較**(Comparison)といひ、三階段ある。

- (1) **原級**(Positive Degree)——形容詞本來の形で他と比較しない時に用ひる。
 [例] John is **tall**.
 (ジョンは丈が高い。)
- (2) **比較級**(Comparative Degree)——二者を比較してその程度の優れるを示す形。
 [例] Fred is **taller than** John.
 (フレッドはジョンより丈が高い。)
- (3) **最上級**(Superlative Degree)——三つ以上のものを比較して最大の程度を示す形。
 [例] Robert is the **tallest of** the three.
 (ロバートは三人の中で一番丈が高い。)

138. 比較の作り方。

- (1) 原級に -er, -est を添へる。
- | | | | |
|--------|-------|----------|-----------|
| small | (小さい) | smaller | smallest |
| fast | (速い) | faster | fastest |
| clever | (伶俐な) | cleverer | cleverest |
| narrow | (狭い) | narrower | narrowest |
| bitter | (苦い) | bitterer | bitterest |
- (2) 語尾に e ある語は -r, -st を添へる。
- | | | | |
|--------|-------|---------|----------|
| idle | (怠惰な) | idler | idlest |
| wise | (賢い) | wiser | wisest |
| polite | (丁寧な) | politer | politest |
| severe | (厳しい) | severer | severest |
| able | (有能な) | abler | ablest |

- (3) 語尾に子音が一つあつて、その前に一つの短母音ある時は、その子音を重ねて -er, -est を添へる。

big (大きい)	bigger	biggest
hot (暑い)	hotter	hottest
thin (薄い)	thinner	thinnest
fat (肥えた)	fatter	fattest
wet (濡つた)	wetter	wettest

- (4) 語尾が y にて終り、その前に子音ある時は y を i に變へてから -er, -est を添へる。

pretty (美しい)	prettier	prettiest
happy (幸福な)	happier	happiest
dry (乾いた)	drier	driest
early (早い)	earlier	earliest
merry (楽しい)	merrier	merriest

- (5) 語尾が y にて終つても、その前に母音ある時は y を i に變へない。

gay (陽氣な)	gay	gayest
grey (灰色の)	greyer	greyest

- (6) 二綴語の大部分と三綴以上の語は前に more, most を添へる。

careful (注意深い)	more careful	most careful
beautiful (美しい)	more beautiful	most beautiful
honest (正直な)	more honest	most honest
interesting (興味ある)	more interesting	most interesting
famous (有名な)	more famous	most famous

- (7) 二様に變化するもの。

common (普通の)	commoner	commonest
	more common	most common
pleasant (愉快な)	pleasanter	pleasantest
	more pleasant	most pleasant

- (8) 不規則なる變化をなすもの。

bad (悪い)	} worse	worst
ill (病める)		
evil (邪惡な)		

good (良い)	} better	best
well (壯健な)		

hind (後部の)	hinder	{ hindmost
		{ hindermost

late (晚い)	later (その後の)	latest (最近の)
	latter (後者の)	last (最後の)

fore (前の)	former (前者の)	{ foremost (真先の)
		{ first (最初の)

little (少い)	less	least
	lesser	

many (多数の)	} more	most
much (多量の)		

old (年取つた)	older	oldest
	elder (年長の)	eldest

near (近い)	nearer	nearest
		next (次の)

far (遠い)	farther	farthest
	further (此上の)	furthest

- (9) 次の副詞は比較級、最上級の時は形容詞となる。

in	inner	innermost
		inmost

out	outer	outermost
		outmost

utter	uttermost
	utmost

up	upper	uppermost
----	-------	-----------

- (10) 拉丁語の比較級 (Latin Comparatives) は -er でなく、すべて -or にて終り、後には than でなく to を用ひる。

superior to = greater than.

inferior to = less than.

anterior to } = earlier than.

prior to }

posterior to = later than.

senior to = older than.

junior to = younger than.

139. 用例。

John is as **clever** as Tom.

(ジョンはトムと同じ位伶俐だ。)

Fred is not so **clever** as John.

(フレッドはジョンほど伶俐ではない。)

John is **cleverer** than Fred.

(ジョンはフレッドより伶俐だ。)

Tom is the **cleverest** of the three.

(トムは三人の中で一番伶俐だ。)

My **elder** brother is two years **older** than your **elder** sister.

(僕の兄は君の姉より二歳年上だ。)

My father is **better** today.

(父は今日はよい方だ。)

He is **getting better** every day.

(彼は日に日によい方に向つてゐる。)

He came ten minutes **later** than usual.

(彼はいつもより十分後れて来た。)

This is the **latest** news from him.

(これは彼から来た最近の便りだ。)

I received it **last** night.

(僕は昨夜之を受取つた。)

The **last** effort was in vain.

(最後の努力も功を奏しなかつた。)

In **former** times he was much respected, but it is not so in these **latter** days.

(彼は以前は随分尊敬されたが此頃はさうでもない。)

Jack and Jim are absent; the **former** has gone into the country and the **latter** is ill in bed.

(ジャックとジムは缺席だ、前者は田舎に行つており、後者は病気で臥つてゐる。)

Our school is **farther** than yours.

(僕等の学校の方は君の学校より遠い。)

I have nothing to say **further**. [副詞]

(この上言ふことは何もない。)

I have no **further** news from him.

(彼からはそれつきり便りがない。)

This is **superior** to that.

(これはそれより優つてゐる。)

140. 二者を比較して一方が他に劣れることを表はすには、比較級に **less** 最上級には **least** を前に附ける。

This novel is **less interesting** than that.

(この小説はそれよりは面白くない。)

John is **less bright** than Fred.

(ジョンはフレッドより伶俐でない。)

This book is the **least interesting** of all.

(この本はすべての中で一番面白くない。)

141. 最上級には **the** を冠するのが普通であるが、比較級の場合でも “of the two” を後に伴ふ時は **the** を冠する。

He is **the oldest** of all our classmates.

(彼は僕等の級友中で一番年上だ。)

He is **the taller** of the two.

(彼は二人の中では高い方だ。)

142. 原級又は比較級を用ひて最上級の意を表はすことも出来る。

Mt. Fuji is **higher than any other** mountain in Japan.

(富士山は日本のどの外の山よりも高い。)

Nothing is so important than this.

(これほど重要なことはない。)

There is **nothing more pleasant** than a sea-voyage.

(船の旅より愉快なものはない。)

143. 最上級に **the** を冠せない場合がある。

Most foreigners go to Hakone.

(大抵の外人は箱根へ行く。)

Most learned men are poor.

(大抵の學者は貧乏だ。)

He is a **most** brave man.

(彼は非常に勇敢な人だ。)

This is a most interesting story.

(これは素敵に面白い話だ。)

144. 慣用句。

We were more or less excited.

(吾々は多少興奮してゐた。)

Life is short at (the) best.

(人生はいくら長くても知れたものだ。)

It may be worth five yen at (the) most.

(それは高く見積つても五圓位のものだ。——五圓が關の山だ。)

It will take three days at least.

(それは少くとも三日はかゝる。)

I am not satisfied in the least.

(私は少しも満足しない。)

They are, for the most part, worthless articles.

(それは大概詰らぬ代物だ。)

He breathed his last.

(彼は最後の息を引取つた。)

I will do my best.

(僕は最善を盡さう。)

I was not a little surprised.

(僕は少なからず驚いた。)

第七章

動詞

I. 動詞の種類

- 145. 動詞 (Verb) の種類を大別して二とする。即ち自動詞と他動詞とである。更に敘述の完全、不完全によつて各々を完全動詞、不完全動詞に分ける。之を表にて示せば次の通り。**

自動詞	完全自動詞	目的語補語共に不要
	不完全自動詞	補語を要する
他動詞	完全他動詞	目的語を要する
	不完全他動詞	二重目的語を要する

文の五種の形式はこの五種の動詞から生ずるのである。(¶14 参照)

146. 完全自動詞。

A bird sings.

(鳥は歌ふ。)

She dances well.

(彼女は踊りがうまい。)

The wind is blowing.

(風が吹いてゐる。)

After breakfast, he went upstairs and read for half an hour.

(朝食の後彼は二階へ上つて半時間讀書した。)

147. 不完全自動詞。

He is an aviator.

(彼は飛行家だ。)

He has become a teacher.

(彼は教員になつた。)

That boy looks clever.

(あの少年は伶俐さうに見える。)

He appeared sleepy.

(彼は眠さうに見えた。)

This rose smells sweet.

(この薔薇はよい香がする。)

It is getting dark.

(暗くなつて来る。)

He remained silent.

(彼は相變らず黙つてゐた。)

148. 完全他動詞。

- You must obey the laws.**
(法律には従はねばならぬ。)
- I heard the waves.**
(私は波の音を聞いた。)
- I have a piano.**
(私はピアノを持つてゐる。)
- I can speak English.**
(私は英語を話すことが出来る。)

149. 二重目的語を取る動詞。

- He gave me a watch.**
(彼は私に時計を呉れた。)
- May I ask you a question?**
(質問をしてもよろしいか。)
- Mr. Smith teaches us English.**
(スミス先生は私達に英語を教へる。)
- Tell me the way to the station.**
(停車場へ行く道を教へて下さい。)
- Bring me the newspaper.**
(新聞を持つて来て呉れ。)
- Show me another hat.**
(もう一つの帽子を見せて下さい。)

150. 不完全他動詞。

- I kept the window open.**
(私は窓を開けて置いた。)
- I caught the hare alive.**
(私は兎を生捕にした。)
- It drove him mad.**
(それは彼を狂氣にした。)
- I left it undone.**
(私はそれを爲さずにおいた。)
- They call him a liar.**
(人は彼を嘘つきと云つてゐる。)
- They elected him mayor.**
(彼等は彼を市長に選挙した。)
- I had my photograph taken.**
(私は寫眞をうつして貰つた。)

- I heard him speak Italian.**
(私は彼のイタリー語を話すのを聞いた。)

151. 同一の動詞が自他何れにも用ひられることがある。(99 参照)

- The cat can see in the dark.**
(猫は闇やみで眼が見える。)
- I see a cloud in the sky.**
(私は空に雲を見る。)
- The bell is ringing.**
(ベルが鳴つてゐる。)
- Ring the bell please.**
(どうぞベルを鳴して下さい。)
- He speaks very fast.**
(彼は早口に話す。)
- He speaks French fluently.**
(彼はフランス語を流暢に話す。)

152. 自動詞は目的語を取らないのが原則であるが、時には同族目的を取り他動詞となることがある。(942 参照)

- I dreamed a strange dream.**
(私は妙な夢を見た。)
- He died a peaceful death.**
(彼は大往生を遂げた。)
- We laughed a hearty laugh.**
(私どもは腹の底から笑つた。)
- They fought many battles.**
(彼等は多くの戦をした。)
- She smiled a sweet smile.**
(彼女はにこやかに微笑した。)
- She sang a merry song.**
(彼女は楽しい歌を歌つた。)
- They are running a race.**
(彼等は競走をしてゐる。)

II. 動詞の活用

153. 動詞には原形又は根 (Root)、過去 (Past) 及び過去分詞 (Past Participle) の三つの形がある。之を動詞の三主要形 (Three Principal Parts) といひ、この語形の三段變化を活用 (Conjugation) といふ。動詞の原形に -ed を附して過去及び過去分詞となるものを規則動詞 (Regular Verb) といひ、然らざるものを不規則動詞 (Irregular Verb) といふ。

154. 規則動詞。

- (1) 單に -ed を附けるもの。
- | | | |
|-----------|--------|--------|
| look (見る) | looked | looked |
| call (呼ぶ) | called | called |
| jump (跳ぶ) | jumped | jumped |
| play (遊ぶ) | played | played |
| wash (洗ふ) | washed | washed |
- (2) 語尾に e ある語は -d のみを附ける。
- | | | |
|------------|-------|-------|
| like (好む) | liked | liked |
| hope (望む) | hoped | hoped |
| love (愛する) | loved | loved |
| use (用ひる) | used | used |
| die (死ぬ) | died | died |
- (3) y にて終りその前に子音のある時は y を i に變じてから -ed を附ける。
- | | | |
|--------------|---------|---------|
| study (勉強する) | studied | studied |
| try (試みる) | tried | tried |
| carry (運ぶ) | carried | carried |
| cry (叫ぶ) | cried | cried |
- (4) 一つの子音にて終り、その前に一つの短母音ある時は、その子音を重ねて -ed を附ける。
- | | | |
|-----------|---------|---------|
| stop (止る) | stopped | stopped |
| beg (乞ふ) | begged | begged |
| drop (落す) | dropped | dropped |
| nod (頷く) | nodded | nodded |
- (5) 二綴以上の語で前項の條件を具備し、且つ最後の

音節に強勢 (accent) あるものは、最後の子音を重ねて -ed を附ける。

omit (省略する)	omitted	omitted
admit (入れる)	admitted	admitted
occur (起る)	occurred	occurred
prefer (好む)	preferred	preferred
refer (言及する)	referred	referred

〔比較〕

visit (訪問する)	visited	visited
limit (制限する)	limited	limited
offer (提供する)	offered	offered
differ (異なる)	differed	differed

155. 不規則動詞。

- (1) 過去と過去分詞の同じもの。
- (a)
- | | | |
|------------|-------|-------|
| lay (横へる) | laid | laid |
| pay (拂ふ) | paid | paid |
| say (言ふ) | said | said |
| hear (聞く) | heard | heard |
| flee (逃げる) | fled | fled |
| sell (賣る) | sold | sold |
| tell (告る) | told | told |
| have (持つ) | had | had |
| make (作る) | made | made |
- (b)
- | | | |
|-------------|-------|-------|
| burn (燃える) | burnt | burnt |
| deal (扱ふ) | dealt | dealt |
| leap (跳ぶ) | leapt | leapt |
| mean (意味する) | meant | meant |
| dwell (住む) | dwelt | dwelt |
| smell (香ふ) | smelt | smelt |
| spill (こぼす) | spilt | spilt |
| spell (綴る) | spelt | spelt |
| bend (曲げる) | bent | bent |
| lend (貸す) | lent | lent |
| rend (裂く) | rent | rent |
| send (送る) | sent | sent |
| spend (費す) | spent | spent |
| build (建つ) | built | built |
| lose (失ふ) | lost | lost |

leave (残す)	left	left
creep (這ふ)	crept	crept
keep (保つ)	kept	kept
sleep (眠る)	slept	slept
sweep (掃く)	swept	swept
weep (泣く)	wept	wept
feel (感ずる)	felt	felt
kneel (跪く)	knelt	knelt
(c) catch (捕へる)	caught	caught
teach (教へる)	taught	taught
buy (買ふ)	bought	bought
bring (齎らす)	brought	brought
fight (戦ふ)	fought	fought
seek (求める)	sought	sought
think (思ふ)	thought	thought
(d) bleed (出血する)	bled	bled
breed (育てる)	bred	bred
feed (養ふ)	fed	fed
lead (導く)	led	led
read (讀む)	read [e]	read [e]
meet (會ふ)	met	met
hold (保つ)	held	held
behold (見る)	beheld	beheld
sit (坐る)	sat	sat
spit (唾する)	spat	spat
get (得る)	got	got
shoot (射る)	shot	shot
win (勝つ)	won	won
shine (輝く)	shone	shone
dig (掘る)	dug	dug
spin (紡ぐ)	spun	spun
stick (固着する)	stuck	stuck
strike (打つ)	struck	struck
stand (立つ)	stood	stood
understand (理解する)	understood	understood
cling (縋る)	clung	clung
fling (投げる)	flung	flung
sting (刺す)	stung	stung

swing (揺る)	swung	swung
wring (絞る)	wrung	wrung
hang { (吊す) (絞殺する)	hung hanged	hung hanged
bind (縛る)	bound	bound
find (見出す)	found	found
grind (搗く)	ground	ground
wind (巻く)	wound	wound
(2) 原形と過去分詞の同じもの。		
run (走る)	ran	run
come (來る)	came	come
become (成る)	became	become
(3) 三段とも異なるもの。		
(a) begin (始める)	began	begun
drink (飲む)	drank	drunk
shrink (縮む)	shrank	shrunk
sink (沈む)	sank	sunk
ring (鳴る)	rang	rung
sing (歌ふ)	sang	sung
spring (はねる)	sprang	sprung
swim (泳ぐ)	swam	swum
(b) break (破る)	broke	broken
speak (話す)	spoke	spoken
choose (選ぶ)	chose	chosen
freeze (凍る)	froze	frozen
steal (盗む)	stole	stolen
weave (織る)	wove	woven
bite (噛む)	bit	bitten
hide (隠す)	hid	hidden
tread (踏む)	trod	trodden
forget (忘れる)	forgot	forgotten
bear { (産む) (運ぶ)	bore	{ born borne
tear (引裂く)	tore	torn
wear (着る)	wore	worn
swear (誓ふ)	swore	sworn
lie (横はる)	lay	lain
fly (飛ぶ)	flew	flown
(c) blow (吹く)	blew	blown

grow (成長する)	grew	grown
know (知る)	knew	known
throw (投げる)	threw	thrown
take (取る)	took	taken
mistake (誤る)	mistook	mistaken
shake (振る)	shook	shaken
forsake (捨てる)	forsook	forsaken
rise (起る)	rose	risen
drive (追ふ)	drove	driven
strive (努める)	strove	striven
thrive (榮える)	throve	thriven
ride (乗る)	rode	ridden
write (書く)	wrote	written
go (行く)	went	gone
do (爲す)	did	done
draw (引く)	drew	drawn
fall (落ちる)	fell	fallen
give (與へる)	gave	given
see (見る)	saw	seen
eat (食ふ)	ate	eaten
bid (命ずる)	bade	bidden
forbid (禁ずる)	forbade	forbidden
slay (殺す)	slew	slain
(d) show (示す)	showed	shown
saw (鋸で挽く)	sawed	sawn
swell (脹らむ)	swelled	swollen
awake (起す)	awoke	awaked
beat (打つ)	beat	beaten
be (ある)	{ was were }	been
(4) 三段とも同じもの。		
burst (破裂する)	burst	burst
cast (投げる)	cast	cast
cost (價する)	cost	cost
cut (切る)	cut	cut
hit (打つ)	hit	hit
hurt (害する)	hurt	hurt
let (許す)	let	let
put (置く)	put	put

rid (除く)	rid	rid
set (据る)	set	set
shed (流す)	shed	shed
shut (閉ぢる)	shut	shut
split (割く)	split	split
spread (擴げる)	spread	spread
thrust (突刺す)	thrust	thrust

156. 三主要形の用法。

(1) 原形。

そのまゝの形にて現在形として用ひられる。但し“be”は別に現在形を持つてゐる。原形は命令文に用ひられ、又 shall, will と共に未來形を作る。原形は又語尾に -ing をつけて現在分詞を作る。

(2) 過去。

過去の動作を表はす時に用ひられる。必ず單獨に用ひられ、他の助動詞に伴ふことは決して無い。

(3) 過去分詞。

特別の場合の外は單獨に用ふることがなく、助動詞“have”又は“be”と共に用ひるのが常である。

157. -ing の付け方。

(1) 動詞の原形に直接つける。

be	— being	do	— doing
sing	— singing	stand	— standing
look	— looking		

(2) 語尾に e ある時は e を除いて -ing をつける。

come	— coming	write	— writing
make	— making	live	— living
take	— taking		

(3) 一つの短母音と一つの子音にて終り、その音節に強勢ある時は最後の子音を重ねて -ing をつける。

sit	— sitting	beg	— begging
begin	— beginning	swim	— swimming
stop	— stopping	occur	— occurring

(4) -ie にて終るものは之を y に變へて -ing をつける。

die	— dying	tie	— tying
lie	— lying	vie	— vying

III. 時形の作り方

158. 動詞の示す動作の時期を表はすための變化を時形 (Tense) といふ。これに**現在 (Present)**、**過去 (Past)** 及び**未來 (Future)** の三種ある。この三つを**基本時形 (Primary Tenses)** といふ。

159. **現在形 (Present Tense)** は“be”を除く外はすべて動詞の原形をその儘用ひる。尤も主語が第三人稱單數の時に限り、原形の語尾に -s 又は -es を付ける。但し“be”と“have”とは例外である。今例を“speak”と“go”とに取り、各人稱に當て嵌めてその現在形を下に示す。

speak

I speak.
You speak.
He (She, It) speaks.
We speak.
You speak.
They speak.

go

I go.
You go.
He (She, It) goes.
We go.
You go.
They go.

160. “Be”と“have”との現在形は次の如くなる。

be

I am.
You are.
He (She, It) is.
We are.
You are.
They are.

have

I have.
You have.
He (She, It) has.
We have.
You have.
They have.

161. **過去形 (Past Tense)** は動詞活用の第二段を用ひる。この形は“be”以外は人稱及び數によつて變化することがない。

speak

I
You
He (She, It)
We
You
They

spoke.

go

I
You
He (She, It)
We
You
They

went.

be

I was.
You were.
He (She, It) was.
We were.
You were.
They were.

have

I
You
He (She, It)
We
You
They

had.

162. **未來形 (Future Tense)** は原形の前に助動詞 shall 又は will を添へて作る。第一人稱には shall, 第二、第三人稱には will を用ひる。

speak

I shall speak.
You will speak.
He (She, It) will speak.
We shall speak.
You will speak.
They will speak.

go

I shall go.
You will go.
He (She, It) will go.
We shall go.
You will go.
They will go.

be

I shall be.
You will be.
He (She, It) will be.
We shall be.
You will be.
They will be.

have

I shall have.
You will have.
He (She, It) will have.
We shall have.
You will have.
They will have.

163. 更に又動作の完了を示す形があつて、これにも現在、過去、未來の三種ある。之を**完了時形** (Perfect Tenses) といふ。完了時形の一般の形は **have+過去分詞** であつて、現在、過去、未來の三つの變化は have を三通りに變化して之を作るのである。この場合の have は助動詞である。

164. **現在完了形** (Present Perfect Tense) の一般の形は **have (or has)+過去分詞** である。

speak

I have spoken.
You have spoken.
He has spoken.
We have spoken.
You have spoken.
They have spoken.

go

I have gone.
You have gone.
He has gone.
We have gone.
You have gone.
They have gone.

be

I have been.
You have been.
He has been.
We have been.
You have been.
They have been.

have

I have had.
You have had.
He has had.
We have had.
You have had.
They have had.

165. **過去完了形** (Past Perfect Tense) の一般の形は **had+過去分詞** で、人稱と數に關係なく、すべて同一である。

speak**go****be****have**

I	}	{	had spoken.
You			had gone.
He			had been.
We			had had.
You			
They			

166. **未來完了形** (Future Perfect Tense) の一般の形は **shall (or will) have+過去分詞** である。

speak

I shall have spoken.
You will have spoken.
He will have spoken.
We shall have spoken.
You will have spoken.
They will have spoken.

go

I shall have gone.
You will have gone.
He will have gone.
We shall have gone.
You will have gone.
They will have gone.

be

I shall have been.
You will have been.
He will have been.
We shall have been.
You will have been.
They will have been.

have

I shall have had.
You will have had.
He will have had.
We shall have had.
You will have had.
They will have had.

IV. 時形の用法

167. 現在形の用法。

- (1) 現在の動作又は状態。
I see a warship in the sea.
(私は海に軍艦を見る。)
My brother is still abroad.
(私の兄はまだ洋行してゐる。)
- (2) 習慣的動作。
I get up at 5 every morning.
(私は毎朝五時に起床する。)
He deals in tea.
(彼は茶を商ふ。)
- (3) 一般的眞理。
The earth moves round the sun.
(地球は太陽の周りを廻轉する。)
The sun shines in the daytime.
(太陽は晝間輝く。)
- (4) 未來の確定的事實。
We have no school tomorrow.
(明日は學校は休だ。)
We leave here the day after tomorrow.
(私どもは明後日當地を出發する。)
- (5) 未來の代用(未來の時又は無意志條件を表はす副詞節に於て)。
I shall wait till he comes.
(彼の來るまで待たう。)
I will tell him so when I see him.
(彼に會つたら、さう言はう。)
I will go if it is fine tomorrow.
(明日天氣がよければ行かう。)
- [比較]
I doubt if it will be fine tomorrow. [名詞節]
(明日は晴天であるかどうか疑はしい。)
I shall be glad if you will come. [意志未來]
(君が來て下されば嬉しく思ひます。)
I don't know when he will come home.
(彼は何時歸つて來るかわからない。)[名詞節]

- (6) 歴史的現在 (Historic Present)。過去の事實を眼前に躍如たらしめる爲の描寫法。

A step is heard; the rescued man stands by his own fireside. With a cry of wild joy the mother rushes forward and falls into his arms.

(足音が聞える、救はれた人は懐かしい爐邊に立つ。物狂はしい喜の歡聲をあげて母親は飛び出して行き、我が子の腕に抱かれる。)

168. 過去形の用法。

過去に於ける動作又は状態を表はす。

Columbus discovered America in 1492.

(コロンブスは1492年にアメリカを發見した。)

I was then in Paris.

(私は當時パリにゐた。)

過去の習慣は他の語を借りて次のやうに言ふ。

He used to sing that song when he was a schoolboy.

(彼は學生の時分よくあの歌を歌つた。)

He would often come to see me.

(彼は度々やつて來たものです。)

169. 未來形の用法。

- (1) 無意志未來(單なる未來。)

I shall.	Shall I?	— You will.
You will.	Shall you?	— I shall.
He will.	Will he?	— He will.

I shall get well in a few days.

(私は一兩日すると直りませう。)

You will be in time for the train.

(君は汽車に間に合ふでせう。)

He will be late for school.

(彼は遅刻するでせう。)

When shall I be able to read this book?

(いつ私はこの本を讀めるやうになるでせうか。)

— **You will be able to read it next year.**

(來年は讀めるやうになるだらう。)

When shall you reach Kyoto?

(京都へは何時着きますか。)

— **I shall get there tomorrow afternoon.**

(明日の午後向ふへ着きます。)

Will he come back tomorrow?

(彼は明日歸るでせうか。)

— **Yes, he will.**

(歸るでせう。)

(2) 話者の意志。

I will. = I intend to.

You shall. = I will let you.

He shall. = I will let him.

I will buy it, dear or cheap.

(高くても安くても僕はそれを買ふ。)

You shall have my answer tomorrow.

(明日御返事いたします。)

You shall not go.

(行くことは相ならん。)

You shall have this book.

(君にこの本を遣らう。)

He shall go with me next time.

(彼はこの次の時に一緒に連れて行かう。)

They shall be punished.

(彼等を罰しよう。)

(3) 主語の意志。

I will. (2) に同じ。

You will.

He will.

I shall be very glad if you will do it for me.

(君が僕の爲にそれをやつて下されば大變嬉しい。)

He says that he will buy a watch.

(彼は時計を買いたいといつてゐる。)

Whoever will, may come.

(誰でも來たい人は來てよらしい。)

(4) 相手の意志を問ふ時。

Shall I? — 命令。

Will you? — I will.

Shall he? — Let him.

What shall I do?

(何をいたしませうか。)

— **Post this letter, please.**

(この手紙を出して下さい。)

Shall I open the window?

(窓を開けませうか。)

— **Yes, if you please.**

(どうぞ願ひます。)

Will you kindly lend me the book?

(その本を貸して下さいませんか。)

— **Yes, I will.**

(宜しうございます。)

Which will you take, tea or coffee?

(お茶とコーヒーとどちらを召上りますか。)

When shall he come?

(彼はいつ來させませうか。)

— **Let him come this evening.**

(今晚來させて下さい。)

How often shall he take the medicine?

(彼に藥を幾度飲ませませうか。)

— **Let him take it after each meal.**

(毎食後飲ませなさい。)

170. “Will” は現在の習慣を表はすことがある。

He will often sit up all night, reading a novel.

(彼は小説を讀んで徹夜することが度々ある。)

The dog will follow its master.

(犬はよく主人の後をつけて行く。)

171. 現在完了形の用法。

(1) 完了。

Frost and snow have melted away.

(霜と雪が解けてしまった。)

Father has just returned.

(父は只今歸つたところです。)

(2) 經驗。

Have you ever seen a mummy?

(君はミイラを見たことがありますか。)

I have never seen a zebra.

(僕は斑馬を見たことがない。)

I have once heard him sing.

(私は一度彼の歌ふのを聞いたことがある。)

Have you ever been abroad?

(君は洋行したことがありますか。)

“Come” 及び “go” の完了形は經驗の意味には用ひない。經驗の意を表はすには “have been” を用ひる。

He has come.

(彼は来てゐる。)

He has gone to France.

(彼はフランスに行つてゐる。)

I have been in England.

(私はイギリスに行つたことがある。)

[比較]

I have been to Kamakura.

(僕は鎌倉へ行つて来た。)

(3) 繼續。

I have known him from a child.

(僕は彼を子供の時から知つてゐる。)

I have lived here for ten years.

(僕は十年間ここに住んでゐる。)

He has been ill since last month.

(彼は先月から病氣をしてゐる。)

He has been dead for three years.

(彼は死んでから三年になる。)

(4) 現在の狀態。

I have bought a watch.

(僕は時計を買つた。——今持つてゐる。)

I have caught cold

(僕は風邪をひいた。——今病氣中。)

I have lost my knife.

(僕はナイフを失くした。——今持つてゐない。)

He has gone abroad.

(彼は洋行した。——今外國に行つてゐる。)

School has begun.

(學校が始まつた。——今授業中。)

この用法は過去の動作を表はすのが主眼でなく、現在の狀態に主眼點を置くのであるから、過去の時を表はす副詞と共に用ひることが出来ない。

I bought a watch yesterday.

He went abroad last month.

When did you lose your knife?

(5) 未來完了形に代用。

Let me have it when you have done with it.

(おあきになつたら貸して下さい。)

172. 現在の時を含む副詞は現在完了形と共に用ひることが出来る。

We have been very busy today.

(今日は大變忙がしかつた。)

We have had much rain this spring.

(今年の春は雨が多かつた。)

The bell has rung already.

(ベルはもう鳴つた。)

There have been many fires lately.

(此頃は火事が多かつた。)

173. 現在完了形を作るに助動詞 “be” を用ひることがある。現在の狀態を表はす場合に限る。

He is gone.

(彼は行つてしまつた。——もうゐない。)

He is come.

(彼は来てゐる。)

The sun is set.

(太陽は没してしまつた。)

They are all grown up.

(みんな大きくなつてゐる。)

174. 過去完了形の用法。

(1) 完了。

He **had already left** for England when I **arrived** at New York.

(私がニュー・ヨークに着いた時彼は既にイギリスに出掛けてゐた。)

He **had not gone** far before he **was caught** in the rain.

(彼は遠く行かない内に雨にあつた。)

I **had scarcely set** foot on land when I **felt** well.

(私は地を踏むか踏まぬに快くなつた。)

He **had no sooner seen** me than he **went out**.

(僕の姿を見るや否や彼は出て行つた。)

(2) 経験。

The servant **had often been** on similar errands, but **had never got** anything for his trouble.

(召使は同様の使に度々行つたことがあつたが、未だかつて一度もその勞に對して駄賃を貰つたことがなかつた。)

He **knew** the village well, for he **had often been** there.

(彼はその村をよく知つてゐた、度々そこへ行つたことがあつたから。)

(3) 繼續。

He **had been absent** three days when I **called** on him.

(私は彼を訪問した時、彼は留守になつてから三日であつた。)

The road **was** very dusty, as there **had been** no rain for some time.

(暫く雨がなかつたものだから、道は大變埃だらけであつた。)

(4) 大過去(倒叙)。

He **cut** a tree with the ax which his father **had given** him.

(彼は父に貰つた斧で木を伐つた。)

I **did not know** what **had happened** during my absence.

(私は留守中に起つた事を知らなかつた。)

175. 未來完了形の用法。

(1) 完了。

I **shall have written** it by the time you come back.

(君の歸つて来るまでに僕は之を書いてしまふだらう。)

I **shall have reached** Osaka by this time tomorrow.

(明日の今頃までに僕は大阪へ着くだらう。)

(2) 繼續。

I **shall have lived** here for ten years by May next year.

(僕は來年の五月で十年こゝに住む事になる。)

Then I **shall have spent** fourteen hours in it.

(その時に僕は之に十四時間費した事になる。)

(3) 経験。

I **shall have met** him five times when I meet him again.

(もう一度彼に會ふと僕は五度彼に會つたことになる。)

V. 進行形

176. 進行形 (Progressive Form) は動作の進行中なることを表はすのがその役目である。之に前述の六つの時形がある。基本時形に於ては動作の進行中なることを表はし、完了時形に於ては繼續の意を表はす。進行形の一般の形は **be+...ing** で、之が六つの時形は“be”を變化することによつて作るのである。この **...ing** の形を現在分詞 (Present Participle) と稱すること及び **-ing** の付け方は前に述べた通りである。(¶156, ¶157 参照)

177. 現在進行形。

go

I am going.
 You are going.
 He is going.
 We are going.
 You are going.
 They are going.

speak

I am speaking.
 You are speaking.
 He is speaking.
 We are speaking.
 You are speaking.
 They are speaking.

〔例〕

I am writing a letter.
 (僕は手紙を書いている。)
 He is reading a newspaper.
 (彼は新聞を読んでいる。)
 They are playing on the beach.
 (彼等は濱邊で遊んでいる。)

178. 状態を表はす動詞は進行形にしない。

I know him very well.
 (僕はあの人をよく知っている。)
 He has a noble character.
 (彼は立派な人格を具へている。)
 She resembles her mother.
 (彼女は母親に似ている。)

179. 現在進行形は進行中の動作を表はす外なほ次の用法がある。

- (1) 未来の代用。
 I am leaving here tomorrow.
 (僕は明日當地を出発する。)
 He is coming this afternoon.
 (彼は今日午後やって来る。)
- (2) 動作の反復。
 He is always complaining of something or other.
 (彼はいつも何か不平を言っている。)
 He is always smoking.
 (彼はいつも煙草を喫っている。)
- (3) 瞬間的の動作。

The sun is setting in the west.
 (太陽は西に没せんとしてゐる。)
 He is dying of old age.
 (彼は老齡で死にかゝっている。)

180. “Go” の進行形の用法。

- (1) I am going to school.
 (=I am on my way to school.)
 (2) I am going abroad next year.
 (=I intend to go abroad next year.)
 (3) I am going to study law.
 (=I intend to study law.)
 (4) I am going to write a letter.
 (=I am about to write a letter.)
 (5) It is going to rain.
 (=It is about to rain.)

181. 過去進行形。

go

I was going.
 You were going.
 He was going.
 We were going.
 You were going.
 They were going.

speak

I was speaking.
 You were speaking.
 He was speaking.
 We were speaking.
 You were speaking.
 They were speaking.

〔例〕

I was taking a bath when you came.
 (君の来た時僕は入浴中であつた。)
 It was raining when I got there.
 (そこへ着いた時雨が降つてゐた。)
 The dog was dying when it was found.
 (その犬は見つかった時は死にかゝつてゐた。)

182. 未来進行形。

go

I shall be going.
 You will be going.

speak

I shall be speaking.
 You will be speaking.

He will be going. He will be speaking.
 We shall be going. We shall be speaking.
 You will be going. You will be speaking.
 They will be going. They will be speaking.

〔例〕

He will be studying his lessons if you go now.

(今行くと彼は勉強してゐるだらう。)

She will be cooking when you get to the house.

(家に着く時分には彼女は食事の仕度をしてゐるだらう。)

183. 現在完了進行形。

do

I have been doing.
 You have been doing.
 He has been doing.
 We have been doing.
 You have been doing.
 They have been doing.

〔例〕

It has been raining since last Sunday.

(此前の日曜からずっと雨が降つてゐる。)

What have you been doing all this while?

(君は今までずっと何をしておいたのですか。)

I have been reading a novel.

(僕は小説を読んでゐました。)

184. 過去完了進行形。

do

I	} had been doing.
You	
He	
We	
You	
They	

〔例〕

He had been studying English for some years before he went abroad.

(彼は洋行する前幾年か英語を勉強してゐた。)

I had been sleeping about two hours when the fire-bell rang.

(半鐘の鳴つた時僕はもう二時間許り眠つてゐた。)

185. 未来完了進行形。

do

I shall have been doing.
 You will have been doing.
 He will have been doing.
 We shall have been doing.
 You will have been doing.
 They will have been doing.

〔例〕

I shall have been teaching in this school for ten years by next March.

(来年三月で僕は本校に十年教へてゐることになる。)

That foreigner will have been living in Japan for twenty years by next April.

(あの外人はこの四月で二十年日本に住んでゐることになる。)

VI. 態

186. 文の主語が動作の主である時はその動詞を能動態 (Active Voice) といひ、主語が受身となり他より働きかけられる時は之を受動態 (Passive Voice) といふ。

〔例〕 Columbus discovered America in 1492.

(コロンブスは1492年にアメリカを発見した。)

America was discovered by Columbus in 1492.

(アメリカは 1492 年にコロンブスに発見された。)

187. 受動態即ち受身の一般の形は **be+過去分詞** で、その時形は“be”を變化して作る。例を take に取つてその時形を示せば次の如くである。

(現在形)

I am taken.	We	} are taken.
You are taken.	You	
He is taken.	They	

(過去形)

I was taken.	We	} were taken.
You were taken.	You	
He was taken.	They	

(未來形)

I shall be taken.	We shall be taken.
You } will be taken.	You } will be taken.
He }	They }

(現在完了形)

I	} have been taken.
You	
He has been taken.	
We	} have been taken.
You	
They	

(過去完了形)

I	} had been taken.
You	
He	
We	
They	

(未來完了形)

I shall have been taken.
You } will have been taken.
He }
We shall have been taken.

You	} will have been taken.
They	

(現在進行形)

I am being taken.	
You are being taken.	
He is being taken.	
We	} are being taken.
You	
They	

(過去進行形)

I was being taken.	
You were being taken.	
He was being taken.	
We	} were being taken.
You	
They	

188. 受身になり得る動詞は他動詞に限る。受身の進行形は現在形と過去形の二つだけである。

189. 能動態の文を受動態に變へる法。

- (1) 能動態の文の目的語を主語とする。
- (2) 受動態の文の主語に應じたる“be”の形を定め、特に時形を變へないやうに注意し、之に動詞の過去分詞を添へる。
- (3) 元の主語の前に“by”を添へた句を最後に置く。

{Everybody loves him.

{He is loved by everybody.

(彼は誰にも愛せられる。)

{The Strait of Dover unites the English Channel and the North Sea.

{The English Channel and the North Sea are united by the Strait of Dover.

(イギリス海峡と北海とはドーヴァー海峡にて連結せられる。)

{A thief stole a purse.

{A purse was stolen by a thief.

(財布が一つ窃盜に盗まれた。)

- {The teacher *will praise* me.
 {I **shall be praised** by the teacher.
 (僕は先生に賞められるだらう。)
 {Anybody *can solve* this problem.
 {This problem **can be solved** by anybody.
 (この問題は誰にでも解かれる。)
 {They **have made** me happy.
 {I **have been made** happy by them.
 (私は彼等の爲に幸福にされた。)
 {He *must have painted* this picture.
 {This picture **must have been painted** by him.
 (この繪は彼が書いたに違ひない。)
 {My sister *is painting* a picture.
 {A picture **is being painted** by my sister.
 (僕の姉は繪を書いてゐる。)

190. 能動態の主語即ち動作の行爲者が we, you, one, they, people など漠然一般的の意味を有する時は、受身に直す時之を省くのが普通である。反對に受動態から能動態に變へる場合には主語を適當に定めなければならない。

- {We *see* the moon and the stars at night.
 {The moon and the stars **are seen** at night.
 (月と星は夜見える。)
 {You *can trust* him.
 {He **can be trusted**.
 (あの人は信頼出来る。)
 {One *should keep* one's promise.
 {One's promise **should be kept**.
 (約束は守らなければならない。)
 {They *speak* English in America.
 {English **is spoken** in America.
 (アメリカでは英語が話される。)
 {People *say* that he is honest.
 {It **is said** that he is honest.
 (あの人は正直であるとのことです。)

191. 二重目的語を持つ動詞の受動態は二様に作る

ことが出来る。

- {He *gave me* a book.
 (彼は私に本を一冊呉れた。)
 {I **was given** a book by him.
 {A book **was given** me by him.
 {He *told me* a funny story.
 (彼は私に面白い話をしてくれた。)
 {I **was told** a funny story by him.
 {A funny story **was told** me by him.
 {He *teaches them* English.
 (彼は彼等に英語を教へる。)
 {They **are taught** English by him.
 {English **is taught** them by him.

上例の give, tell, teach の外に二重目的語を持つことの出来る動詞を挙げると

ask, bring, buy, lend, offer, send, show, write, etc.

である。

192. 動詞が熟語動詞(自動詞+前置詞又は動詞+名詞+前置詞)で、これが一個の他動詞の働をする場合には、之を一語の動詞の様に扱ひ、受身にすることが出来る。

- {We *sent for* the doctor at once.
 {The doctor **was sent for** at once.
 (醫者を直ぐに迎へた。)
 {A motor-car *ran over* a child.
 {A child **was run over** by a motor-car.
 (子供が自動車に轢かれた。)
 {He *laughed at* me.
 {I **was laughed at** by him.
 (私は彼に笑はれた。)
 {We *can rely on* him.
 {He **can be relied on**.
 (あの人は當てにすることが出来る。)
 {People *speak ill of* him.
 {He **is spoken ill of** (by people).
 (あの人は人に悪く言はれる。)

{ You must take good care of this book.
 { This book must be taken good care of.
 (この本は大切にしなければならない。)

193. 疑問詞のある疑問文の受動態は、矢張り疑問詞を文頭に置く。

{ Who broke the window?
 { By whom was the window broken?
 (誰が窓を壊したのか。)
 { What did he tell you?
 { What was told you by him?
 (何を彼は君に話したか。)
 { What were you doing?
 { What was being done by you?
 (君は何をしてみたか。)

194. 命令文を受身にするには“let”を用ひる。

{ Do it at once.
 { Let it be done at once.
 (直ぐに之をしなさい。)
 { Read your book aloud.
 { Let your book be read aloud.
 (本を大きい聲で讀みなさい。)
 { Take this letter to Mr. Smith's.
 { Let this letter be taken to Mr. Smith's.
 (この手紙をスミスさんの家まで持つて行つてくれ。)

195. 受身の場合に動作の行爲者の前に“by”以外の前置詞を用ひることがある。

{ Everybody knows him.
 { He is known to everybody.
 (彼は誰にも知られてゐる。)
 { The sight surprised me.
 { I was surprised at the sight.
 (僕はその光景を見て驚いた。)
 { My new servant pleases me.
 { I am pleased with my new servant.
 (今度の男は気に入った。)

196. 受動態の進行形は單純なる進行形によつて代用せられることがある。

The house is building.
 (家は建てられてゐる。)
 The trumpets are sounding.
 (喇叭が鳴つてゐる。)
 The book is printing.
 (その本は印刷中である。)
 The drums are beating.
 (太鼓が鳴つてゐる。)

VII. 助動詞

197. 助動詞 (Auxiliary Verb) は動詞とは趣を異にしてゐる。助動詞の中“be”, “have”, “do”の三はその變化及び用法共に動詞の場合に準ずれども、その他の助動詞は人稱及び數の變化もなく、現在と過去の二形はあれども過去分詞を缺く。中には過去形を缺くものもある。“Have”と“do”も助動詞としては現在と過去の二形あるのみである。助動詞の主なるものを下に示す。

現在	過去	過去分詞
be	was	been
am		
is		
are	were	
have	had	
has		
do	did	
does		
shall	should	
will	would	
can	could	
may	might	
must	—	

ought (to)	—
need (not)	—
dare	dared

198. Be の用法。

- (1) 現在分詞と共に進行形を作る。(¶176 参照)
 (2) 過去分詞と共に受動態を作る。(¶187 参照)

199. Have の用法。

過去分詞と共に完了形を作る。(¶163 参照)

200. Do の用法。

(1) 疑問文。

Do you like to hear the waves?

(君は波の音を聞くことを好みますか。)

Does he speak English?

(彼は英語を話しますか。)

How did you spend the holidays?

(君は休暇をどうして過しましたか。)

但し “be” 又は “have” の時は普通 do を用ひない。

Is she an American girl?

(彼女はアメリカの少女ですか。)

Have you many brothers?

(君は兄弟が澤山ありますか。)

又疑問詞が主語又は主語の修飾語となつてゐる時の肯定の疑問文にも do を用ひない。

Who told you so?

(誰が君にさう言ひましたか。)

Which boy won the prize?

(どの少年が入賞しましたか。)

(2) 否定文。

I do not believe it.

(僕はそれを信じない。)

I did not go there.

(僕はそこへ行かなかつた。)

否定文の時も “be” と “have” とは例外である。

He is not very well.

(彼はひどく丈夫でない。)

I have not any money with me.

(私は金を一文も持合せてゐない。)

否定詞が not でなく never の時には do を用ひない。

I never saw him.

(私は彼に會つたことがない。)

(3) 強勢。

Do tell me what he said.

(彼の言つたことを是非話して下さい。)

I did try, but have given it up.

(僕は試みることは試みたが、それを中止した。)

The wolf did come.

(狼は本當に來た。)

If you do fight, fight it out.

(苟も戦ふならば最後まで戦へ。)

(4) 副詞が文頭に来る時。

I know nothing about it, nor do I care.

(僕はそれについては何も知らない又知りたくもない。)

Never again did I go there.

(僕は二度とそこへは行かなかつた。)

Little did James think of the danger.

(チェームズは危険については少しも考へなかつた。)

(5) 代動詞 (Pro-verb)。

I do not write so quickly as he does.

(私は彼ほど早く書かない。)

I know as much as they do.

(私は彼等と同じ位に知つてゐる。)

Did you go there?—Yes, I did.

(君はそこへ行つたか。—はい、行きました。)

201. Shall } の用法。

Will }
 既説 ¶169, 170 参照。

202. Should の用法。

(1) 過去の未來。

I said that I should be at home by 5 o'clock.

(私は五時までに家に歸ると言ひました。)

He inquired when we **should** be back.
(吾々は何時歸つて来るかと彼は尋ねた。)

(2) 義務。

You **should** obey your parents.
(両親には服従すべきである。)
You **should** thank him for his kindness.
(君は彼の親切に對して感謝すべきである。)
You **should** have been more careful.
(君はもつと氣をつけるべきであつたのだ。)

Why **should** I go?

(何故行かなければならないか。——行かなくてもよいではないか。)

Why **should** I not go?

(何故行つてはいけないか。——行つてもよいではないか。)

(3) 當然。

It is *natural* that he **should** say so.
(彼がさう言ふのは當然である。)
It is *right* (*good, well, proper, important*) that you **should** have done so.
(君がさうしたのはよい——宜しい、當り前の、大事な——ことである。)
It is *necessary* that I **should** have the money.
(此金は是非なければならぬ。)

(4) 意外。

I am *surprised* that you **should** attempt such a thing.
(君がそんな事を企てるとは驚いた。)
I *wonder* such a man as he **should** have succeeded.
(彼の如き人が成功したとは不思議だ。)
It is *strange* that he **should** have broken his promise.
(彼が約束を破つたとはおかしい。)

(5) 消極目的。

He works hard *lest* he **should** fail.
(彼は失敗しないやうに一心に勉強する。)

(6) 万一。

If it **should** rain tomorrow, I shall stay at home.
(萬一明日雨天ならば僕は内にじっとしてゐよう。)

(7) 婉曲。

I **should** like to go abroad.
(僕は洋行したいものだ。)
I **should** think so.
(私はさう思ひます。)

203. **Would** の用法。

(1) 過去の未來。

He said he **would** do his best.
(彼は最善を盡さうといつた。)
We expected that he **would** succeed.
(彼は成功するだらうと吾々は豫期してゐた。)

(2) 意志、願望。

One who **would** succeed must work hard.
(成功したいと思ふ者は一心に勉強しなければならぬ。)
I **would** rather die than live in disgrace.
(生きて辱を受けるよりは死んだ方がましだ。)
Would that I were young.
(僕は年が若かつたらなあ。)

What **would** you have me do?

(君は僕にどうして呉れと言ふのか。)

(3) 過去の習慣。

He **would** often call on me at the office.
(彼はよく事務所へ私を訪ねて來たものだ。)
He **would** sit idle for hours.
(彼は幾時間も何もしないでぼんやりしてゐることがよくあつた。)

(4) 婉曲。

Would you kindly show me the way?
(道を教へて下さいませんか。)

204. **Can** (**could**) の用法。

(1) 能力。

I **can** (not) speak English.
(僕は英語を話すことが出来る——出来ない。)

I could not understand what he said.

(私は彼の言ったことが解らなかつた。)

Can の未来形及び完了形は “**be able to**” によつて補ふ。

I shall be able to read it next year.

(私は来年それが読めるだらう。)

I have been unable to go out for a week.

(私は一週間外出が出来なかつた。)

(2) 疑惑。

Can it be true?

(それは本當だらうか。)

What can this be?

(これは何だらう。)

Can he have told a lie?

(彼は嘘を吐いたらうか。)

(3) 否定的推定。

I cannot be true.

(それは本當である筈がない。)

This cannot be a cow.

(これは牛である筈がない。)

He cannot have said such a thing.

(彼はそんな事を言つた筈がない。)

(4) 許可。

You can take it home.

(君はそれを家へ持つて行つてもよい。)

(5) 慣用句。

I cannot but admire his bravery.

I cannot help admiring his bravery.

(彼の剛勇には感心せざるを得ない。)

You cannot be too careful.

(いくら注意しても尙足りない。)

205. **May (might)** の用法。

(1) 推量。

It may rain.

(雨が降るかも知れない。)

It may be true.

(それは本當かも知れない。)

He may have studied in England.

(彼はイギリスで勉強したかも知れない。)

(2) 許可。

May I ask you a question?

(質問してもよろしいか。)

You may play in this room.

(君等はこの室で遊んでよろしい。)

He said that I might go.

(私は行つてもよいと彼は言ひました。)

May の現在以外の時形は “**be allowed to**” を變化してこれを表はす。

I was allowed to go.

(私は行つてもよかつた。)

You will be allowed to enter the room.

(君はこの室に入つてもよいだらう。)

(3) 祈願。

May God bless you!

(神の冥護あらせ給へ。)

May you succeed!

(御成功を祈る。)

(4) 目的。

He studies hard that he may succeed.

(彼は成功せんが爲に一生懸命勉強する。)

He studied hard that he might succeed.

(彼は成功せんが爲に一生懸命勉強した。)

この場合 **that** の代りに **so that** 又は **in order that** を用ふるもよし。

(5) 可能。

A man may be known by his friends.

(人は交はる友によつて知られる。)

(6) 婉曲。

Might I ask your name?

(御名前は何と仰しやいますか。)

(7) 非難。

You might lend me the money.

(君は金を貸して呉れても宜かりさうなものだ。)

He might have offered to help.

(彼は助けると云つて呉れても宜かりさうなものだつたのに。)

- (8) 讓歩。
He may be a scholar, but he is not a good teacher.
 (彼は學者ではあらうが良教師ではない。)
Wherever you may go, you will find the same thing.
 (どこへ行つても同じことだ。)
- (9) 慣用句。
He may well be proud of his son.
 (彼はその子息を自慢するのも尤もである。)
One may as well not know a thing at all as know it but imperfectly.
 (ほんの不完全に物事を知る位なら、少しも知らない方がましだ。)
You might as well throw a stone at the sun as try to injure him.
 (あんな人を害しようとするのは太陽に石を投げようとするも同然である。)

206. Must の用法。

- (1) 必要。
I must do it myself.
 (私は自分で之をしなければならぬ。)
You must pay the money.
 (君は金を仕拂はなければならぬ。)
 Must の過去其の他の時形は “**have to**” を以て表はす。
I had to stay at home yesterday.
 (私は昨日家に蟄居しなければならなかつた。)
I shall have to buy a new hat.
 (僕は新しい帽子を買はなければならぬだらう。)
- (2) 禁止。
You must not tell a lie.
 (君は嘘を吐いてはならない。)
You must not smoke.
 (君は喫煙してはならない。)

- (3) 肯定的推定。
It must be true.
 (それは本當に違ひない。)
It must have been true.
 (それは本當であつたに違ひない。)
You must have heard of it.
 (君はそれについて聞いたに違ひない。)
What a sight it must have been!
 (嘸壯觀であつたらう。)
- (4) 主張。
I must know your reason.
 (是非その譯を聞かなければ僕は承知しない。)
If you must, you must.
 (是非にとあれば仕方がない。)

207. Ought の用法。

この語は常に “to” を伴ふ。助動詞に “to” を伴ふのはこの **ought** だけである。

- (1) 義務。
We ought to love our neighbours.
 (吾々は隣人を愛すべきである。)
You ought not to speak ill of others.
 (人の悪口を言ふものではない。)
It ought to be done at once.
 (それは直ぐしなければならぬ。)
It ought to have been done yesterday.
 (それは昨日して了はなければならなかつたのだ。)
You ought to have thanked him.
 (君は彼に禮を言ふべきであつたのだ。)
You ought not to have said such a thing.
 (君がそんなことを言つたのは不都合だ。)
- (2) 當然。
He ought to succeed.
 (彼の成功するのは當然だ。)
He ought to have succeeded.
 (彼の成功しないのは變だ。)

He ought not to fail.

(彼は失敗する筈がない。)

He ought not to have failed.

(彼の失敗したのは可らしい。)

208. Need の用法。

- (1) 疑問文。(不必要の意味を含む)。

Why need I go?

(行く必要がどこにあるか。)

Why need he work?

(働く必要があるものか。)

- (2) 否定文。(不必要の意)。

You need not go.

(君は行くに及ばない。)

He need not work.

(彼は働くに及ばない。)

You need not have done so.

(君はそんな事をするには及ばなかったのだ。)

本動詞としての need は “to” を伴ひ、第三人稱単数の場合には “s” を加へる。

{ **He needs no money.**

{ **He does not need any money.**

(彼は金の必要はない。)

He needs to learn.

(彼は学ぶことを要する。)

209. Dare の用法。

- (1) 疑問文。

Dare he do it?

(彼はそれをする勇氣があるか。)

How dare you say such a thing?

(君はよくもそんな事を言ったな。)

- (2) 否定文。

He dare not speak.

(彼は物を言ふ勇氣もない。)

He dared not show his face.

(彼は顔を出す勇氣もなかった。)

この助動詞も本動詞として用ひられる。

Does he dare to do it?

How do you dare to do such a thing?

He does not dare to speak.

He did not dare to show his face.

- (3) 慣用句。

You are hungry, I dare say.

(さぞ空腹でせう。)

You are right, I dare say.

(或は君の言ふ通りかも知れない。)

VIII. 法の種類

210. 動詞が動作又は状態を述べる時、その言ひ表はし方を法 (Mood) といふ。法に三種類ある。

- (1) 直説法 (Indicative Mood)

今まで述べて来た動詞の變化及び用法はすべてこの直説法である。直説法は單に事實を敘述する平敘文、疑問文に主として用ひられるのであるけれども、他の如何なる思想の形式の文でも大抵この直説法を以て表はすことが出来ること既に述べた通りである。直説法の時形は基本形の現在、過去、未來及び完了形の現在、過去、未來、合せて六個の時形を有することも既述した通りである。

- (2) 假定法 (Subjunctive Mood)

假設の條件、又は達せられない願望などを言ひ表はす法である。

- (3) 命令法 (Imperative Mood)

命令又は依頼を言ひ表はす。

IX. 假定法

211. 假定法 (Subjunctive Mood) の時形は次の四である。今 “be” を例に取つてその時形を下に示す。

現在	If.....be
未來	If.....should be
過去	If.....were
過去完了	If.....had been

212. 假定法現在 (Subjunctive Present)——現在又は未來の事柄に關して不確實なる條件を表はすに用ひる形で、人稱及び數に拘はらず常に動詞の原形を用ひる。即ち第三人稱單數の場合でも“s”を附けないのである。但し今日では多くの場合直説法を代用する。この條件を受ける文節には直説法を用ひる。

If it $\left\{ \begin{array}{l} \text{rain} \\ \text{rains} \end{array} \right\}$ tomorrow, I will not go.

(若し明日雨天ならば、私は行きません。)

If it $\left\{ \begin{array}{l} \text{be} \\ \text{is} \end{array} \right\}$ fine tomorrow, I will start.

(若し明日晴天ならば私は出掛けます。)

I wonder if (or whether) it $\left\{ \begin{array}{l} \text{be} \\ \text{is} \end{array} \right\}$ true.

(それは本當であるか知ら。)

I will start, whether it $\left\{ \begin{array}{l} \text{be} \\ \text{is} \end{array} \right\}$ fine or not.

(天氣は良くても悪くても私は出發する。——この文は**讓歩**を表はす。)

213. 假定法現在は獨立の文に於て**祈願**の意を表はす。

Long live the king!

(國王陛下萬歲。)

God save the king!

(神よ王を護らせ給へ。)

214. 假定法未來 (Subjunctive Future)——現在又は未來の強き疑を表はす形で、「萬一.....すれば」の意に用ひる。人稱に關係なく“should”を用ひる。

之に伴ふ文節には“should (would)+原形”、又時には“shall (will)+原形”を用ひる。

If I should fail, I would try again.

(萬一私が失敗したら、もう一度試みます。)

If anybody should come, tell him that I am not at home.

(萬一誰か來たら、留守だと云つて下さい。)

但し主語の意志を表はす場合には“should”の代りに“would”を用ひる。

If you would not be more careful, I should have to dismiss you.

(君がもつと注意深くしないと、暇を出さなければならなくなるだらう。)

215. 假定法過去 (Subjunctive Past)——現在の事實に反對の假定を表はす形で、常に複數の過去形を用ひる。之を條件とした文を受ける文節には“should (would, could, might, must)+原形”の形を用ひる。

If I were not so busy, I would try myself.

(そんなに忙しくなければ、自分でやつて見たいのであるが。)

If I had the time, I would try to do something for them.

(時間があれば彼等に何かしてあげたいのだが。)

If he were here, he might explain this.

(若し彼がここに居れば、これを説明するかも知れないのだが。)

He could, if he would.

(やる氣があれば出来るのだが。)

He would, if he could.

(出来ればやつて見るのだが。)

216. 未來の事實に反對の假定を表はすには，“were to.....”を以てする。之に伴ふ文節は前項に同じ。

If the sun were to rise in the west, I would not change my mind.

(假令太陽が西から出ても、私は心を變へるやうなことはしない。)

217. 假定法過去完了 (Subjunctive Past Perfect)

—過去の事實に反對の假定を表はす形で、動詞は過去完了形である。之が結びの文節には“should (would, could, etc.)+have+過去分詞”の形を用ひる。

If I had been there, I might have been killed.

(若し僕がそこにゐたならば、殺されたかも知れない。)

If it had been fine yesterday, we should have gone on an excursion.

(昨日若し晴天であつたら、遠足に行くところだつたのだが。)

218. 假定法の條件文の“if”を省略して、助動詞を主語の前に置くことがある。

Were I in his place, I would not do so.

(若し私が彼と處をかへてゐたら、さうはしないのだが。)

Should it rain tomorrow, the regatta will be put off.

(萬一明日雨天であれば、競漕會は延期されるだらう。)

Had the doctor come sooner, he would have been rescued.

(醫者がもつと早く来てゐたら、彼は助かつたらうに。)

Were it not for your help, he would not succeed.

(君の助力がなければ、彼は成功しなからう。)

Had it not been for your help, he would not have succeeded.

(君の助力がなかつたならば、彼は成功しなかつたらう。)

219. 假定法の特別用法。

(1) 達せられない願望。

I wish I were a bird.

(鳥であつたらなあ。)

I wish I had been there yesterday.

(昨日あそこへ行けばよかつたなあ。)

Would that I were young.

(年が若かつたらなあ。)

(2) “As if” の次。

He cries as if he were a girl.

(丸で女の子のやうに泣面だ。)

He looks as if nothing had happened.

(彼は何事もなかつたやうな顔をしてゐる。)

(3) 慣用句。

You had better go.

(君は行つた方がよからう。)

You had better not go.

(君は行かない方がよからう。)

He is, as it were, an incarnation of avarice.

(彼は言はゞ慾の固まりだ。)

He is a grown-up baby, as it were.

(彼は言はゞ成人した赤ん坊だ。)

We had (or would) rather die than be disgraced.

(恥をかくよりいつそ死ぬ方がましだ。)

220. 假定法を縮めたり又は全く省略して其の意味を含ませる場合がある。

But for (=If it had not been for) his rescue,

I should have been drowned.

(彼の救助がなかつたならば、僕は溺死したであらう。)

But for (=If it were not for) your help, he could not succeed.

(君の助力がなければ彼は成功が出来なからう。)

Without the sun, nothing could live.

(太陽がなければ何者も生きることが出来なだらう。)

I would not do such a thing.
 (僕ならそんなことをしようとは思はない。)
 I could have come earlier.
 (もつと早く来られたのだが。)
 He might at least have come to say good-bye.
 (せめて暇乞ひ位に来て呉れても宜かりさうなものだつた。)
 I should like to go with you.
 (御一緒に行きたいものです。)
 How would you explain it?
 (君ならそれを何う説明するか。)

X. 命 令 法

221. 命令法 (Imperative Mood) は命令、依頼、忠告、請願の意を表はす。命令法は常に動詞の原形を用ひ、時形は現在のみ、人稱は第二人称なれども通例主語は省略する。

Always speak the truth.
 (常に眞實を語れ。)
 Go at once.
 (直ぐ行け。)
 Be quiet.
 (静かにせよ。)
 Be honest.
 (正直にきなさい。)
 Keep still.
 (じつとしてゐなさい。)
 Give me some water.
 (水を少し下さい。)
 Shut the door, please.
 (どうか戸を閉めて下さい。)
 Give us this day our daily bread.
 (日々の糧を今日も授け給へ。)

222. 否定の命令即ち禁止の意を表はすには “do not” を附す。

Don't tell a lie.
 (嘘を吐くな。)
 Do not make a noise.
 (騒いではいけない。)
 Don't be idle.
 (怠けるな。)
 Don't despise a weak enemy.
 (小敵を侮る勿れ。)

223. 命令法に於て強勢のために “do” を原形の前につけることがある。

Do tell me what he said.
 (彼の言つたことを是非話して下さい。)
 Do get up, it's very late.
 (さあ起きなさい、大變晩い。)
 Do go, please!
 (どうか是非行つて下さい。)

224. 命令法に主語を言ひ表はす場合もある。この時は主語に強勢を置く。

Now, you go and get me my hammer, Will and you bring me the rule, Tom.
 (さあウイル、お前は行つて金槌を取つてお出で、それからトム、お前は定規を持つてお出で。)
 Don't you do that!
 (お前はそれをしてはいかぬ。)
 Don't you forget!
 (お前忘れないやうにしる。)

225. 受身の命令法は “be+過去分詞” の形を以て表はす。

Be trusted rather than feared.
 (怖がられるよりは寧ろ信用されよ。)
 Be loved rather than honoured.
 (敬はれるよりも寧ろ愛せられよ。)

226. 第二人称以外の命令には “let” を用ひる。之を間接命令といふ。

(1) 第一人稱。

Let me see the book.

(その本を私に見せなさい。)

Let me go.

(私を行かせて下さい。)

Let me know the truth.

(眞實を聞かせて下さい。)

第一人稱複數 (we=I+you) に對する要求は提案又は誘引の意味である。

Let us go out for a walk.

(散歩に出掛けませう。)

Let us make haste.

(急がうではありませんか。)

(2) 第三人稱。

Let him wait.

(待たせて置け。)

Let any one come.

(誰でも来るなら来い。)

Let him have his own way.

(好きなやうにさせて遣れ。)

Let each man do his best.

(各員努力せよ。)

Let the students respect their teacher.

(生徒は先生を尊敬せなければならない。)

Let this be done. (=Do this.)

(これを爲せ。)

227. 命令法の特別用法。

(1) 條件 (“and” 又は “or” と共に)。

Press the button, and the bell will ring.

(ボタンを押せばベルが鳴ります。)

Let us work while we can, and we shall not want when we are no longer able to work.

(働ける間働かう、さうすれば働けなくなつた時不自由しなからう。)

Make haste, or you will not be in time.

(急ぎなさい、さもなければ時間に間に合はない。)

Let him work hard, or he will fail.

(彼は一生懸命にやらないと失敗するだらう。)

(2) 讓歩(假定法現在をも含む)。

Do what you may, you will not succeed.

(君は何をやつても成功しなからう。)

Go where you will, you will not be employed.

(何處へ行つても君は使つて貰へないだらう。)

Say what we will, he doesn't mind us.

(何を言つても彼は吾々の云ふ事を聞かない。)

Say what he will, no one believes him.

(何を言つても誰も彼のいふ事を信じない。)

Cost what it may, I shall buy it.

(いくらしても僕はそれを買はう。)

Try as they may, they never succeed.

(どんなに試みても彼等は決して成功しない。)

Be the matter what it may, always speak the truth.

(何事によらず常に眞實を語れ。)

Be it ever so humble, there's no place like home.

(どんな賤が伏屋でも吾家に勝る所はない。)

(3) 慣用句。

Be it so. (それでよし。)

Suffice it to say that his death left his family in poverty.

(彼の死後家族は困窮したと言へば十分だ。——と言ふだけに止めて置かう。)

Suppose we all go together and ask him about it. (=let us)

(皆一緒に行つてそれに就て彼に尋ねようではないか。)

Suppose (or supposing) you were in his place, what would you do? (=if)

(君が彼の位置にゐたとしたら何うしますか。)

What do you say to going there in a week or so, say next Sunday? (=for instance)

(一週間かそこらしたら、まあ今度の日曜日にでも行くとしたら何うか。)

XI. 變體動詞

228. 動詞は述語 (Predicate Verb) として主語について或事柄を述べるのが本来の務であつて、述語はその人稱と數に於て主語に一致し、常に主語によつて形の制限を受けるものである。人稱、數、時形、法等の制限ある動詞を**限定動詞** (Finite Verb) といふのである。

229. 然るにそれ自身だけで述語になることが出來ず、文法上の主語を持つことも出來ない、従つて人稱、數等の制限を受けることもなく、動詞と他の品詞との性質を兼ね備へてあるものがある。之を**變體動詞** (Verbal) と稱する。

230. 變體動詞には次の三種ある。

(1) 不定詞 (Infinitive)

動詞の原形の前に“to”を添へたもので、名詞、形容詞又は副詞として用ひられる。

[例] to speak
to write

(2) 分詞 (Participle)

現在分詞と過去分詞の二種ある。前者は -ing に終り、後者は動詞活用の第三段であつて、共に形容詞の性質を帯びてあるもの。

[例] speaking spoken
writing written

(3) 體用詞 (Gerund)

-ing に終つて名詞の性質を有してあるもの。

[例] speaking
writing

XII. 不定詞

231. 不定詞 (Infinitive) の用法。

(1) 名詞の不定詞。

To sing well requires practice. [主語]

(うまく歌ふことは練習を要する。)

It is wrong to waste time. [,,]

(時を無駄にすることはよくない。)

I like to play in the open air. [目的語]

(僕は戸外で遊ぶことを好む。)

I make it a rule to take a walk in the evening.

(僕は夕方散歩することにしてゐる。)[,,]

I did not know what to say.

(私は何と言つてよいかわからなかつた。)

Tell me how to write. [,,]

(書き方を教へて下さい。)

My object is to become a soldier. [補語]

(僕の目的は軍人になることだ。)

He appears to be a wise man. [,,]

(彼は賢人らしい。)

They ordered him to be punished. [,,]

(彼等は彼を罰するやうに命じた。)

(2) 形容詞の不定詞。

I have no one to help me.

(誰も私を助けて呉れる人はない。)

There is no chair to sit on.

(坐るべき椅子がない。)

I want something to eat.

(何か食ふ物が欲しい。)

This is the house to let.

(これは貸家です。)

(3) 副詞の不定詞。

(a) 目的を表はすもの。

I will take you to see the game.

(試合を見に連れて行つてやらう。)

I hurried to the station to catch the train.

(汽車に乗れるやうに驛へ急いで行つた。)

(b) 原因を表はすもの。

I am glad to hear it.

(私はそれを聞いて嬉しい。)

I am sorry to have kept you waiting.

(お待たせ申して済みません。)

I could not help laughing to see the curious sight.

(妙な光景を見て笑はざるを得なかつた。)

(c) 結果を表はすもの。

He awoke one morning to find himself famous.

(彼は或朝眼を覺まして見ると有名になつてゐた。)

Columbus loved the ocean and grew to be a great sailor.

(コロンブスは海を好んだ、そして成長して偉大な水夫となつた。)

He worked hard only to fail.

(彼は一心に勉強したが、結果は失敗に終つた。)

(d) 理由を表はすもの。

He must be a fool to say such a thing.

(そんな事を言ふとは彼は馬鹿に相違ない。)

He must be crazy to talk like that.

(あのやうに話すとは彼は氣が狂つてるのだらう。)

(e) 程度を表はすもの。

He is old enough to understand this.

(彼はこれが分るだけの年になつてゐる。)

He is too angry to speak.

(彼は口も利けないほど怒つてゐる。)

(f) 形容詞の修飾語。

This book is worthy to read once.

(この本は一度讀む價值がある。)

This problem is hard to be solved.

(この問題は解くに六々しい。)

(4) 獨立不定詞 (Absolute Infinitive)——文法上他の部分とは關係はないが、全文を修飾する副詞句のやうにも見られる。

To speak the truth, I do not like him.

(實を言へば、私は彼を好まない。)

To make matters worse, he fell sick.

(その上困つたことには、彼は病氣になつた。)

He is, so to speak, a brute in human form.

(=as it were)

(彼は言はゞ人間の姿をした獣だ。)

To be frank, I cannot agree with you.

(打明けて言へば、私はあなたに同意出来ない。)

獨立不定詞の他の例を下に示す。

to be brief. (手短かに言へば)

to be sure. (なるほど)

strange to say. (妙な話だが)

to say nothing of..... } (言ふまでもなく)

not to speak of..... }

to do him justice. (公平に判断すれば)

to begin with. (第一に)

to cite an instance. (一例を挙げれば)

232. 不定詞には限定動詞に見るやうな嚴格な時形はないが、形の上に於て單純不定詞 (Simple Infinitive) と完了不定詞 (Perfect Infinitive) の二種ある。

	單純不定詞	完了不定詞
能動態	to take	to have taken
受動態	to be taken	to have been taken
進行形	to be taking	to have been taking

233. 二種の不定詞と述語の時形との關係を述べると、單純不定詞は述語の示す時と同時に又はそれより以後の時を表はし、完了不定詞はそれより以前の時又は不實現の意を表はす。

He is said to be rich.

=It is said that he is rich.

- (彼は金持であるとのことです。)
He is said to have been rich.
 =It is said that he was rich.
 (彼は金持であつたとのことです。)
He was said to be rich.
 =It was said that he was (or has been) rich.
 (彼は金持であるとのことでした。)
He was said to have been rich.
 =It was said that he had been rich.
 (彼は金持であつたとのことでした。)
He seems to be honest.
 =It seems that he is honest.
 (彼は正直であるらしい。)
He seems to have accomplished his task.
 =It seems that he (has) accomplished his task.
 (彼は彼の仕事を成就したらしい。)
He seemed to be studying hard.
 =It seemed that he was studying hard.
 (彼は一心に勉強してゐるらしかつた。)
He seemed to have been studying hard.
 =It seemed that he had been studying hard.
 (彼は一心に勉強してゐたらしかつた。)
I expect him to come.
 =I think that he will come.
 (私は彼が来るだらうと思ふ。)
I expected to succeed.
 =I thought I should succeed.
 (私は成功しようと思つた。)
I expected to have succeeded.
 =I expected to succeed, but I failed.
 (私は成功せんと期してゐたが豫期に反した。)
I intend to go there.
 =I think I shall go there.
 (僕はそこへ行かうと思ふ。)
I intended to go there.
 =I thought I should go there.
 (僕はそこへ行かうと思つてゐた。)

- I intended to have gone there.**
 =I intended to go there, but I did not.
 (僕はそこへ行かうと思つてゐたが、行かなかつた。)
I am glad to have done it.
 =I am glad I did (or have done) it.
 (私はそれをしてつて嬉しい。)
- 234.** 不定詞には文法上の主語を有しないことは言ふまでもないが、**意味上の主語 (Sense Subject)** を持つことは屢々ある。
- I want to go there.**
 (私はそこへ行かうと思ふ。)
I want you to go there.
 (私は君にそこへ行つてもらひたい。)
I told the boys to be quiet.
 (私は少年達に静かにして呉れといつた。)
This book is too difficult for me to read.
 (この本は私には六々しくて讀めない。)
They waited for me to speak.
 (彼等は私の話すのを待つてゐた。)
It is very kind of you to do so.
 (あなたがさうして下さつて御親切さま。)
- They ordered the maid to open the gate.**
The maid was ordered to open the gate.
The gate was ordered to be opened by the maid.
 (門は女中に開けさせられた。)
- 235.** 不定詞の否定は **not** を **to** の前につける。
- I told him not to go there.**
 (私は彼にそこへ行くなと言つた。)
I have made up my mind not to smoke.
 (私は喫煙すまいと決心した。)
It is our duty not to tell a lie.
 (嘘を吐かないことは吾等の務である。)
- 236.** 不定詞の “to” を省略する場合。

- (1) “Ought” を除く助動詞の後。(¶207 参照)
 (2) 知覚動詞の後に目的補語となる時。但し能動態の場合に限る。受動態の時は “to” を略することが出来ない。

I hear the bell ring.

=The bell is heard *to ring*.

(ベルの鳴るのが聞える。)

I have never seen a cat swim.

=A cat has never been seen *to swim*.

(私は猫の泳ぐのを見たことがない。)

We felt the house shake.

=The house was felt *to shake*.

(吾々は家の揺れるのを感じた。)

- (3) 使役動詞の後に目的補語となる時。

The sun makes everything grow.

(太陽は萬物を生長せしめる。)

They let me enter the room.

(彼等は私を室に入れてくれた。)

Bid the man come in.

(その人に中へ入るやうに言ひなさい。)

I had him wait for some time.

(私は彼を暫く待たせた。)

He had his wife die.

(彼は妻に死なれた。)

[比較]

I got him to write a letter.

(私は彼に手紙を書いて貰った。)

They told me to enter the room.

(彼等は私に室に入れと言った。)

The boys were made to obey the teacher.

(生徒は教師に従はせられた。)

- (4) 慣用句。

You had better leave your house earlier.

(君はもつと早く家を出る方がよい。)

I could not but believe it.

(私はそれを信ぜざるを得なかった。)

She does nothing but cry.

(彼女は泣いてばかりある。)

237. 不定詞を含む慣用句。

I had to go there. (=must)

(私はそこへ行かなければならなかった。)

You have not to go. (=need not)

(君は行くには及ばない。)

I have nothing to do with this matter.

(私はこの事件には何の関係もない。)

You have only to study hard.

(君は一心に勉強しなればよいのだ。)

We are to meet here this evening.

(吾々は今晚ここで會合することになつてゐる。)

The tea-party is to be given on Sunday.

(お茶の會は日曜に催される筈である。)

What am I to do?

(私は何うするんですか。)

You are to stay at home.

(お前は家にゐるんだ。)

Not a soul was to be seen. (=could).

(人つ子一人見えなかった。)

Such a thing was to be found nowhere.

(そんな物はどこにも見つからなかった。)

He is about to write a letter.

(彼は手紙を書かうとしてゐる。)

If he were to die, I should have to leave school. (假定法 ¶216参照)

(若し彼が死ぬやうなことがあつたら、僕は退學しなければならぬだらう。)

I have been to visit the shrine.

(私はお宮に参拜して來た。)[¶171 (2) 参照]

XIII. 分詞

238. 分詞 (Participle) には**現在分詞 (Present Participle)** と**過去分詞 (Past Participle)** との二種ある。現在分詞は動詞の語尾に *-ing* を付けて之を作る。*-ing* の付け方は既に述べた通り (¶157 参照)。過去分詞は動詞活用の第三段である。上の二種の外に

語尾變化によらざる他の一種がある。即ち**完了分詞** (Perfect Participle) と稱するもので過去分詞の前に“having”を附けて之を作る。分詞の形を表に示せば次の通り。

	能動態	受動態
現在分詞	taking	being taken
過去分詞	—	taken
完了分詞	having taken	having been taken

239. 分詞の用法。

(1) 述語即ち限定動詞の一部として。

(a) 現在分詞は“be”を助動詞として進行形を作る。
(176 参照)

(b) 過去分詞は“have”を助動詞として完了時形を作り (163 参照)、又“be”を助動詞として受動態を作る。(187 参照)

(2) 形容詞として。

(a) 純粹の形容詞となつて名詞を修飾する。この時は修飾する名詞の直前に置くのが普通である。(131 参照)

(b) 動詞と形容詞の両方の性質を兼ねる。この場合には其の修飾する名詞の後に置く。

Men **living** in town do not know rural pleasures.

(都會に住んでる人は田園の樂みを知らない。)

The picture **painted** by Mr. Brown won the prize.

(ブラウン氏の畫は入賞した。)

The man **smoking** a pipe is my brother.

(パイプを啣へてゐる人は私の兄です。)

I have received a letter **written** in English.

(私は英文の手紙を受取つた。)

(c) 補語となる。(叙述用法)

主格補語(動詞+分詞):—

He came **running**. (彼は走つて來た。)

He went **begging** from door to door.

(彼は戸別に乞食して行つた。)

We went **fishing**.

(吾々は魚釣りに行つた。)

I sat **reading** a newspaper.

(私は坐つて新聞を読んだ。)

I kept **standing**.

(私は立ち續けた。)

How did you get **hurt** (or **burnt**)?

(どうして君は怪我[火傷]をしたのか。)

Look out, or you will get **kicked**.

(氣をつけないと蹴られるよ。)

I sat **surrounded** by the children.

(私は子供に取巻かれて坐つた。)

It soon became **known** that his resignation was entirely due to his illness.

(彼の辭職は全く病氣のためであることが間もなくわかつた。)

He seemed **astonished** at it.

(彼はそれを見て驚いたらしかつた。)

目的補語(動詞+目的語+分詞):—

I saw him **climbing** the hill.

(私は彼が山を登つてゐるのを見た。)

I am sorry I have kept you **waiting**.

(お待たせして済みません。)

We sent the enemy **flying** in all directions.

(吾々は敵を四方八方に潰走させた。)

The master caught the servant **stealing** his purse.

(主人は召使が財布を盗む現場を見つけた。)

They found a soldier **dying** by the roadside.

(彼等は兵士が路傍で死に瀕してゐるのを發見した。)

She wept to see him **killed**.

(彼女は彼が殺されたのを見て泣いた。)

I never saw a whale **caught**.

(私はまだ鯨の捕られるのを見たことがない。)

I have left no stone **unturned**.

=I have left no means untried.

(私は百方手を盡した。)

I could not make myself understood.

(私は自分の言ふことを人にわからせる事が出来なかつた。)

I shall keep you informed of the state.

(絶えず状況をお知らせいたします。)

I had my purse stolen.

(私は財布を盗まれた。)

I had my walking-stick broken.

(私はステッキを折られた。)

I got my hair cut.

(私は髪を刈らせた——刈つて貰つた。)

I had my photograph taken.

(私は寫眞を撮らせた——撮つて貰つた。)

I will have a new suit made.

(私は洋服を新調しよう。)

I want to have this letter registered.

(私はこの手紙を書留にして貰ひたい。)

(3) 文節 (Clause) を短縮して分詞句 (Participial Phrase) を作る。

(a) 分詞の意味上の主語が主文の主語と同一の場合。時を表はすもの:—

Walking along the street, I met a friend.

=While I was walking along the street, I met a friend.

(町の通を歩いてゐる時友人に會つた。)

Looking up, he saw something white.

=When he looked up, he saw something white.

(上を見た時彼は何か白い物を見た。)

Having finished his task, he went out for a walk.

=When (or after) he had finished his task, he went out for a walk.

(仕事を済ませてから彼は散歩に出掛けた。)

原因又は理由を表はすもの:—

(Being) tired with the work, he sat down to rest.

=Because he was tired with the work, he sat down to rest.

(仕事に疲れたので彼は坐つて休んだ。)

Having been in foreign countries, he is conversant with Western affairs.

=As he was (or has been) in foreign countries, he is conversant with Western affairs.

(彼は外國にゐたから西洋の事情に明るい。)

條件を表はすもの:—

Turning to the left, you will find a large stone building.

=If you turn to the left, you will find a large stone building.

(左に曲ると大きな石造の建物を見出すでせう。)

譲歩を表はすもの:—

Admitting what you say, I still think that you are in the wrong.

=Though I admit what you say, I still think that you are in the wrong.

(君の言ふ事を認めても、尙私は君が間違つてゐると思ふ。)

連續を表はすもの:—

Seeing this, he ran away.

=He saw this and (he) ran away.

(これを見て彼は逃げ出した。)

He made his effort repeatedly, finally achieving his object.

=He made his effort repeatedly and finally achieved his object.

(彼は繰返し努力した、そして終に目的を達した。)

(b) 分詞の意味上の主語が主文の主語と異なる場合。
Night coming on, we started on our way home.

=When night came on, we started on our way home.

(夜になつて吾々は歸途に就いた。)

The moon **having risen**, we put out the light.

=As the *moon* had risen, *we* put out the light.

(月が昇つたので吾々は燈を消した。)

I shall start to-morrow, **weather permitting**.

=I shall start tomorrow if the *weather* permits.

(天候が許せば明日出発します。)

He was reading a book, his wife **sewing** beside him.

=*He* was reading a book and *his wife* was sewing beside him.

(彼は讀書をしており、彼の妻はその側で針仕事をしてゐた。)

This done, he retired as quickly as he could.

=After *this* was done, *he* retired as quickly as he could.

(これが済んでから彼は出来るだけ早く床に就いた。)

(c) 分詞の意味上の主語が略された場合。但しこの省略された主語は *we*, *you* 等の如き一般的名詞である。

Strictly speaking, this is not correct.

=If *we* speak strictly, this is not correct.

(厳密に言へばこれは正しくない。)

Judging from his accent, he must be an American.

(アクセントから判断すれば、彼はアメリカ人であるに相違ない。)

He is very tall, **considering his age**.

(年の割には彼は大變背が高い。)

Talking of volcanoes, I have seen Mt. Asama in full eruption.

(火山と言へば、私は淺間山の噴火の最中を見たことがある。)

XIV. 體 用 詞

240. 體用詞 (Gerund) は -ing に終つて名詞の働をするものではあるが、又動詞の働をも兼ねてゐる。體用詞に次の形がある。

	能 動 態	受 動 態
現在形	writing	being written
完了形	having written	having been written

241. 體用詞の用法。

(1) 主語。

Hunting foxes is a favourite sport in England.

(狐狩はイギリスにて人の好んで行ふ運動である。)

His having said so is a proof of his folly.

(彼があんな事を言つたのは馬鹿の證據である。)

(2) 目的語。

I have finished **writing** my letter.

(私は手紙を書き終へた。)

I like **swimming** in the sea.

(私は海で泳ぐことを好む。)

I regret **having said so**.

(私はあんな事を言つたのを後悔する。)

I am fond of **travelling**.

(私は旅行するのが好きだ。)

He is second to none in **speaking** English.

(英語を話すことでは彼は誰にも劣らない。)

(3) 補語。

Seeing is believing.

(百聞は一見に如かず。)

To give gold to you is giving fuel to fire.

(お前に金を與へるのは火に薪をくべるやうなものだ。)

242. 體用詞は名詞としての性質を有しながら形容詞に轉用されることがある。(¶ 131 参照)

- a sleeping car. (寢臺車)
 a reading room. (讀書室)
 a walking stick. (散歩用杖)

243. 體用詞の意味上の主語を示すには、その前に所有格の名詞又は代名詞を付ける。名詞の場合は所有格にしないこともある。

- I regret **his having done so.**
 (私は彼がそんな事をしたのを後悔する。)
His going or not going does not affect me.
 (彼が行つても行かなくても私には影響はない。)
 He is proud of **his father's being a rich man.**
 (彼は彼の父の金持であることを誇としてゐる。)

但し體用詞の意味上の主語が主文の主語と同じ場合には普通之を略する。

- He was proud of **having passed the examination.**
 (彼は試験に合格したことを誇つてゐた。)

無生物が主語となる時はその名詞を所有格にはしない。但し *it* が主語の時は *its* とする。

- I am surprised at **the telegram being delayed so long.**
 (電報がこんなに遅延したには驚く。)
 There is no danger of **its falling.**
 (それが落ちる危険はない。)

意味上の主語が一般的の場合には之を略する。
Saying such a thing is rude on any occasion.
 (そんな事を言ふのは如何なる場合にも失禮だ。)

244. 體用詞の時の關係。

- He is sure of **succeeding.**

- =He is sure that he *will succeed.*
 (彼は成功すると確信してゐる。)

I remember once **seeing him.**

- =I remember that I *saw him once.*
 (私は一度彼に會つた覚えがある。)

I was rewarded for **lending him a hand.**

- =I was rewarded for the fact that I *had lent him a hand.*

(私は彼に手を貸してやつたので報酬を貰つた。)

He repents of **having been idle** in his youth.

- =He repents that he *was idle* in his youth.
 (彼は若い時分怠けたことを後悔してゐる。)

He repents of **having always been idle.**

- =He repents that he *has always been idle.*
 (彼はずっと怠けてゐたことを後悔してゐる。)

He repented of **having been idle.**

- =He repented that he *had been idle.*
 (彼は怠けてゐたことを後悔してゐた。)

245. 體用詞は名詞の働をするが、それは一種の抽象名詞となるのであるから、名詞の働をする不定詞又は抽象名詞と同一の意義を有する。

- { **Sleeping is necessary to health.**
To sleep is necessary to health.
Sleep is necessary to health.
 (睡眠は健康に必要である。)

246. 慣用句。

There is no denying the fact.

- =It is impossible to deny.....
 (その事實を否定することは出来ない。)

These are the birds of **my shooting.**

- =.....shot by me.
 (これは私の打つた鳥です。)

It is no use trying to deceive him.

- =It is (of) no use to try.....
 (彼を騙さうとしても駄目だ。)

- It is not worth while reading.**
(それは読み甲斐のない本だ。)
- I felt like crying.**
(私は泣きたいやうな気がした。)
- I went camping last summer.**
(僕はこの夏キャンプに行った。)
- He has gone a-hunting.**
(彼は獵に行つてゐる。)
- The wind sets the mill a-going.**
(風は風車を動かす。)
- I could not help laughing.**
(私は笑はずにはゐられなかつた。)
- On leaving school, he went into business.**
(学校を出ると直ぐ彼は實業に就いた。)
- Illness prevented me from going there.**
(病氣のため私はそこへ行けなかつた。)
- I came near being killed.**
(私はすんでの事に殺される所だつた。)
- (So) far from praising him, I must positively blame him.**
(賞めるところか反對に彼を非難しなければならぬ。)
- It goes without saying that health is more important than anything else.**
(健康は外の何物よりも大切であることは言ふまでもない。)

XV. 時形の照應

- 247.** 主文の動詞と之に伴ふ文節の動詞の時形の間には一定の法則があつて一致照應しなければならない。これを**時形の照應** (Sequence of Tenses) といふ。
- 248.** 主文の動詞が**過去**の時は、從屬節の動詞も**過去**か**過去完了**か**過去未來**かでなければならない(原則の一)。

- He was honest although he was poor.**
(彼は貧しいけれども正直であつた。)
- I said that I did not know him.**
(私は彼を知らないと言つた。)
- He told me how he did it.**
(彼はどういふ風にしてそれをしたかを私に告げた。)
- He ran so fast that I could not catch him.**
(彼は私が追付けないほど早く走つた。)
- He said that I might go.**
(私は行つてもよいと彼は言つた。)
- I thought it would rain.**
(私は雨が降るだらうと思つた。)
- He worked hard that he might succeed.**
(彼は成功せんが爲に一生懸命にやつた。)
- He said that he must go.**
(彼は行かなければならないと言つた。)
- He asked me whether I had seen it.**
(彼は私にそれを見たことがあるかと尋ねた。)
- I thought I should need it.**
(私はそれが必要になるだらうと思つた。)

- 249.** 主文の動詞が**現在**か**現在完了**か**未來**である時は從屬節の時形は**無制限**である(原則の二)。

I believe	}	he is right.
		he was wrong.
		he will come.
		he has done it.
		he had done it already at that time.
I shall see	-	he will have done it by that time.

250. 例外。

- (1) 一般的眞理、習慣的動作及び現在の事實は常に現在形を用ひる。
- Formerly people did not know that the earth moves round the sun**
(昔の人々は地球が太陽の周りを廻ることを知らなかつた。)

He told us that honesty is the best policy.
(正直は最上の策であると彼は吾々に語った。)

He used to say that knowledge is power.
(彼は智識は力であると常々言つてゐた。)

He asked me why I take a walk every morning.
(私は何故毎朝散歩をするかと彼は私に尋ねた。)

He seemed sorry to hear that I am always ill.
(私は始終加減が悪いことを聞いて彼は氣の毒に思つたらしい。)

I bought the house two years ago that I live in now.
(私の今住んでゐる家は二年前に買ったのだ。)

(2) 歴史上の事實は常に過去を用ひる。

He did not know that America was discovered by Columbus.
(アメリカはコロンブスに発見されたことを彼は知らなかつた。)

(3) 比較を表はす場合には時形は問ふ所でない。

He loves you as well as he loved me.
(彼は私を愛したと同じ位に君を愛してゐる。)

It is colder to-day than it was yesterday.
(今日は昨日より寒い。)

He will read better than you did yesterday.
(彼は君が昨日讀んだよりうまくやるだらう。)

(4) 目的を表はす文に於ては、主文の動詞が現在又は未來の時は從屬節に“may”を用ひ、過去の時には“might”を用ひる。但し“lest”(=*that not*)の後に用ひられる助動詞は should に限るから、この時は主文の動詞の時形には關係がない。

He studies hard {lest he should fail.
 that he may not fail.

He will study hard {lest he should fail.
 that he may not fail.

He studied hard {lest he should fail.
 that he might not fail.

XVI. 敘法

251. 他人の言葉を傳へるに當つて、原語を其儘傳へる直接敘法 (Direct Narration) といふ言ひ方と、その趣意を傳達者の言葉に直して間接に傳へる間接敘法 (Indirect Narration) といふ言ひ方と二つの方法がある。

直接: He says, "I have been waiting."

間接: He says that he has been waiting.

直接: He has told me, "I am very busy."

間接: He has told me that he is very busy.

上例の says 又は has told を傳達動詞 (Reporting Verb) といひ、引用符 (“ ”) の中の文又は that 以下の文節を被傳達文 (Reported Speech) といふ。

252. 直接敘法に於ては被傳達文を書き記す時常に大文字を以て書き初め、引用符を以て前後を圍むことを要する。

253. 間接敘法の被傳達文は名詞節であるから、その中の動詞の時形は照應の法則に従はなければならない。随つて傳達動詞が過去の時は被傳達文の動詞は次の變化を受ける。

(直接)	(間接)
現在	過去
現在完了	過去完了
過去	過去完了
過去完了	無變化
未來	過去未來
未來完了	過去未來完了

[例]

write	—wrote
is writing	—was writing
have written	—had written
have been writing	—had been writing
wrote	—had written
was writing	—had been writing

had written	}	—無變化
had been writing		
will write		—would write
will be writing		—would be writing
will have written		—would have written
will have been writing		—would have been writing

人稱代名詞はその場合に應じて變へなければならない。
平叙文の場合は連結語として“that”を用ひる。

{	He said, “ <i>I am quite well.</i> ”
{	He said that he was quite well.
{	He said to me, “ <i>I have finished my work.</i> ”
{	He told me that he had finished his work.
{	He said, “ <i>I shall stay in Osaka.</i> ”
{	He said that he should stay in Osaka.
{	He told me, “ <i>I have lost all I have.</i> ”
{	He told me that he had lost all he had.
{	He said, “ <i>It was raining then.</i> ”
{	He said that it had been raining then.
{	He said (to them), “ <i>You are happy.</i> ”
{	He said that they were happy.
{	He said, “ <i>He is angry with you.</i> ”
{	He said that he was angry with me.

254. 形容詞、副詞なども時と場所の移動に應じて
適當に變へる必要がある。

(直接)		(間接)
this	—	that
now	—	then
come	—	go
here	—	there
today	—	that day
tomorrow	—	the next day; the following day
yesterday	—	the day before; the previous day
next	—	the next; the following
last	—	the previous
ago	—	before
{	He said, “ <i>I shall finish it tomorrow.</i> ”	
{	He said that he should finish it the next day.	

{	He said, “ <i>I came here yesterday.</i> ”
{	He said that he had gone there the day before.
{	He said, “ <i>I will be here soon.</i> ”
{	He said that he would be there soon.
{	He said, “ <i>I was there</i> { <i>last month.</i> ”
	{ <i>two days ago.</i> ”
{	He said that he had been there { <i>the previous</i>
	{ <i>month.</i>
	{ <i>two days be-</i>
	{ <i>fore.</i>

255. 疑問文の間接の傳達には傳達動詞を“ask”又は“inquire of”などに變へる。而して疑問詞を含む疑問文ならばそれを連結語とし、疑問詞なき疑問文は連結語として“if”又は“whether”を用ひる。いづれの場合にも主語と動詞の位置は普通の平叙文の通りの順序になし、文尾には“?”を附けない。

{	He said, “ <i>Where have you been?</i> ”
{	He asked me where I had been.
{	He said, “ <i>What are you doing?</i> ”
{	He asked me what I was doing.
{	He said to him, “ <i>How did you do it?</i> ”
{	He inquired of him how he had done it.
{	He said to him, “ <i>Can you solve it?</i> ”
{	He asked him if he could solve it.
{	He said, “ <i>Do you know my brother?</i> ”
{	He asked me if I knew his brother.

256. 命令文の間接の傳達には傳達動詞に“tell”, “order”, “advise”, “beg”等原文に應じたる動詞を用ひ、命令の動詞は不定詞に變へる。

{	He said to him, “ <i>Go at once.</i> ”
{	He told him to go at once.
{	He said to George, “ <i>Go and look in your cap.</i> ”
{	He told George to go and look in his cap.

{He said to his servant, "Shut the door."
 {He ordered his servant to shut the door.
 {They said to him, "Please tell us a story."
 {They asked him to tell them a story.
 {He said to us, "Do not waste your time."
 {He told us not to waste our time.

257. 感歎文にあつては、“how”又は“what”のあるものは之を連結語にするのが普通であるが、さうでない時は“that”を用ひる。感歎文の傳達動詞はその時々に応じたる適當な動詞を用ひる。“!”は間接法の時は不要である。

{He said, "Alas! how foolish I have been!"
 {He exclaimed how foolish he had been.
 又は
 {He confessed with regret that he had been very foolish.
 {He said, "What a fine sight it is!"
 {He cried out what a fine sight it was.
 又は
 {He exclaimed with delight that it was a very fine sight.

258. 祈願を表はす文も間接法の場合は適當に文を改造しなければならない。

{He said, "God bless you!"
 {He prayed that God might bless me.
 {He said, "O that I could see my father!"
 {He exclaimed that he wished he could see his father.

259. 二つ以上の文が and 又は but で連結されてあるものを間接に傳達する時は文節毎に that を連結語として入れるのが普通である。

{He said, "I saw her last week, but I have not seen her since."
 {He said that he had seen her the week before, but that he had not seen her since.

260. 假定法の文を傳達するには、假定法過去及び過去完了は變化しない。

{He said, "If I had money, I would buy it."
 {He said that if he had money, he would buy it.
 {He said to me, "If I had been rich, I would have gone abroad."
 {He told me that if he had been rich, he would have gone abroad.

261. 一般的の眞理、習慣的の動作、現在の事實に關することは、傳達動詞が過去の時でも、過去を用ひず、現在形を普通用ひるが、照應の法則に従つて過去にすることも往々ある。又歴史上の事實は常に過去を用ひる。(¶250 参照)

262. 次のやうな場合はその文の意味から考へて適宜に文を改造すればよい。

{A boy says, "I want to see the master."
 {A boy wants to see the master.
 {I thought, "Can it be possible?"
 {I wondered whether it could be possible.
 {He said, "Let us do so."
 {He proposed that we should do so.

第八章

副詞

I. 副詞の種類

263. 副詞 (Adverb) には次の三種類ある。

- (1) 單純副詞 (Simple Adverb)——動詞、形容詞及び他の副詞を單に修飾するものがその大部分を占めてゐるが、又時としては他の品詞は勿論、文章全體を修飾することもある。

He speaks English fluently. [動]

(彼は流暢に英語を話す。)

It is very fine today. [形]

(今日は大變天氣がよい。)

He sings wonderfully well. [副]

(彼は恐ろしく歌が上手だ。)

Even $\left\{ \begin{array}{l} \text{a boy} \\ \text{he} \end{array} \right\}$ can do it. [名]
[代名]

(小兒〔彼〕でさへそれが出来る。)

This mistake was made entirely through your fault. [前]

(この失策は全く君の過失から起つたのだ。)

I don't like this place simply because the air is too hot. [接]

(私がこの土地を好まないのは、全く空氣が暑過ぎるからだ。)

Evidently you are wrong. [全文]

(明かに君は間違つてゐる。)

Happily he did not die. [全文]

(幸ひにも彼は死ななかつた。)

(2) 疑問副詞 (Interrogative Adverb)——疑問を發するために用ひられる副詞。

[例] when? where? why? how? 等。

(3) 關係副詞 (Relative Adverb)——接續詞と副詞の二つの働を兼ねてゐるもの。形は疑問副詞と同じけれども疑問の意を有してゐない。

[例] when, where, why.

II. 單純副詞

264. 單純副詞 (Simple Adverb) は意義上次の數種に分類することが出来る。

(1) 時を表はすもの。

Now, then; before, since, ago; already, soon, presently, immediately; early, late, afterwards; yesterday, to-day, tomorrow; always, often, never, again.

(2) 場所を表はすもの。

Here, there; hence, thence; hither, thither; in, out; within, without; above, below; far, near; somewhere, everywhere, nowhere.

(3) 程度を表はすもの。

Very, much, too, quite, hardly, enough, just, almost, nearly, only, simply.

(4) 性状、方法を表はすもの。

Slowly, surely, readily, kindly, well, fast, suddenly, gladly, thus, so, probably.

(5) 肯定及び否定を表はすもの。

Yes, no, not, certainly, indeed, never.

265. 性状を表はす副詞は形容詞に“-ly”を付けて作つたものが大多數を占めてゐる。

kind —kindly	careful —carefully
happy—happily	steady —steadily
true —truly	due —duly
full —fully	dull —dully
noble —nobly	possible—possibly

又中には分詞に“-ly”の附いたものもある。

exceedingly	knowingly
charmingly	laughingly
undoubtedly	decidedly
assuredly	contentedly

266. 副詞の中には形容詞と同形のものも多くあるが、又中には“-ly”の附いたものと二つの形を有するものがある。

{ He has gone to a far country. [形]

(彼は遠國へ行つて了つた。)

{ I live far from the school. [副]

(私は學校から遠い所に住んでゐる。)

{ I am an early riser. [形]

(私は早起きだ。)

{ I rise early. [副]

(私は早く起きる。)

He is a hard worker.	[形]
(彼は勉強家だ。)	
He works hard .	[副]
(彼はよく勉強する。)	
It is hardly possible.	[副]
(それは殆んど不可能である。)	
He retired at a late hour.	[形]
(彼は晩く床に就いた。)	
He arrived late at night.	[副]
(彼は夜晩く着いた。)	
He has lately returned from abroad.	[副]
(彼は近頃外国から歸つた。)	
He is a near relation of mine.	[形]
(彼は私の近親である。)	
The rainy season is drawing near .	[副]
(入梅が近づいてゐる。)	
It is nearly two miles distant.	[副]
(かれこれ二哩離れてゐる。)	

267. 副詞相當名詞 (Adverbial Objective)——名詞が前置詞を伴はずして副詞の働をするものをいふ。
(42 参照)

268. 副詞の比較變化 (Comparison).

- (1) 一音節の語及び二音節の語のあるものは原級の語尾に **-er** を付けて比較級、**-est** を付けて最上級を作る。

(原 級)	(比較級)	(最上級)
soon	sooner	soonest
late	later	latest
near	nearer	nearest
often	oftener	oftenest
early	earlier	earliest

- (2) **-ly** に終る副詞は **more**, **most** を前に付けて比較級及び最上級を作る。

happily	more happily	most happily
quickly	more quickly	most quickly

- (3) 不規則な變化をするもの。

well	better	best
------	--------	------

ill	}	worse	worst
badly			
little		less	least
much		more	most
far	}	farther	farthest
		further	furthest

269. 副詞句の形式。

- (1) 前置詞＋名詞。

at length (遂に)	at home (内にゐて)
at anchor (碇船して)	at play (遊んで)
of course (勿論)	of necessity (必然)
in fact (實際)	in debt (借金して)
with ease (容易に)	with care (注意して)
by degrees (次第に)	by turns (交る交る)

- (2) 前置詞＋形容詞。

in general (一般に)	in short (要するに)
in vain (無益に)	in particular (特に)
of late (近頃)	of old (昔時)
at first (最初は)	at last (終には)
at present (目下)	at all (少しも)
at least (少くとも)	at the latest (遅くとも)
above all (就中)	after all (結局)

- (3) 前置詞＋副詞。

at once (直ちに)	for ever (永久に)
before long (久しからずして)	
since then (爾來)	

- (4) 對句。

up and down (あちらこちら)	
to and fro (あちらこちら)	
here and there (こゝかしこ)	
now and then (折々)	again and again (度々)
by and by (やがて)	side by side (相並んで)
off and on (間歇的に)	day by day (日々に)
hand in hand (手に手を取つて)	

- (5) 雜句。

by all means (是非とも)	by the way (時に、序に)
once on a time (昔々)	to be sure (たしかに)
inside out (裏返しに)	upside down (上下逆さに)

at all events (兎に角) all at once (俄かに)

270. 次の例に於ては副詞は名詞の直前或は直後に置かれて名詞の修飾語のやうに見えるが、實は名詞そのものを修飾するのではなく、その中に含む動詞の意味、又は省略されてある形容詞或は分詞を修飾すると見るべきである。

the **then** king=the king then *reigning*.
 the **late** king=the king lately *reigning*.
 the **above** account=the account *given* above.
 a **far** country=a country far *distant*.
 his return **home**=his *returning* home.
 his arrival **here**=his *arriving* here.
 the people **there**=the people *living* there.

271. 全文を修飾する副詞は通例文頭に置かれる。

Fortunately he was saved.

(幸にも彼は助けられた。)

Evidently you are wrong.

(明かに君は間違つてゐる。)

Happily he did not die.

(幸福にも彼は死ななかつた。)

この種の副詞は次のやうに書き直すことが出来る。

It was fortunate that he was saved.

It is evident that you are wrong.

It was happy that he did not die.

[比較]

He did not die **happily**.

(彼は幸福な死に方をしなかつた。——死ぬことは死んだのである。)

272. 副詞の敘述用法——補語になるをいふ。

He is **there**.

(彼はあそこにある。)

We are **off** tomorrow.

(吾々は明日出かける。)

The storm is **over**.

(嵐は過ぎた。)

The stars are **out**.

(星は出てゐる。)

273. 副詞は名詞として扱はれることがある。

Now is the time for us to go.

(もう吾々の行く時間である。)

Where do you come from?

(あなたは何處から來ましたか。)

It is five miles from **here** to **there**.

(こゝからあそこまで五哩ある。)

274. 注意すべき副詞の用法。

Very, much.

He is a **very** clever boy. [原級]

(彼は大變伶俐な少年だ。)

This is **much** better than that. [比較級]

(これはあれよりずっと優つてゐる。)

He is **much** the best student of all. [最上級]

(彼はすべての中でずば抜けてよい學生だ。)

He is the **very** best student. [最上級]

(彼は眞に最良の學生である。)

This is the **very** thing that I wanted. [名詞]

(これは私の欲してゐた誂向きのものだ。——これは形容詞)

He explained it **very** clearly. [副詞]

(彼は甚だ明瞭に之を説明した。)

I like him **much**. [動詞]

(私は彼が大變気に入つてゐる。)

This news is **very** perplexing. [現在分詞]

(この報は非常に人を惑はす。)

I am **much** interested in it. [過去分詞]

(私はそれに大變興味がある。)

[例外]

I am **very** tired.

(私は大そう疲れてゐる。)

I am **much** afraid of the dog.

(僕は犬がこわい。)

He is { **very** (俗語) } **much** pleased.

(彼は大そう喜んでゐる。)

Too.

He is **too young**.

(彼は年が若過ぎる。)

You are **too old to do so**.

=You are *so old that you cannot do so*.

(君は年を取り過ぎてゐるからそれが出来ない。)

It is **too hot for me to eat**.

=It is *so hot that I cannot eat*.

(それはあまり熱くて私には食はれない。)

He is **too wise not to see that**.

(彼は賢いからそれが分らない筈がない。)

The report was **but too true**.

(その噂は遺憾ながら事實であつた。)

I am **only too glad to do so**.

(私はさうするのは實に嬉しい、願つたり叶つたりだ。)

You **cannot be too careful in this world**.

(此の世の中では幾ら注意しても尙足りない。)

Enough.

He is **strong enough to leave his bed**.

=He is *so strong that he can leave his bed*.

(彼は床を離れられる位丈夫になつてゐる。)

He was **kind enough to show me the way**.

=He was *so kind as to show me the way*.

=He *kindly* showed me the way.

(彼は親切にも道を教へて呉れた。)

He is **not old enough**.

=He is *too young*.

(年がまだ若過ぎる。)

It is **warm enough**.

(丁度よい加減の暖さだ。)

Once.

Once there lived a sage.

(嘗て一人の聖人があつた。)

I have met him **once**.

(私は一度彼に會つたことがある。)

Ever.

Have you **ever** seen a submarine? [疑問]

(君は潜水艦を見たことがあるか。)

I have **never** seen such a thing. [否定]

(僕はこんな物を見たことがない。)

If you **ever** come this way, don't fail to call on me. [条件]

(こちらの方へ御出掛けの節は是非御訪ね下さい。)

I have **ever** thought so. [肯定]

(私は何時もその考であつた。)

I don't think he will **ever** do so. [否定]

(彼はよもやそんな事をするとは思はない。)

Shall we **ever** meet again? [疑問]

(いつか又會へるだらうか。)

Ago, before.

He went abroad two years **ago**. (=from now)

(彼は二年前洋行した。)

I got there at noon, but the ship had left two hours **before**. (=from that time)

(私は正午にそこへ着いたが船はそれより二時間前に出て了つてゐた。)

Already, yet.

The bell has rung **already**. [肯定]

(鐘はもう鳴つた。)

Has the bell rung **yet**? [疑問]

(鐘はもう鳴つたか。)

The bell has not rung **yet**. [否定]

(鐘はまだ鳴らない。)

Little, a little.

I **little** expected that he would fail. [否定]

(彼が失敗しようとは豫期しなかつた。)

I am **a little** tired. [肯定]

(僕は少し疲れてゐる。)

Yes, No.

Did you not catch the train?

(汽車に間に合はなかつた。)

Yes, I caught the train.
 (いや間に合った。)

No, I missed it.
 (うむ間に合はなかつた。)

問に關係なく答が肯定ならば **yes**, 否定ならば **no** を用ひる。

There.

There goes Tom. [場所]

(あそこへ行くのはトムだ。)

There is the difficulty.

(その所に困難がある。)

We shall get there in the evening.

(夕方そこへ着けるだらう。)

There was a fire last night. [有無]

(昨夜火事があつた。)

There was born a child.

(一人子供が生れた。)

There is nothing there.

(そこには何も無い。)

Not.

動詞を否定する以外に**全文代表**の用法がある。

Will he die?

I hope not.

=I hope *he will not die.*

Do you think he will succeed?

I am afraid not (or I fear not).

=I am afraid (or I fear) *that he will not succeed.*

Will he come?

I think not.

=I think *he will not come.*

Yet, still.

It is not yet finished. [未完]

(それは未だ完成しない。)

It is still in use. [繼續]

(それは未だに使用されてゐる。)

The (=to that extent それだけ).

He worked **the** harder, because he had been

encouraged by his teacher.

(彼は先生に勵まされたので、それだけ一生懸命に勉強した。)

He has faults, but we love him none the less.

(彼は缺點はあるが、それにも拘はらず可愛さが減ることがない。)

III. 疑問副詞

275. 疑問副詞 (Interrogative Adverb) は次の様に分類することが出来る。

(1) 時を表はすもの。

When did he come?

(いつ彼は来たのか。)

How long will he stay here?

(どの位彼は當地に滞在しますか。)

How often do you go there?

(幾度君はそこへ行きますか。)

(2) 場所を表はすもの。

Where do you live?

(君は何處に御住ひですか。)

How far did you go?

(君はどの位——どこまで——行きましたか。)

(3) 程度を表はすもの。

How do you like it?

(それが何う気に入りますか。)

How far was the report true?

(その報はどこまで事實でしたか。)

(4) 性狀、方法を表はすもの。

How is he today?

(彼は今日は如何ですか。)

How did you do this?

(どういふ風にして之をしましたか。)

(5) 理由を表はすもの。

Why did you not study?

(君は何故勉強しなかつたか。)

IV. 關係副詞

276. 關係副詞 (Relative Adverb) は副詞と接續詞との二つの働を兼ねてゐる。これに導かれる文節は形容詞節である。

Lincoln lived in the days **when** (=in which) books were not so plentiful as they are now.

(リンカーンは書物が今日ほど澤山ない時代の人であつた。)

The town **where** (=in which) I live contains thirty thousand inhabitants.

(私の住んでゐる町には人口が三萬ある。)

This is the reason **why** (=for which) our river flows so fast.

(これが吾々の河がこんなに速く流れる理由である。)

277. 關係副詞は先行詞 (Antecedent) を省略することがある。

I don't know (the time) **when** he will come.

(私は彼の来る時間を知りません。)

This is (the place) **where** he was born.

(こゝは私の生れた所です。)

He told me (the reason) **why** he had done so.

(彼は私に彼のさうした理由を話して呉れた。)

278. “How” は普通には先行詞なしに用ひる。先行詞のある時は多く “that” で代用される。

This is **how** (=the manner in which) he did it.

(これが彼のやつた仕方である。)

This is the manner **that** (=in which) he did it.

(これは彼のやつた仕方である。)

279. 關係副詞にも連続的用法がある。(94 参照)

They were taken into a house, **where** (=and there) their clothes were dried.

(彼等は家の中に連れて行かれ、そこで着物が乾かされた。)

The sun was nearing the end of his day's work, and the trees were casting long shadows, **when** (=and then) Mr. Davis said it was time to go home.

(太陽は一日の仕事の終りに近づき、樹々は長い影を地上に投げてゐた。そこでデイヴィス氏は歸宅する時刻であると云つた。)

280. “The” は關係副詞として用ひられる。比較級の副詞(又は形容詞)に先立ち、その後に必ず他の **the**+比較級を伴ふ。この後の **the** は單純副詞である。

The more a man has, **the more** he often longs to be richer.

=To whatever extent more a man has, to that extent more he often longs to be richer.

(人は餘計持てば持つ程益々金持になりたいと欲することが往々ある。)

The harder you work, **the sooner** you will improve.

(君は勉強すればする程益々早く力がつく。)

The more heat there is in the air, **the more** moisture rises.

(空気に熱があればある程益々多くの水分が蒸發する。)

281. 複合關係副詞 (Compound Relative Adverb)

とは **where**, **when**, **how** に **-ever** の加はつたものをいふ。之に二つの用法がある。

(1) 先行詞を兼ねる。

Come **whenever** (=at any time that) you like.

(何時でも好きな時に來なさい。)

Go **wherever** (=to any place that) you like.
(何處でも好きな所へ行きなさい。)

(2) 譲歩を表はす。

He will be pursued, **wherever** (=no matter where) he may flee.

(どこへ逃げても彼は追跡されるだらう。)

Whenever (=no matter when) you may go, you will be kindly received.

(何時行つても君は親切に迎へられるでせう。)

However (=no matter how) hard he may work, he will not succeed.

(どんなに一生懸命に勉強しても、彼は成功しなからう。)

第九章

前置詞

282. 前置詞 (Preposition) の後に従ふ名詞又は代名詞をその目的語 (Object) といふ。前置詞+名詞は常に一の句 (Phrase) を作り、形容詞又は副詞の役目をする。

This is a letter **for you**. [形容詞句]
(これは君に來た手紙だ。)

He is a man **of noble character**. [„]
(彼は高潔な人格の士である。)

I walked **in the park**. [副詞句]
(僕は公園の中を歩いた。)

He visited the shrine **in the morning**. [„]
(彼は朝神宮に参拜した。)

283. 前置詞の目的語。

(1) 名詞。

There is some one **at the door**.
(戸口に誰か來てゐる。)

(2) 代名詞。

I sat **behind him**.
(私は彼の後に坐つた。)

(3) 體用詞。

He was rewarded **for saving a child**.
(彼は子供を救つて褒美をもらつた。)

(4) 不定詞。

He does nothing **but laugh**.
(彼は笑つてばかりゐる。)

(5) 副詞。

He has not written to me **since then**.
(彼はあれ以來便りをしない。)

(6) 句。

He has come from **beyond the river**.
(彼は河向ふから來た。)

(7) 節。

He will not work **except when he is pleased**.
(彼は氣に入つた時の外勉強しない。)

284. 前置詞は副詞になることがある。この時は目的語を取らない。

He went **in**.
(彼は中に入つた。)
He went **over to America**.
(彼はアメリカへ渡つた。)
Put **on the new overcoat**.
(新しい外套を着なさい。)

285. 前置詞の後置。

(1) 目的語が疑問詞の時。

What are you talking about?
(君は何の話をしてゐるのか。)

(2) 目的語が關係代名詞の時。

This is the house (that) he lives in.
(これは彼の住んでゐる家です。)

(3) 不定詞が形容詞の時。

I have no friend to talk with.
(共に語るべき友がない。)

- (4) 「自動詞+前置詞」が受身になる時。
A boy *was run over* by a motor car.
(一少年が自動車に轢かれた。)

286. 前置詞の種類。

- (1) 單純前置詞 (Simple Preposition).
At, by, in, on, to, of, for, from, with, till, over, through, after, since, beside.
- (2) 二重前置詞 (Double Preposition).
He came out **from under** the table.
(彼は卓子の下から出て来た。)
The storm continued **from before sunrise till after** nightfall.
(嵐は日出前から日暮の後まで続いた。)
A tall ladder was set up **over against** the wall.
(高い梯子が塀にかけられた。)
- (3) 分詞前置詞 (Participial Preposition).
Considering his age, he is very strong.
(年の割には彼は大變強い。)
Owing to the long drought, the crops have failed.
(長い旱魃のため作物は駄目になった。)
He often came to see me **during** the holidays.
(休暇中に彼は度々訪ねて来た。)
Inform me **concerning** (touching, regarding, or respecting) this matter.
(この事柄に關して御知らせ下さい。)
The army continued its march, **notwithstanding** the heavy rain.
(軍隊は大雨にも拘はらず行軍を續けた。)
- (4) 成句前置詞 (Phrase Preposition).
By means of, because of, in front of, in spite of, on account of, instead of, in place of, on behalf of, with regard to, according to, owing to, with a view to, on board, as to, as for.
I will go **in spite of** that objection.
(その反對があるにも拘はらず私は行きます。)

- There are some trees **in front of** the house.
(家の前には幾本かの木があります。)
- I could not go **{ because of / on account of / owing to }** a storm.
(嵐のために私は行かれなかつた。)
- As for** me I know nothing about it.
(他人はいざ知らず私はそれについて何も知らない。)
- They argued **as to** which was the better.
(彼等はどちらの方がよいかに着て議論した。)
- You must work hard **instead of** idling away your time.
(君は何もせずに時間を徒費しないで一生懸命に勉強しなければならない。)

287. 主なる前置詞。

About.

- She wore a handkerchief **about** her neck.
(彼女は首のまわりに手巾を巻いてある。)
- He walked **about** the room.
(彼は部屋をあちこち歩いた。)
- He is **about** to be married.
(彼は結婚しようとしてゐる。)
- He told me nothing **about** the matter.
(彼はその件について何も話さなかつた。)
- He lives somewhere **about** the school.
(彼はどこか学校の近くに住んでゐる。)
- There is something strange **about** him.
(あの人には何處か風變りな所がある。)
- What are you **about**?
(君は何をしてゐますか。)
- He set **about** the task at once.
(彼は直ちに仕事に取り掛つた。)

Above.

- A sword was hanging **above** his head.
(劍は彼の頭上に吊下つてゐた。)

Health is **above** wealth.

(健康は富に勝る。)

He is **above** such meanness.

(彼はそんな卑劣な事を屑しとしない。)

There is a waterfall **above** the bridge.

(橋の上手に瀧がある。)

Across.

We swam **across** the river.

(吾々は河を泳ぎ渡つた。)

The fallen tree lay **across** the road.

(倒れた木が道に横はつてゐた。)

My house is **across** the river.

(私の家は河向ふにある。)

After.

Run **after** him.

(彼を追っかける。)

He arrived **after** dark.

(彼は暗くなつてから着いた。)

He is always seeking **after** wealth.

(彼は常に富を追求してゐる。)

She was dressed **after** the European fashion.

(彼女は洋装してゐた。)

The boy was named **after** his uncle.

(少年は伯父の名を取つて命名された。)

He takes **after** his mother.

(彼は母親に似てゐる。)

Against.

He is leaning **against** the wall.

(彼は壁に倚れてゐる。)

We sailed **against** the wind.

(吾々は風に逆つて船を走らした。)

I am **against** reform.

(私は改革に反対だ。)

Fortune is **against** us.

(時吾等に利あらず。)

Store up your grain **against** famine.

(饑饉に備へて穀物を貯蔵せよ。)

The mountain is relieved **against** the blue sky.

(山は蒼空を背景としてくつきり浮き出てゐる。)

Along.

We sailed **along** the coast.

(吾々は海岸に沿うて船を走らせた。)

We walked **along** the bank of the river.

(吾々は川の堤をずっと歩いた。)

Among.

They concealed **among** the trees.

(彼等は木の間に隠れた。)

Distribute the books **among** the students.

(生徒にその本を分配せよ。)

Around, round.

The boys stood **around** him.

[位置]

(子供等は彼の周りに立つた。)

The earth moves **round** the sun.

(地球は太陽の周囲を廻る。)

[運動]

At.

We arrived **at** the place.

(吾々はその場所に着いた。)

He returned **at** four o'clock.

(彼は四時に歸つた。)

I bought it **at** six pence.

(私はそれを七ペンスで買った。)

The train ran **at** the rate of forty miles an hour.

(汽車は一時間四十哩の割で走つた。)

The motor car ran **at** full speed.

(自動車は全速力で走つた。)

I threw a stone **at** the dog.

(僕は犬に向つて石を投げた。)

I was present **at** the meeting.

(僕は會に出席した。)

He got married **at** the age of thirty.

(彼は三十才で結婚した。)

I am surprised at the sight.

(私はその光景を見て驚いた。)

The feast is now at its height.

(宴會は今正に酣である。)

He is at work.

(彼は仕事をしてゐる。)

The flowers are at their best.

(花は見頃だ。)

He cried at the top of his voice.

(彼は聲の限りに叫んだ。)

He frowned at me for laughing at him.

(彼を笑つたので彼は私に對して顔を顰めた。)

Before.

I stood before the door.

(私は戸口の前に立つた。)

The train starts before ten o'clock.

(汽車は十時前に發車する。)

I choose death before dishonour.

(私は不名譽よりは死を擇ぶ。)

Behind.

The dog stood behind its master.

(犬は主人の後に立つた。)

He hid behind the door.

(彼は戸のかげに隠れた。)

He is always behind time.

(彼はいつも時間に遅れる。)

Do not speak ill of others behind their back.

(陰で他人の悪口を言ふな。)

Below.

The sun sank below the horizon.

(日が地平線下に沒した。)

The dam is below the bridge.

(水門は橋の下手にある。)

The number was below ten.

(その數は十以下であつた。)

His scholarship is below his brother's.

(彼の學力は兄に劣る。)

Beside, besides.

She sat beside her mother.

(彼女は母親の側に坐つた。)

He is beside himself with joy.

(彼は狂喜してゐる。)

He gave me many pictures besides these books.

(彼はこの本の外に澤山の繪を呉れた。)

Between.

There is no difference between the two.

(兩者の間には差異がない。)

Nagoya is between Tokyo and Kyoto.

(名古屋は東京と京都との間にある。)

He divided the money between the two sons.

(彼はその金を二人の子息に分配した。)

The steamer plies between the two ports.

(その汽船は二港の間を往復する。)

Beyond.

He lives beyond the hill.

(彼は山の向ふに住んでゐる。)

He is now beyond all hope of recovery.

(彼はもう快復の望がない。)

The task is beyond my strength.

(その仕事は私の力には及ばない。)

But.

All but one were drowned.

(一人を除いてあとは皆溺れた。)

No one but a fool would do such a thing.

(馬鹿でなければそんな事はしなからう。)

He is the youngest son but one.

(彼は末から二番目の子息だ。)

He was all but dead.

(彼は死なないうばかりであつた。)

By.

There is a stick by the door.

(戸の側に杖がある。)

A man passed by me.

(一人の人が私の側を通り過ぎた。)

I was invited by Mr. Brown.
 (私はブラウンさんに招待された。)
 He informed me by letter.
 (彼は手紙で私に知らせた。)
 I went there by steamer.
 (僕は船でそこへ行つた。)
 A man is known by the company he keeps.
 (人は交はる友によつて知られる。)
 Meat is sold by the pound.
 (肉は一斤いくらで賣られる。)
 It is seven o'clock by my watch.
 (僕の時計では七時だ。)
 Come home by five o'clock.
 (五時までに歸つて來なさい。)
 He is taller than you by two inches.
 (彼は君より二吋だけ背が高い。)
 I seized him by the hand.
 (僕は彼を手の所をもつて捕へた。)

Down.

We ran down the hill.
 (吾々は山を駆け下りた。)
 The ship is sailing down the river.
 (船は川を下つてゐる。)

For.

What did you go there for.
 (何しにそこへ行つたか。)
 He will soon start for home.
 (彼は間もなく郷里に向け出發するだらう。)
 He was imprisoned for life.
 (彼は終身禁錮された。)
 I did not join him for this reason.
 (私はこの理由で彼の仲間に入らなかつた。)
 He sold his horse for fifty dollars.
 (彼は五十弗で馬を賣つた。)
 This letter is for me.
 (この手紙は僕に來たのだ。)
 This box will serve for a table.
 (この箱は卓子の代りになるだらう。)

He chose her for his wife.
 (彼は彼女を妻に選んだ。)
 I have not seen him for two years.
 (私は二年間彼に會はない。)
 He is tall for his age.
 (彼は年の割に丈が高い。)
 This stuff is not fit for food.
 (この代物は食物に適しない。)
 I wrote the letter for him.
 (私は彼に手紙を書いてやつた。)
 I am for war.
 (私は戦争に賛成だ。)
 This place is noted for its fine scenery.
 (こゝはよい景色で有名である。)
 For all his learning, he has no sense.
 (學問があるにも拘はらず彼は分別がない。)
 I am pressed for money.
 (僕は金に窮してゐる。)
 What are you looking for.
 (君は何をさがしてゐるのか。)

From.

He lives far from the station.
 (彼は停車場から遠い所に住んでゐる。)
 This is quite different from mine.
 (これは僕のとは丸でちがつてゐる。)
 Kindly refrain from smoking.
 (たばこ御遠慮下さい。)
 The dog saved his master from drowning.
 (犬は主人の溺れるのを救助した。)
 Illness prevented me from coming.
 (病氣のため來られなかつた。)
 From all we hear, he must be mad.
 (吾々の聞いてゐる所によれば彼は狂にちがひない。)
 Can you tell a rat from a mouse?
 (君は鼠と二十日鼠との區別が出來ますか。)
 A fool may easily be known from a wise man.
 (愚者は賢人と容易く區別が出来る。)

The operation is quite free from danger.

(その手術は全く危険がない。)

It was translated from English.

(それは英語から翻譯された。)

He did it from a sort of habit.

(彼は一種の習慣からそれをしたのだ。)

They obey only from fear.

(彼等はたゞ恐怖心から服従するだけだ。)

Wine is made from grapes.

(葡萄酒は葡萄から作られる。)

She is fresh from the country.

(彼女は山出しだ。)

In.

Tokyo is the largest city in Japan.

(東京は日本で最大の都市である。)

I shall finish it in a week.

(私は一週間で之を仕上げよう。)

He is in good health.

(彼は健康である。)

The sun rises in the east.

(太陽は東に昇る。)

He was drowned in crossing the river.

(彼は河を渡る時溺れた。)

There is a spittoon in the corner.

(隅に唾壺がある。)

Fish live in the water.

(魚は水中に住む。)

He was just in time.

(彼は丁度時間に間に合った。)

We have much snow in winter.

(冬は雪が多い。)

We arrived in France in April.

(吾々は四月フランスに着いた。)

They fled in all directions.

(彼等は四方八方へ逃げた。)

He is dressed in white.

(彼は白装束をしてゐる。)

He is in full dress.

(彼は盛装してゐる。)

I found a true friend in Mr. Smith.

(私はスミスさんといふ良友を得た。)

This parasol is in fashion.

(この日傘は流行してゐる。)

Into.

The ball fell into the well.

(ボールは井戸の中に落ちた。)

He ran into debt.

(彼は借金した。)

It will come into fashion.

(それは流行して来るだらう。)

Translate it into English.

(それを英語に譯せよ。)

Glass is made into many articles.

(硝子は多くの品物に作られる。)

Heat changes water into steam.

(熱は水を水蒸氣に變へる。)

She burst into tears.

(彼女はわっと泣き出した。)

Of.

This is a map of England.

(これはイギリスの地圖だ。)

This bridge is made of wood.

(この橋は木で出来てゐる。)

I heard of it before.

(私は前にその事を聞いた。)

I am tired of it.

(私はそれに飽きた。)

He died of Cholera.

(彼はコレラで死んだ。)

He is a man of noble character.

(彼は高潔な人格の人である。)

He sent me a box of books.

(彼は私に本の入った箱を送つてよこした。)

I have heard of him.

(私は彼の事を聞いたことがある。)

The pickpocket robbed me of my purse.

(掏摸は私から財布を奪つた。)

He was deprived of his rank.
 (彼は位記を剝奪された。)
 It is very kind of you to do so.
 (さうして下さつて御親切有難う。)
 Of all the mountains, Mt. Fuji is the highest.
 (すべての山の中で富士山が一番高い。)
 The horse is lame of one leg.
 (その馬は足が一本跛だ。)
 Some knives are of silver.
 (ナイフの或るものは銀で出来てゐる。)
 I am of the same opinion.
 (私も同意見です。)
 It is of great importance.
 (それは大變重要です。)
 He was born of a poor family.
 (彼は貧家に生れた。)
 He is hard of hearing.
 (彼は耳が遠い。)
 The city of Tokyo.
 (東京といふ町。)
 The sum of ten yen.
 (金拾圓也。)
 The writings of Plato.
 (プラトンの著作。)
 The discovery of America.
 (アメリカの發見。)

Off.

The ship sank off Suma.
 (船は須磨沖で沈んだ。)
 He fell off his horse.
 (彼は馬から落ちた。)

On (=upon).

I put it on the table.
 (私はそれを卓子の上に置いた。)
 He came on Sunday.
 (彼は日曜に來た。)
 He spoke on education for an hour.
 (彼は一時間教育論をした。)

The post-office is on the right side of the street.
 (郵便局は通の右側にある。)
 On leaving school, he went abroad.
 (學校を出ると直ぐに彼は洋行した。)
 He is dependent on his father.
 (彼は親の脛齧りだ。)
 I live on 100 yen a month.
 (僕は月百圓で暮してゐる。)
 He fell on his face.
 (彼は面を伏せた。)
 I like to play on the flute.
 (私は笛を吹くことが好きだ。)
 This medicine tells on me.
 (この藥は僕に利く。)
 He fell on his back.
 (彼は仰向きに倒れた。)
 He went on an errand.
 (彼は使に行つた。)
 I agreed on that condition.
 (私はその條件で同意した。)

Out of.

A fish cannot live out of the water.
 (魚は水の外では生きられない。)
 She came out of the room.
 (彼女は室から出て來た。)
 He said so out of envy.
 (羨望の念から彼はさう言つた。)
 I paid it out of my own pocket.
 (私は自分の懐中からそれを拂つた。)
 They make many things out of its bone.
 (その骨で色々の物を作る。)
 The book is out of print.
 (その本は絶版だ。)
 You sing out of tune.
 (君の歌は調子が外れてゐる。)
 This is only one instance out of many.
 (これは多くある中の一例に過ぎない。)

Over.

The branches spread **over** the roof.

(枝は屋根の上に擴がつてゐる。)

We discussed the matter **over** wine.

(吾々は酒を飲みながらその件を相談した。)

He is **over** thirty years of age.

(彼は三十才以上だ。)

He has great influence **over** the people.

(彼は民間に大勢力がある。)

Peace reigns **over** the land.

(天下泰平。)

English is spoken all **over** the world.

(英語は世界中に通ずる。)

They jumped **over** a ditch.

(彼等は溝を飛び越えた。)

A river flows **over** its banks.

(河が溢れる。)

Through, throughout.

The Sumida flows **through** the city of Tokyo.

(隅田川は東京市を貫流してゐる。)

He worked hard **through** (or **throughout**) the summer.

(彼は夏中一心に働いた。)

He has passed **through** many troubles.

(彼は色々な困難を経た。)

Through your help, I may succeed.

(君の御援助により僕は成功するかも知れない。)

All this happened **through** your negligence.

(これは皆君の怠慢から起つたのだ。)

He spoke **through** an interpreter.

(彼は通譯を介して話した。)

English is spoken **throughout** the world.

(英語は世界中到る處に話される。)

To.

I went **to** Nara last week.

(僕は先週奈良へ行つた。)

He sat close **to** me.

(彼は私のすぐ側に坐つた。)

He was burnt **to** death.

(彼は焼死した。)

To my joy, he was alive.

(嬉しい事には彼は生きてゐた。)

He gave **this** book **to** me.

(彼は僕にこの本を呉れた。)

Life is often compared **to** a voyage.

(人生は屢、航海に喩へられる。)

It is a quarter **to** three o'clock now.

(今三時十五分前だ。)

They fought **to** the last man.

(彼等は最後の一人になるまで戦つた。)

He is secretary **to** the premier.

(彼は首相の秘書官だ。)

I went **to** see him.

(私は彼に會ひに行つた。)

He will come **to** dinner.

(彼は晚餐に来るだらう。)

They danced **to** the music.

(彼等は音楽に合わせて踊つた。)

Three is **to** nine as nine is **to** twenty-seven.

(三の九に對する比は九の二十七に對する比に等し。)

It is three years **to** a day.

(丁度三年目だ。)

Reading is **to** the mind what food is **to** the blood.

(讀書の心に於けるは猶食物の血に於けるが如し。)

Towards.

They ran **towards** the seashore.

(彼等は海岸の方へ走つた。)

Towards evening the wind died away.

(夕暮頃風は凪いだ。)

He contributed 1,000 yen **towards** the fund.

(彼は基金に金千圓を寄附した。)

He behaved respectfully **towards** his superiors.

(彼は長者に對して丁寧に振舞つた。)

Under.

- We rested **under** a tree.
(吾々は木の下で休んだ。)
- He is **under** twenty years of age.
(彼は二十才以下だ。)
- He studied **under** an Englishman.
(彼は英人について勉強した。)
- The house is **under** construction.
(家は建築中である。)
- He served **under** Nelson.
(彼はネルソンの部下であつた。)
- He travelled **under** the guise of a monk.
(彼は坊主に扮して旅行した。)

Up.

- The monkey ran **up** the tree.
(猿は木にかけ上つた。)
- We sailed **up** the river.
(吾々は船で川を上つた。)

With.

- I went there **with** him.
(私は彼と一緒にそこへ行つた。)
- I saw a monkey **with** a long tail.
(私は長い尾をした猿を見た。)
- They are shivering **with** cold.
(彼等は寒さに震へてゐる。)
- He was killed **with** a pistol.
(彼はピストルで殺された。)
- I quarrelled **with** him.
(僕は彼と喧嘩した。)
- With** this, he went away.
(かう言ひながら彼は出て行つた。)
- He filled the bottle **with** wine.
(彼は罎に酒を詰めた。)
- He got angry **with** me.
(彼は僕に怒つた。)
- They were wild **with** joy.
(彼等は狂喜した。)

With all his faults, he is a great man.

(缺點はあるが彼は偉い人だ。)

I am pleased with the servant.

(私は召使が気に入つてゐる。)

Compare this with that.

(これとそれとを比較して見なさい。)

I am tired with work.

(僕は仕事に疲れてゐる。)

I sympathize with you.

(君に同情する。)

Within.

I shall finish it within a week.

(一週間以内にそれを仕上げよう。)

This is not within my power.

(これは私の力では出来ない。)

I live within five minutes' walk of the school.

(私の家は學校から五分かゝらぬ所にある。)

You must keep within doors.

(君は外出してはいけない。)

Without.

He came without any money.

(彼は無一文でやつて來た。)

They never meet without quarrelling.

(彼等は會へば必ず喧嘩する。)

He went out without saying a word.

(彼は一言も云はずに出て行つた。)

第十章

接續詞

288. 接續詞 (Conjunction) には次の二種ある。

- (1) 等位接續詞 (Co-ordinate Conjunction)——文法上對等の位置にある文又は語句を連結する接續詞。
[例] and, but, or, for.
- (2) 從位接續詞 (Subordinate Conjunction)——從位

的關係にある名詞節、又は副詞節を主文節に連結する接續詞。

[例] if, as, because, since, though.

289. 接續詞はその形式の上に單純なるものの外尙は次の如きものがある。

(1) **成句接續詞** (Phrase Conjunction)——成句より成るもの。

[例] as well as, as soon as, as long as, as if, in case, now that.

(2) **連關接續詞** (Correlative Conjunction)——前後相照應して接續の働をなすもの。

[例] both.....and, either.....or, not only.....but, as.....as, so.....that, no sooner.....than.

290. 等位接續詞の主なるもの。

And.

He and I are of the same age.

(彼と僕とは同年輩です。)

This book is interesting and instructive.

(この本は興味があり且つ爲になる。)

They danced and sang all night.

(彼等は夜通し踊つたり歌つたりした。)

Be honest and always speak the truth.

(正直にして常に眞實を語りなさい。)

Persevere, and you will succeed.

(忍耐せよ、さすれば成功するだらう。)

But.

He is poor, but he is honest.

(彼は貧しいけれども正直である。)

He did not go, but stayed at home.

(彼は行かないで内にゐた。)

It is true he is old, but he is still strong.

(成程彼は年は取つてゐるが未だ嬰鑠としてゐる。)

Or.

Did you go by train or by steamer?

(君は汽車で行つたのか、それとも汽船でか。)

Persevere, or you will fail.

(忍耐しないと失敗するだらう。)

This is a vivid symbol or sign of the greatness of the nation.

(これはその國民の偉大なる事の生きた象徴即ちしるしである。)

As well as.

He as well as you is guilty.

(君ばかりでなく彼も有罪だ。)

He is industrious as well as clever.

(彼は懶巧であるばかりでなく勤勉である。)

Both.....and.

Both the teacher and the boys were glad.

(先生も生徒もどちらも喜んだ。)

Not only.....but (also).

Not only the teacher but (also) the boys were glad.

(先生のみならず生徒も喜んだ。)

He not only made a promise, but also kept it.

(彼は約束したのみならず、約束を守つた。)

Either.....or.

You must learn either French or German.

(君はドイツ語かフランス語かどつちか學ばなければならぬ。)

Neither.....nor.

I know neither French nor German.

(私はドイツ語もフランス語も知らない。)

Whether.....or.

I doubt whether he will succeed or fail.

(彼が成功するか失敗するか疑はしい。)

So.

It is late, so let us go by motor car.

(晚いから自動車で行かう。)

I am hungry.—So am I.

(僕は空腹だ。——僕もさうだ。)

John will go there.—So will James.

(ジョンはそこへ行くだらう。——ゼームスも行くだらう。)

Nor.

He did not go there.—Nor did I.
 (彼はそこへ行かなかつた。—僕も行かなかつた。)
 I am not rich, nor do I wish to be.
 (僕は金持でない、又なりたくもない。)

For.

He will die some day, for all men are mortal.
 (彼はいつか死ぬだらう、その譯はすべて人は死すべきものであるから。)

291. 従位接續詞の主なるもの。**When.**

You will know the blessing of health when you have lost it.
 (健康の有難味は之を失つた時に知られる。)

While.

I met him while I was on a journey.
 (旅行中に彼に會つた。)

Refore.

We shall get to the seashore before the sun rises.
 (日の出る前に吾々は海岸に着くだらう。)

Till (=until).

I waited till the bell rang.
 (私は鐘の鳴るまで待つた。)

After.

He returned home after he had done the work.
 (彼は仕事を済ませてから歸宅した。)

Since.

It is ten years since our school was established.
 (我が校は創立以來十年になる。)
 Since you say so, I must believe it.
 (君がさう云ふからは僕はそれを信ぜざるを得ない。)

As.

Just as I got to the station, I heard the whistle.

(僕は停車場に着いた途端に汽笛の聲を聞いた。)

I did not go as I was ill.

(病氣であつたから僕は行かなかつた。)

I read the letter as I went along.

(僕は歩きながら手紙を読んだ。)

As the air cools, the moisture forms into clouds.

(空気が冷たくなると水分は雲となる。)

Do as I tell you.

(僕の言ふ通りにしなさい。)

Young as he was, he was not unequal to the task.

(年こそ若けれ、彼はその任に堪へないものではなかつた。)

Still weak as I was, I could not work.

(未だ弱つてゐたから私は働くことが出来なかつた。)

Because.

He will succeed because he has worked hard.

(彼は一心に勉強したから成功するだらう。)

Do not despise a man because he is poor.

(貧乏だからとて人を輕蔑するな。)

That.

He wrote me that he had arrived in safety.

(彼は無事に到着したと言つて寄越した。)

Men work that they may earn a living.

(人は生計を立てるために働く。)

I am glad that you have succeeded.

(君が成功したことを喜ぶ。)

I am surprised that you should say so.

(君がそんな事を言ふとは驚きます。)

How is it that you wish to resign?

(何ういふ譯で君は辭職したいのか。)

If.

I will not go, if it rains tomorrow.

(明日雨天ならば僕は行かない。)

I will go (even) if it should rain.

(僕は降つても行きます。)

If he is old, he is strong.

(彼は老人であるが丈夫だ。)

I will ask him if he will try.

(彼は試みるかどうか尋ねて見よう。)

Unless.

You will fail unless you are industrious.

(勉強しないと君は落第するだらう。)

Though.

Though he is poor, he never complains of his lot.

(貧乏だが彼は決して愚痴を言はない。)

Lest.

I shall carry my umbrella lest it should rain.

(雨が降るといけないから傘を持って行かう。)

Take care lest you should fail.

(失敗しないやうに氣をつきなさい。)

So that.

He took medicine so that he might recover.

(彼は全快するやうに薬を服んだ。)

He gave a loud scream, so that we all sprang up.

(彼は大聲で叫んだものだから吾々は皆飛び上った。)

You may go anywhere, so that you avoid bad company.

(悪友を避けるならば何處へ行つてもよろしい。)

In case.

Take your umbrella in case it should rain.

(雨が降るといけないから傘を持って行きなさい。)

In case you are taken ill on the way, this medicine will put you right.

(途中で病氣になつたら、この薬を服むと直る。)

Than.

You are older than I (am).

(君は僕より年を取つてゐる。)

He is less good than (he is) wise.

(彼は賢いが人は善くない。)

As if (=as though).

He speaks English fluently as if he were an Englishman.

(彼は丸でイギリス人のやうに英語を流暢に話す。)

As soon as.

A dog came in as soon as I opened the door.

(戸を開けるや否や犬が一匹入つて來た。)

As long as.

I will take care of you as long as I live.

(私の生きてゐる間君の面倒を見よう。)

So long as.

No one can harm us, so long as we remain friends.

(吾々が仲よくしてゐる限りは誰も吾々を害することが出来ない。)

Anything will do so long as it is interesting.

(面白くさへあれば何でもよろしい。)

As far as.

I went by train as far as Kobe.

(神戸まで汽車で行つた。)

Nothing is to be seen but sand, as far as the eye can reach.

(眼の届く限り砂の外何も見えなかつた。)

So far as.

So far as I am concerned, I do not like it.

(他人はいざ知らず私はそれを好まない。)

Although.....yet.

Although very old, yet he is quite strong.

(年は取つても彼は中々達者です。)

As.....as.

He is as tall as I am.

(彼は私と同じ位の高さです。)